

IV 熊野遺跡 (B区)

遺跡の概要

熊野遺跡は、埼玉県大里郡岡部町大字岡熊野に所在する。遺跡は、洪積扇状地である簡引台地上に展開する集落跡である。遺跡の北側約1kmには、利根川および小山川によって開削された沖積地である妻沼低地が形成されている。遺跡の標高は55m前後で、高燥な台地平坦面に位置する。沖積地との比高差はおよそ18mである。遺跡の範囲は南北約750m、東西約1400mである。遺跡の面積は推定で約1050,000㎡である。全体の地形は平坦であるが緩やかに北東に向かって傾斜をもつ。

遺跡北側は、上宿遺跡、岡遺跡(廃寺)と隣接し、妻沼低地を望む台地先端には中宿遺跡、滝下遺跡が存在する。東側には内出遺跡、白山遺跡、南側には新田遺跡が隣接する。集落の形成時期や存続期間はいずれの遺跡とも同じであることから有機的な関係をもつ遺跡群として考えられる。

この台地上には、古墳時代の集落跡は認められず、むしろ、四十坂浅間山古墳、寅稻荷塚古墳、お手長山古墳、内出八幡塚古墳、前原愛宕塚古墳の大型古墳や四十塚古墳群、白山古墳群などの墓域が沖積地を見下ろす台地縁辺に形成されている。古墳時代の集落は、この沖積地に展開し、砂田前遺跡、岡部条里遺跡、戸森前遺跡などが分布する。

本書で報告する熊野遺跡B区は、県道針ヶ谷岡線の建設に伴う発掘調査であり、調査区は幅10～15m、全長200mほどである。便宜的に本調査区をB区と呼称した。熊野遺跡は、この他、岡部岡中央団地造成に伴う地区をA・C・D区として区分した。

B区は、平成6年11月1日から平成7年1月31日までに調査面積1300㎡の発掘調査を実施し、平成8年10月1日から平成9年1月31日までに調査面積1500㎡の発掘調査を実施した。調査区は、北西方向から10mグリッドを設定し、原点座標はX=23,800、Y=-53,500である。熊野遺跡B区54-14グリッドの座標はX=23,260、Y=-53,360である(第6図)。

熊野遺跡B区

調査の結果、熊野遺跡B区では、奈良・平安時代の竪穴住居跡38軒、掘立柱建物跡18棟、土壇46基、溝跡17条、柵列3列、ピットなどを検出した。

遺構は調査区全体に検出されたが、特に、中央付近から北側に集中する。

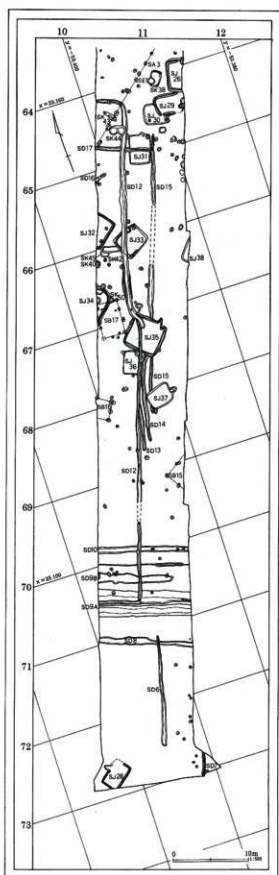
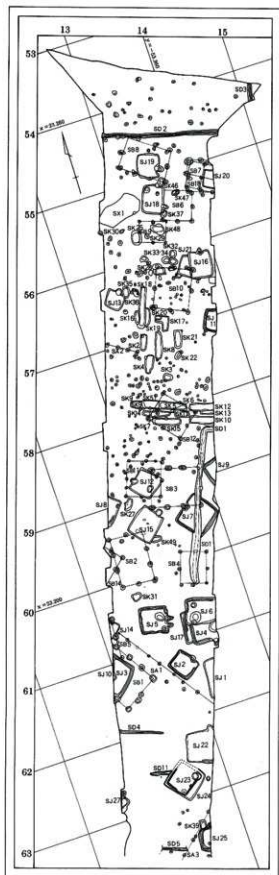
竪穴住居跡は、調査区とほぼ並行して主軸をそろえるものと主軸を45°前後傾けるものに大別される。このことは熊野遺跡全体の傾向としてとらえられ、集落内における土地利用に何らかの規制を認めることが窺える。各住居跡は、重複しない遺構と建て替えなどの理由で同じ軸方向に重複する遺構が存在する。住居規模は一辺が5mを越えるものは第1号住居跡のみで、その他は一辺5m以内である。また、貯蔵穴や床下土壇を伴う住居跡も存在する。カマドは、第5号住居跡では東壁に2基のカマドが併設されていた。

掘立柱建物跡は第18号掘立柱建物跡が総柱建物跡であるが、その他は、いずれも、側柱建物である。また、第1号掘立柱建物跡とその北側および東側には第1号柵列および第3号柵列を検出し、遺跡内に区画をもつ空間が存在する。

土壇や溝跡は中・近世の遺構である。土壇は北側に集中して検出され、土壇墓が主体である。特に長方形の土壇は、調査区に直行して主軸をもつ一群と調査区に平行する主軸をもつ一群が存在する。

遺物は、須恵器は、坏、蓋、壺、甕など多く検出した。各住居跡から検出された須恵器は、胎土などから産地を特定した。奈良時代以前の第23号住居跡はほとんど須恵器をもたない。奈良時代前後の段階になると第25、26、27号住居跡に見られるように末野産を中心に供給を受けていた。奈良時代後半から平安時代初期の第4号住居跡などは末野産と南比企産が供件する。平安時代の第18、29号住居跡などからは末野産須恵器が主体的に供給される。第18号住居跡などでは坏、蓋、高台付椀、はもちろんのこと壺、鉢、甕など全て末野産である。

第7図 熊野遺跡B区全体図



1. 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第8図)

調査区は道路幅のため幅10~15mと狭く東側および西側は調査区域外となり遺構が伸びる。本遺構は、調査区の中央61~12グリッドに位置する。住居跡の北西コーナー部分から西壁にかけて検出し、東側調査区外に伸びる。重複関係はなく、西側に第2号住居跡、北側に第4、6、17号住居跡が近接して位置する。

平面形態は調査区域外にかかるため不明である。残存規模は南北軸長5.12m、東西軸長1.26m、確認面からの深さは20cmである。主軸方位はN-7°-Eでほとんど真北に軸方位をもつ。

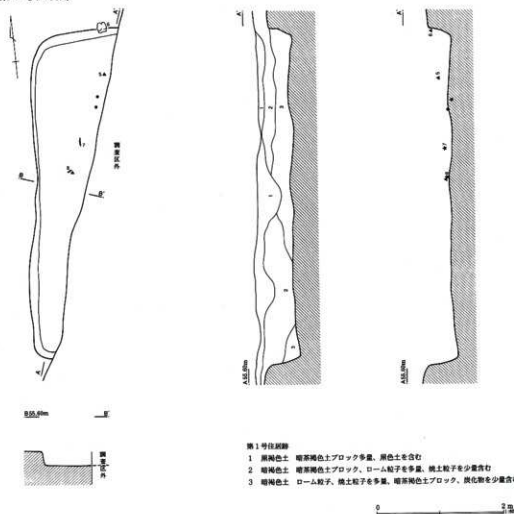
床面は、わずかに凹凸をもち、軟らかく周溝は検出されなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がる。カマ

下は検出できず、貯蔵穴や柱穴も検出できなかった。

覆土は、断面観察により自然堆積であるが、北方向から堆積した様相をもつ。

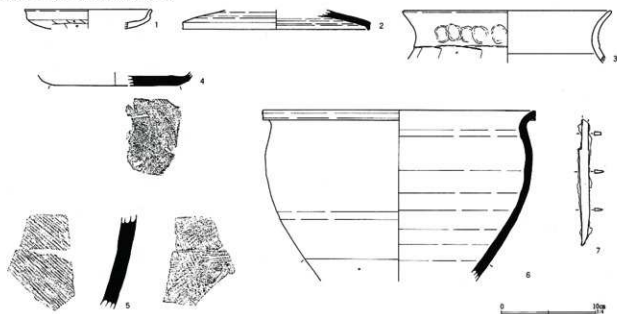
遺物は、土師器環、暗文環、甕、須恵器環、蓋などを検出した。遺物はいずれも小破片であり、全体の器形を留めるものはなかった。1の土師器環は器高浅く、口唇部は屈曲し外に開く、体部の器肉やや厚い。3は「く」の字状口縁変である。口縁部には指頭瓦痕がみられる。図示した須恵器2・4・5・6はいずれも末野産である。2は無返りの蓋であるが口唇部の返しは短い。4は底部外面を手持ちヘラケズりする。6は須恵器鉢である。7は鉄製刀子である。

第8図 第1号住居跡



- 第1号住居跡
- 1 黄褐色土 暗茶褐色土ブロック多量、赤色土を含む
 - 2 暗褐色土 暗茶褐色土ブロック、ローム粘土を多量、焼土粒子を少量含む
 - 3 暗褐色土 ローム粘土、焼土粒子を多量、暗茶褐色土ブロック、炭化物を少量含む

第9図 第1号住居跡出土遺物



第1表 第1号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	土師器刃	(13.4)	(2.0)		ABF	普通	茶褐色	5	覆土		
2	須恵器蓋	(19.9)	(2.1)		B C E F片	良好	黒灰色	20	覆土	未野産	
3	土師器甕	(22.2)	(5.5)		ABF	普通	褐色	10	覆土		
4	須恵器环		(1.4)	(13.8)	A D片	良好	褐灰色	20	覆土	未野産	
5	須恵器甕				A E F片	良好	黒灰色	5	No.6・覆土	未野産	
6	須恵器鉢	(29.0)	(17.9)		A B D E F片	良好	茶灰色	30	No.7・覆土	未野産	
7	鉄製刀子	残存長13.3、幅1.1、厚さ0.4cm、重量15.7g							No.3		
8	石壺	残存長6.3、幅1.8、厚さ0.8cm、重量9.5g							No.2		133図14参照

第2表 第1号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器				鉄・石器			
	环	皿	暗文环	鉢	甕	白付甕	その他	环	蓋	横・鉢	高台环	皿・盤	壺	甕	石器
口縁部(片)	20				16			6	1	1					3
(g)	70				146			15	29	510					25.2
体部(片)	35				122			6						3	
(g)	126				521			26						81	
底部(片)			2		3		1	6							
(g)			34		29		21	122							

第2号住居跡 (第10図)

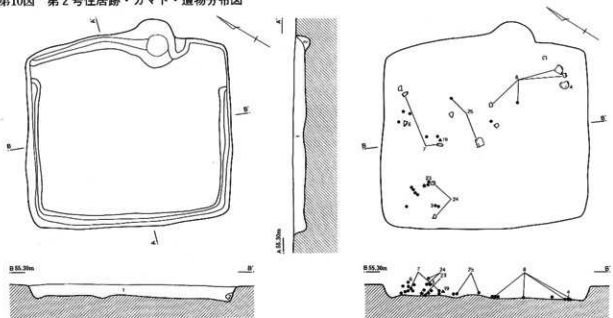
調査区中央の61-11・12グリッドに位置する。本住居跡の東側には第1号住居跡、北側には第4・5・6・17号住居跡が存在する。

平面形態は方形である。規模は主軸長3.30m、副軸長3.06m、深さ26cmである。主軸方位はN-60°-Eである。床面は、ほぼ平坦である。壁溝はほぼ全周するが、北西コーナーで一部途切れ、カマド右側では検出できなかった。カマドは、北壁中央やや東寄りに設

けられ、全長55cm、焼き口幅32cm、焼成部の最大幅は34cm、掘り込みの深さは16.4cmである。袖は、右袖のみ検出された。

遺物は、土師器环、皿、暗文环、甕、甗、須恵器环、蓋、甕を検出した。カマド右側の床直から第11図4、8の环を検出した。須恵器はいずれも未野産である。25の土師器甗は胴部外面を縦方向のヘラケズリ、内面にミガキ調整が見られる。

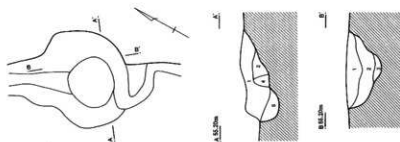
第10図 第2号住居跡・カマド・遺物分布図



第2号住居跡

- 1 暗褐色土 赤褐色土、ローム粒子を多量、焼土粒子、炭化物を少量含む
2 暗褐色土 1層よりやや明るい、ロームブロックを多量含む

0 2m



第2号住居跡 カマド

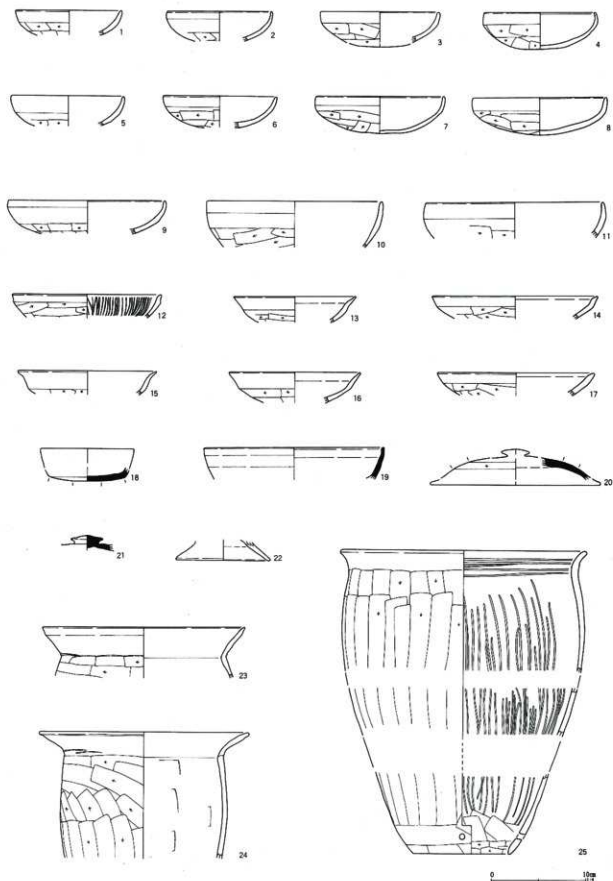
- 1 暗褐色土 粘性有り 焼土粒子、炭化粒子を含む
2 赤褐色土 1層に比して焼土粒子を多量含む
3 黒色土 炭化物を多量に含む 灰層
4 黄褐色土 粘性有り 焼土粒子、黄色粘土を多量含む
5 黒色土 3層に類似 黄色粘土を微量含む

0 1m

第3表 第2号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(11.2)	(2.6)		ABC F	普通	褐色	10	覆土	
2	土師器環	(11.0)	(3.1)		ABC D F	普通	褐色	10	覆土	
3	土師器環	(12.4)	(3.3)		ABC F	普通	褐色	10	No32	
4	土師器環	11.8	3.9		AB F	良好	褐色	80	No3床直	
5	土師器環	(11.9)	(3.2)		ABC F	普通	明褐色	20	覆土	
6	土師器環	(12.0)	(3.4)		ABC	普通	褐色	20	No17	
7	土師器環	(13.4)	(4.0)		B D F	良好	褐色	40	No13・No21・覆土	
8	土師器環	(14.1)	(4.0)		AB D F	普通	褐色	90	No1・2・6床直・No4	
9	土師器環	(16.5)	(3.5)		AB F	普通	明褐色	10	覆土	
10	土師器碗	(18.4)	(4.9)		AB D F	普通	橙褐色	10	覆土一括	
11	土師器環	(18.7)	(3.8)		AB D	普通	褐色	5	覆土	
12	土師器環	(15.7)	(2.5)		AB F	良好	橙褐色	15	覆土	放射状暗文
13	土師器皿	(12.9)	(2.7)		AB D	普通	黒褐色	10	覆土一括	
14	土師器皿	(17.5)	(2.4)		B C F	普通	明褐色	10	覆土	
15	土師器皿	(14.6)	(2.5)		AB	普通	褐色	20	覆土	
16	土師器皿	(13.8)	(3.2)		ABC F	普通	褐色	15	覆土一括	

第11図 第2号住居跡出土遺物



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
17	土師器皿	(16.4)	(2.4)		A B C F	普通	明褐色	10	覆土	
18	須恵器環		(1.4)	8.0	A F 片	普通	淡灰色	50	覆土	未野産へり越し全面回転へり
19	須恵器環	(19.0)	(3.4)		A C	良好	灰色	5	No.20床直	未野産
20	須恵器蓋		(2.3)		A C E F	普通	灰色	15	覆土	産地不明
21	須恵器蓋		(1.6)		A D F	普通	褐灰色	60	覆土	未野産つまみ径3.4cm
22	土師器台付甕		(2.2)	(9.9)	A B C D	普通	暗褐色	20	覆土	
23	土師器甕	(21.4)	(5.3)		A B D F	普通	褐色	5	No.24	
24	土師器甕	(21.9)	(13.3)		A B D F	普通	茶褐色	15	No.22・No.34・覆土	
25	土師器甕	(25.8)	(32.0)	(10.4)	A B D F	普通	褐色	5	No.9・10・SJ-17-一括	胴部内面、口縁部内面磨き

第4表 第2号住居跡出土遺物計量表

計量単位	土師器							須恵器					鉄石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	台付甕	その他	環	蓋	鉢・鉢	高台環	皿・盤		壺
口縁部(片)	68	12	9			1		5						
(g)	768	112	45			147		22						
体部(片)	125		14		196	4		1	2					4
(g)	515		59		1293	131		3	45					57
底部(片)					5	1	1							5
(g)					70	70	15							95

第3号住居跡 (第12図)

調査区中央の62-10・11グリッドに位置する。本住居跡の西側は調査区外となり遺構が伸びる。重複する遺構は、本住居跡の中央に切りこんで第10号住居跡が存在する。北側には第14号住居跡が存在する。

平面形態は不明であるが、検出された東壁は長く、残存規模は、南北軸長5.20m、東西軸長3.64m、深さ52cmであり、本遺跡の中でも、かなり規模の大きな竪穴住居跡と考えられる。主軸方位はN-47°-Eである。

床面はほぼ平坦であるが、西側調査区外際で検出された、第10号住居跡の掘りこみの方がやや深く、本住居跡の床面を壊している。壁は北壁と東壁の一部を検出し、垂直に立ち上がる。壁溝は東壁のみ検出し、北東コーナー部分で切れている。壁溝の規模は、幅10cm、深さ5cm前後である。

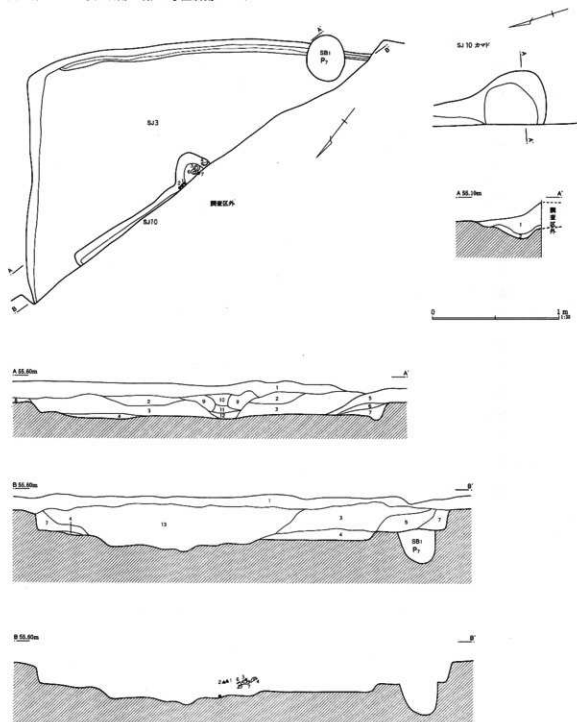
覆土は、南側から流入する断面観察の結果、黒褐色の第2・3層は自然堆積と見られる。第4層は貼り床である。第5層は北側から流入土で、ローム粒子およびロームブロックを多量に含む。第6・7層は三角堆積土と見られる。西寄りには重複する第10号住居跡の覆土および、カマドの痕跡を確認した。第13層は、茶褐色土ブロックが多量に含まれる層で第10号住居跡の覆土である。

本住居跡に伴うカマド、柱穴は検出できなかった。

遺物は、覆土中から土師器環、皿、暗文環、甕、須恵器環、蓋、甕を検出した。図示した須恵器蓋の1は産地不明である。2、3は胎土から判断して未野産である。4は推定口径10.5cmの小型の北武蔵型環である。5は器高の浅い皿である。体部外面は口縁部までヘラケズリが見られ、未調整部分を残さない。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸びて立ち上がり、口唇部の屈曲は弱く、口唇部内面に面をもつ。

出土した遺物から時期を判断すると、本住居跡は概ね7世紀末から8世紀初頭段階と考えられ、重複する第10号住居跡は9世紀後半段階と考えられ、約150年ほどの時間差が認められる。この時間差が建物の軸方向や占地を意識させないものと捉えられる。また、本遺跡では、第3号住居跡とほぼ同じ軸方向をもつ第2、12、14、15、17、18、19、28、32、33、34、35、37号住居跡などと、第10号住居跡とほぼ同じ軸方向をもつ第4、5、6、11、16、17、18、19、20、22、25、26、29、30、31、36号住居跡に分かれる傾向をもつ。これらは時期差であり、集落全体におよぶ規制の存在として考えることができる。

第12図 第3・10号住居跡・第10号住居跡カマド



第3・10号住居跡

- 1 茶褐色土 暗茶褐色土を多量、ローム粒子を少量含む
- 2 茶褐色土 ローム粒子、ロームブロック、暗茶褐色土を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量、焼土粒子、炭化物を少量含む
- 4 茶褐色土 ロームブロックを多量、茶褐色土を含む（陥り床）
- 5 黒色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 6 黒色土 ローム粒子を少量含む
- 7 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- 8 褐色土 ソフトロームへの移行層
- 9 灰白色土 白色粘土を含む

- 10 暗褐色土 白色粘土粒子、ローム粒子を少量含む
- 11 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- 12 暗褐色土 焼土粒子を少量含む
- 13 暗褐色土 茶褐色土ブロック状に多量、ローム粒子多量、ロームブロック少量含む

第10号住居跡 カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む
- 2 茶褐色土 ソフトローム、ロームブロックを多量、焼土ブロックを少量含む

0 1m

第13図 第3号住居跡出土遺物



第5表 第3号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器蓋	(16.0)	(1.7)		ABD	不良	淡褐色	5	覆土	産地不明
2	須恵器蓋	(18.0)	(0.9)		ACD片	不良	淡灰色	5		木野産
3	須恵器蓋	(18.0)	(1.2)		AD片	普通	灰褐色	10	覆土	木野産
4	土師器環	(10.1)	(2.4)		ABCDEFGHI	普通	褐色	20		
5	土師器皿	(16.1)	(2.1)		ABCDEFGHI	良好	明褐色	10		

第6表 第3号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器						鉄石器			
	環	皿	暗文杯	鉢	甕	甕	台付甕	その他	環	蓋	鉢・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕		
口縁部(片)	14	1					13		8	4						1	1
(g)	70	12					400		30	27						50	5
体部(片)	17		6				119		5							3	
(g)	100		30				720		20							41	
底部(片)							1		1								
(g)							41		2								

第10号住居跡 (第12図)

調査区中央の61-10・11グリッドに位置する。本住居跡は第3号住居跡の覆土中に検出された。西側の調査区外に沿ってわずかに検出した。

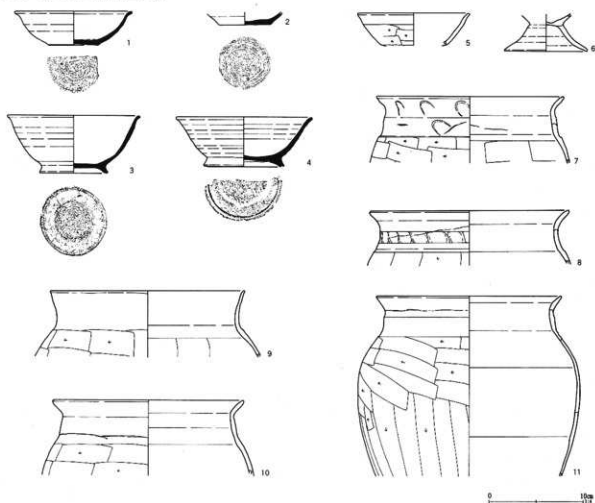
平面形態や規模は不明であるが、検出した東壁の規模は2.60m、深さ13cmである。主軸方位はN-75°-Wである。

カマドの一部が残存し、断面観察による第9～12層が該当する。第9層は両袖の白色粘土である。第10層は煙道部分と考えられ、第11層は焼土粒子、焼土ブロックを多量に含み、燃焼部の床と見られ、第12層はカ

マドの掘り方部分と判断した。

遺物は、図示した須恵器はいずれも木野産である。1、2は環、3、4は高台付環である。5は土師器環で体部外面をヨコケズリする逆台形の平底環である。7、8、10、11は「コ」の字状口縁甕である。口縁部外面中央に指頭による圧痕を残し、上下はヨコナデを施す。口縁部に輪轡み痕が残る。胴部外面は上半を横方向のヘラケズリ、下半は下方向のヘラケズリを施す。内面はヨコナデ調整である。9は口縁部が直線的に外方に開いて立ち上がり、壺の可能性が考えられる。

第14図 第10号住居跡出土遺物



第7表 第10号住居跡出土遺物観察表 (第14図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器環	(12.4)	3.6	(5.5)	ABF片	良好	灰色	50	No5	末野産
2	須恵器環		(1.4)	5.5	ACF片	良好	暗灰色	80	No6	末野産
3	須恵器高台環	(13.9)	(6.0)	7.2	ABF片	良好	灰色	60	No2	末野産
4	須恵器高台環	(14.3)	5.2	(8.5)	A F片	良好	青灰色	50	No1	末野産
5	土師器環	(11.8)	(3.5)		ABDF	普通	褐色	15	#71'付近	末野産
6	土師器台付甕		8.6	(4.0)	ADF	普通	褐色	80	No3	内面に朱?
7	土師器甕	(19.8)	(7.0)		ABDF	普通	褐色	15	No4・覆土	末野産
8	土師器甕	(20.5)	(7.0)		ABCDEF	普通	褐色	10	上層 覆土	
9	土師器甕	(20.2)	(8.0)		ABDE	普通	褐色	10	覆土	
10	土師器甕	(21.0)	(5.7)		ADEF	普通	茶褐色	10	覆土	
11	土師器甕	(19.6)	(19.0)		ABCDEF	普通	褐色	30	覆土	

第8表 第10号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器								須恵器					鉄・石器		
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環		皿・盤	釜
口径(片)	3				6					2	1		2			
(g)	22				429					53	12		197			
体部(片)	2				19											1
(g)	5				121											24
底部(片)								1		1						
(g)								66		41						

第4号住居跡(第15区)

調査区中央の60-12グリッドに位置する。東側は調査区外となり遺構が伸びる。本住居跡は、第6・17号住居跡と重複関係をもち、第17号住居跡、第4号住居跡、第6号住居跡の順に建て替えが行われていた。また、西側にはほぼ軸を揃えた第5号住居跡、南側にも軸を揃えた第1号住居跡と軸方向の異なる第2号住居跡が位置する。

本住居跡は、第17号住居跡を壊して造られていた。建物位置は、軸方向を合わせながら、わずかに北東方向にずらし築かれていた。カマドの取り付く南壁は新たに掘りこみ、西壁は第17号住居跡の覆土をローム粒子やロームブロックを主体とした土で埋め戻して造っていた。北壁は、新たに切りこまれた第6号住居跡によって壊されていた。東側は調査区域外となる。

平面形態は方形と推定される。残存規模は主軸長3.40m、副軸長2.80m、深さ39cmである。主軸方位はS-8°-Wである。

床面は、地山のローム面を利用し、ほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、検出した部分には幅24-32cm、深さ8cmほどの周溝が巡る。

第6号住居跡(第15区)

調査区中央の60-12グリッドに位置する。東側は調査区外となり遺構が伸びる。本住居跡は、第4・17号住居跡と重複関係をもち、第17号住居跡、第4号住居跡、第6号住居跡の順に建て替えが行われていた。第4号住居跡の北側に位置する。

本住居跡は、第4・17号住居跡を壊して造られていた。建物位置は、軸方向をわずかに北東方向にずらし造られていた。東側は調査区域外となる。

平面形態は長方形と推定される。残存規模は南北軸長3.35m、東西軸長4.10m、深さ48cmである。主軸方位はN-74°-Wである。

床面は、地山のローム面を利用し、ほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、検出した北壁から西壁部分には幅8-12cm、深さ4cmほどの周溝が巡る。

住居跡南西コーナー付近に床下土壌を検出した。形

カマドは、南壁に設けられ、西側は調査区外となる。規模は全長78cm、焚き口幅70cm、掘り込みの深さは46cm。焚き口部は床面から同じレベルで移行し、燃焼部から煙道部の境には15cmの段をもって立ち上がる。

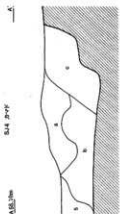
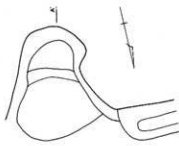
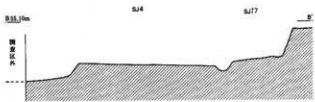
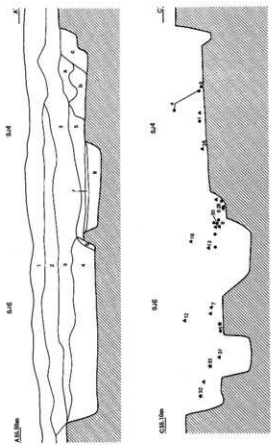
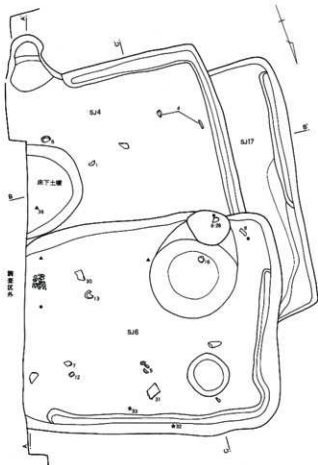
カマド前面の住居跡中央付近に床下土壌を検出した。覆土の堆積は第7・8層である。上面の第7層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土、第8層は焼土粒子、灰を主体とする。カマドの構造上、灰溜りの掘りこみがないうために、前面の土壌内に灰が存在するの、床下土壌と見るより、カマドの機能を考えるべきか堆積土が特殊である。柱穴や貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、第16-17区に示した。計量した総遺物は土師器環、皿、暗文環、鉢、甕、甌、瓶、台付甕、須恵器環、蓋、高台付環、壺、甕である。カマド内からは、46-48の土師器環と49の未野産須恵器の蓋、鉄製刀子の破片を検出した。覆土中から検出した須恵器は未野産と南比企産が混在する。土師器環の1-7はカマド内から検出した環と同様に体部に未調整部分を残す丸底気味の北武蔵型環である。暗文環の破片も多く検出され、13は内面底部に螺旋暗文、体部に放射状暗文が施されている。

態は逆台形状である。規模は径14cm、深さ42cmである。カマドや貯蔵穴、柱穴は検出できなかった。

遺物は、第18-19区に示した。計量した総遺物は土師器環、皿、暗文環、鉢、甕、甌、瓶、台付甕、須恵器環、蓋、鉢、高台付環、壺、甕、甌である。須恵器は、6、7は産地不明、他はいずれも未野産である。6はつまみ部のリングが高く細い、7、8、10は扁平つまみである。11-18は須恵器環である。16は体部下端から底部外周にかけて回転ヘラケズリを施す。17は回転ヘラ起こしである。19は脚部破片とみられ、器種は高盤とした。土師器環の2、3は、器高浅く口径やや大きくする。底部は平底気味となり口縁部は屈曲をもって立ち上がる。4は暗文環である。底部内面に螺旋暗文、体部に放射状暗文を刻線によって表現する。20、23、26は台付甕の口縁部と考えられる。また、24は甌とし

第15図 第4・6・17号住居跡・第4号住居跡カマド



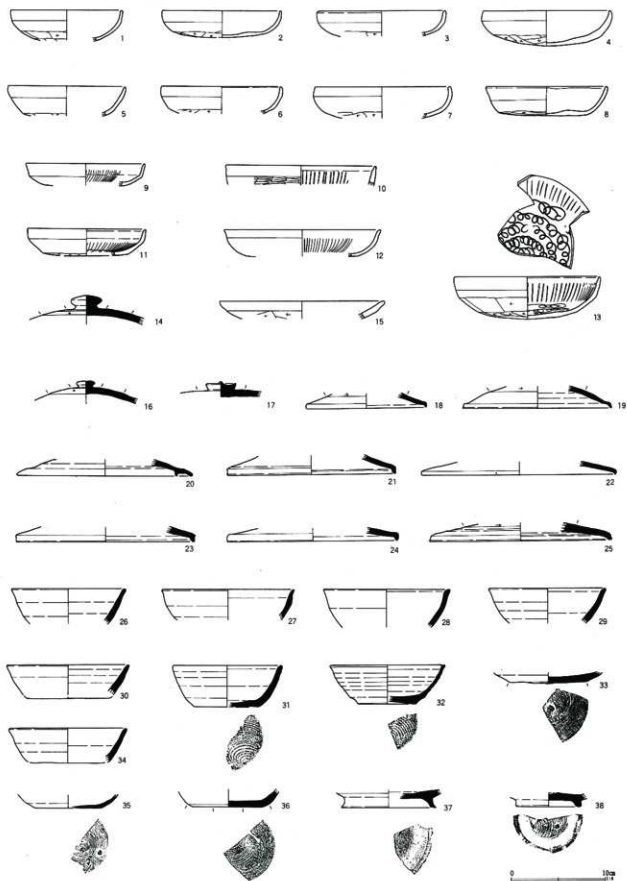
第4・6号住居跡

- 1 黒褐色土 ロームブロック、褐色土を含む
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量、ローム粒子、焼土粒子を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロック、焼土粒子を少量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物を多量、ロームブロック、焼土ブロックを少量含む
- 6 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- 7 赤褐色土 焼土粒子を多量含む
- 8 灰赤色土 しまり出し、粘性有り 焼土粒子、灰を主体

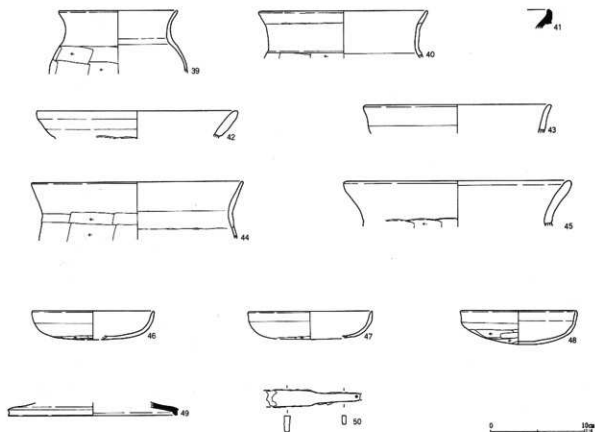
第4号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多量、ローム粒子を少量含む
- b 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- c 黒褐色土 焼土粒子、ロームブロックを含む

第16図 第4号住居跡出土遺物(1)



第17図 第4号住居跡出土遺物(2)



第9表 第4号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器								須恵器						鉄石器	
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	白付甕	その他	坏	蓋	椀・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
計量値																
口縁部(片)	153	4	9	13	52	1	1		61	30				5		
(g)	975	27	115	77	470	20	10		340	369				60		
体部(片)	386		15	1	589				38						29	
(g)	930		67	20	2408				135						1335	
底部(片)					17		3		27			2		1		
(g)					183		22		345			57		50		

第10表 第4号住居跡カマド出土遺物計量表

器種	土師器								須恵器						鉄石器	
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	白付甕	その他	坏	蓋	椀・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
計量値																
口縁部(片)	7				7				1						1	
(g)	141				37				7						16	
体部(片)					80										1	
(g)					380										20	
底部(片)					2											
(g)					63											

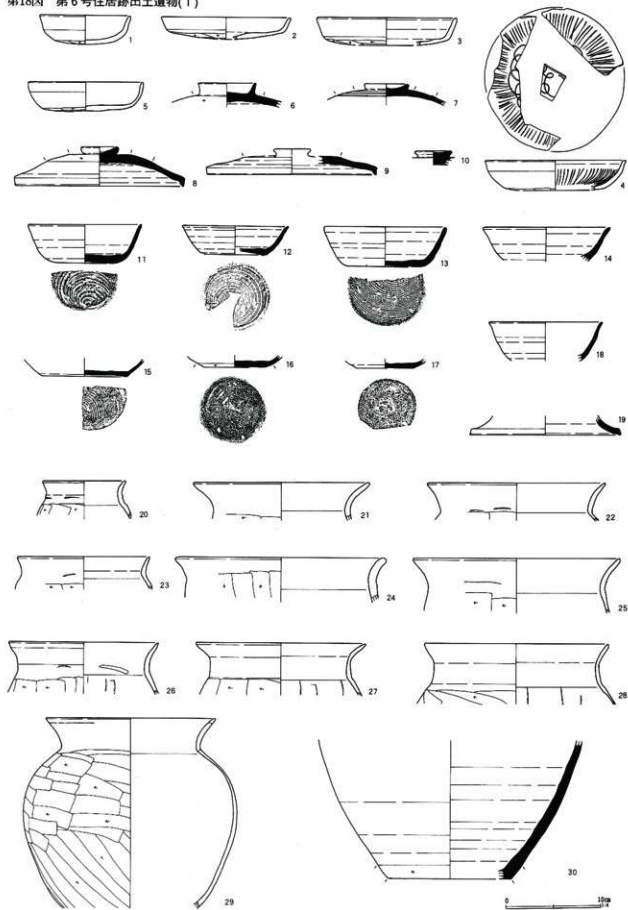
た。29は口縁部が外反し、胴部は球状であることから壺とした。30、31は未野産の須恵器甕である。32は鉄滓の破片である。33は鉄織である。31~33の遺物は本

住居跡の北壁際から検出された。検出したレベルを見ると、北側から住居廃絶後に、壁際に三角堆積した覆土の上面に投げ捨てられた遺物と考えられる。

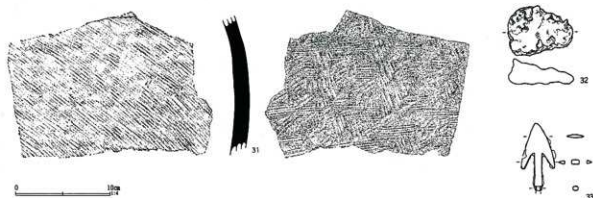
第11表 第4号住居跡出土遺物観察表 (第16・17図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	土師器環	(11.8)	(3.2)		ABDF	普通	黒褐色	40	No4		
2	土師器環	(12.6)	(2.8)		ABDF	普通	暗褐色	30	覆土		
3	土師器環	(13.6)	(2.7)		ABD	普通	暗褐色	20	覆土		
4	土師器環	(13.5)	3.7		ABDF	普通	赤褐色	80	No1・No2		
5	土師器環	(12.4)	(3.1)		ABDF	普通	暗褐色	30	覆土		
6	土師器環	(12.8)	(2.8)		ABDF	普通	黒褐色	25	覆土		
7	土師器環	(14.2)	(3.3)		ABDF	普通	茶褐色	15	上層		
8	土師器環	12.8	3.1	9.8	ABD	普通	褐色	100	No5		
9	土師器環	(12.6)	(2.3)		ABDF	普通	暗褐色	15	上層	暗文	
10	土師器環	(15.8)	(2.1)		ABDF	良好	淡褐色	10	上層	暗文	
11	土師器環	(12.5)	(2.8)		ABDF	普通	明褐色	40	覆土	暗文	
12	土師器環	(16.6)	(2.8)		ABD	普通	黒褐色	10	上層	暗文	
13	土師器環	(15.4)	4.4		ABDF	普通	褐色	30	覆土	暗文	
14	須恵器蓋		(3.1)		ADF	普通	赤褐色	20	上層	産地不明 つまみ径3.3cm	
15	土師器皿	(17.4)	(1.9)		ABDF	普通	明褐色	15	上層		
16	須恵器蓋		(2.4)		ACDF片	普通	灰色	30	上層	未野産 つまみ径1.9cm	
17	須恵器蓋		(1.7)		AD針	良好	灰色	30	覆土	南比金産 つまみ径3.2cm	
18	須恵器蓋	(12.8)	(1.5)		A針	普通	灰色	20	上層	南比金産	
19	須恵器蓋	(15.8)	(2.3)		AD針	良好	灰褐色	20	覆土	南比金産	
20	須恵器蓋	(18.7)	(1.8)		ACDF片	普通	褐灰色	10	覆土	未野産	
21	須恵器蓋	(17.9)	(2.0)		ACDF片	普通	灰色	15	覆土	未野産	
22	須恵器蓋	(20.6)	(1.4)		AD針	不良	淡灰色	10	上層・覆土	南比金産	
23	須恵器蓋	(18.8)	(1.6)		ACDF片	普通	暗灰色	10	覆土	未野産	
24	須恵器蓋	(18.0)	(1.4)		ACDF片	普通	淡灰色	5	上層	未野産	
25	須恵器蓋	(19.4)	(1.9)		ACDF片	普通	灰色	10	覆土	未野産	
26	須恵器環	(12.0)	(3.7)		ACDF片	普通	灰色	5	上層	未野産	
27	須恵器環	(13.9)	(3.2)		ADF片	普通	灰色	5	覆土	未野産	
28	須恵器環	(13.3)	(4.0)		AD針	普通	灰色	10	上層	南比金産	
29	須恵器環	(12.3)	(3.7)		AD針	普通	灰色	10	上層	南比金産	
30	須恵器環	(12.8)	(3.2)		ACDF片	普通	淡褐灰色	15	上層	未野産	
31	須恵器環	(11.4)	4.4	(7.0)	ACDF片	不良	褐灰色	30	覆土	未野産	
32	須恵器環	(12.1)	4.1	(6.3)	ACDF片	不良	褐灰色	20	上層	未野産	
33	須恵器環		(1.2)	(8.3)	ADF片	普通	淡灰色	20	覆土	未野産	
34	須恵器環	(12.3)	(3.7)		ACDF片	不良	褐灰色	20	上層・覆土	未野産	
35	須恵器環		(1.4)	(7.0)	ACDF片	不良	褐灰色	20	上層	未野産	
36	須恵器環		(1.9)	(7.6)	ACDF片	普通	灰色	30	No6	未野産	
37	須恵器高台環		(1.9)	(10.0)	ACDF片	普通	灰色	10	上層	未野産	
38	須恵器高台環		(1.5)	6.8	CDF片	不良	褐色	30	覆土	未野産	
39	土師器小型甕	(12.5)	(6.7)		ABCDEF	普通	茶褐色	20	上層		
40	土師器甕	(17.7)	(5.0)		ABCDEF	普通	茶褐色	10	上層		
41	須恵器壺				ACDF片	普通	茶灰色	5	覆土	未野産	
42	土師器甕	(21.2)	(2.9)		ABCD	普通	褐色	5	上層		
43	土師器鉢	(19.4)	(3.1)		ABDF	普通	明褐色	10	上層		
44	土師器甕	(22.4)	(6.1)		AD	普通	褐色	10	覆土		
45	土師器甕	(23.8)	(4.8)		ADF	普通	橙褐色	5	上層		
46	土師器環	(12.8)	(3.0)		ABCDEF	普通	茶褐色	30	お7 ⁺		
47	土師器環	(13.1)	(2.9)		ABCDEF	普通	褐色	10	お7 ⁺		
48	土師器環	(12.3)	3.6		ABCDEF	普通	橙褐色	50	お7 ⁺		
49	須恵器蓋	(17.8)	(1.4)		ADF片	普通	褐灰色	5	お7 ⁺	未野産	
50	用途不明鉄製品	残存長 9.3、幅 1.8、厚さ 0.6cm、重量 46.2g								お7 ⁺	

第18图 第6号住居跡出土遺物(1)



第19図 第6号住居跡出土遺物(2)



第12表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第18・19図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	土師器環	(9.5)	3.1		ACDE	普通	褐色	30	覆土		
2	土師器皿	(13.6)	(2.3)	(12.0)	ABCDEF	普通	褐色	20	覆土		
3	土師器皿	(14.7)	(2.9)		ABD	普通	褐色	10	覆土		
4	土師器環	(14.9)	(3.1)		ADF	良好	橙褐色	40	床下土塊・覆土	内面黒線放射状暗文	
5	土師器環	12.0	3.0		ABCDEF	良好	明褐色	80	No4		
6	須恵器蓋		(2.6)		ACDF	普通	暗灰色	50	No20	産地不明つまみ径(6.2)cm	
7	須恵器蓋		(2.2)		ACDF	普通	灰色	50	No7	産地不明つまみ径4.7cm	
8	須恵器蓋	(17.9)	4.1		ACDF片	普通	灰色	30	No17・覆土	未野産つまみ径4.0cm	
9	須恵器蓋	(17.9)	(1.9)		ACDF	普通	灰色	20	覆土	未野産	
10	須恵器蓋		(1.5)		ACDF片	普通	褐灰色	50	覆土	未野産つまみ径3.9cm	
11	須恵器環	(11.9)	4.1	(6.0)	ADEF片	普通	灰色	25	床下土塊	未野産	
12	須恵器環	(11.2)	3.0	6.2	ADE	良好	青灰色	45	No6・覆土	未野産	
13	須恵器環	12.8	4.2	8.2	ADE	普通	褐灰色	75	No13	未野産	
14	須恵器環	(13.3)	(3.7)		AEP片	良好	灰色	10	覆土	未野産	
15	須恵器環		(2.0)	(8.8)	AEP片	良好	暗灰色	5	覆土	未野産	
16	須恵器環		(1.2)	(6.6)	ADF片	普通	黄灰色	25	No16	未野産	
17	須恵器環		(1.0)	6.2	CDEF片	普通	乳白色	15	覆土	未野産ヘラ越し	
18	須恵器環	(11.9)	(4.1)		AEP片	普通	灰色	5	覆土	未野産	
19	須恵器高盤		(2.0)	(16.0)	ACDF片	不良	褐色	10	覆土	未野産	
20	土師器小型甕	(8.7)	(4.1)		ABCDEF	普通	褐色	10	覆土		
21	土師器甕	(18.6)	(4.0)		ABCDE	普通	明褐色	10	覆土		
22	土師器甕	(18.8)	(4.0)		ABCDE	普通	暗褐色	10	覆土		
23	土師器台付甕	(13.8)	(3.5)		ABCDEF	普通	褐色	10	覆土		
24	土師器瓶	(22.0)	(4.7)		ABCDE	普通	明褐色	5	覆土		
25	土師器甕	(21.9)	(5.8)		ABCDEF	普通	褐色	5	覆土		
26	土師器甕	(15.9)	(5.4)		ABCDE	普通	淡褐色	20	覆土		
27	土師器甕	(18.0)	(5.5)		ABCDEF	普通	褐色	10	床下土塊		
28	土師器甕	(19.5)	(6.4)		ABCDEF	普通	褐色	15	No2床直		
29	土師器甕		17.9	(20.1)	ABCDEF	普通	褐色	50	覆土		
30	須恵器甕		(14.6)	(13.1)	ACDF片	普通	淡褐色	30	No12	未野産	
31	須恵器甕				ACD片	普通	青灰色	10	No3	未野産 内面青海波	
32	鉄滓	残存長5.2, 幅7.0, 厚さ2.7cm, 重量94.7g							No2		
33	鉄ぞく	残存長7.1, 幅3.6, 厚さ0.5cm, 重量19.8g							No5		

第13表 第6号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器								須恵器						鉄・石器	
	坏	皿	咄文坏	鉢	甕	甔	台付甕	その他	坏	蓋	碗・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	82	1	3	1	83	1	3		39	10	1					2
(g)	470	5	90	11	789	35	30		475	185	45					115
体部(片)	130		20		503				20	10				5	19	
(g)	445		90		1845				65	125				60	2140	
底部(片)					6				17	3		3	1		1	
(g)					65				260	210		45	55		245	

第17号住居跡 (第15図)

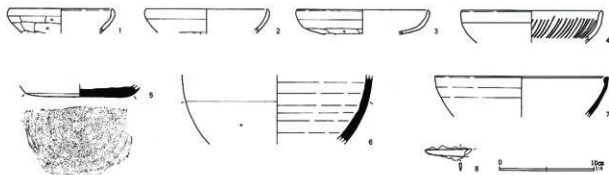
調査区の中央66-12グリッドに位置する。西側に第4・6・17号住居跡が重複し切り込まれていた。

平面形態や規模は不明である。検出した東壁は4.60m、深さは46.5cmである。主軸方位はN-30°-Eである。

床面は平坦で、西側の第4号住居跡の床面とほぼ同第20図 第17号住居跡出土遺物

じ高さである。壁はほとんど垂直に立ち上がり、周溝を伴う。貯蔵穴や柱穴は検出できなかった。

遺物は、土師器坏、甕、甔、須恵器坏、蓋、壺、甕を検出した。6は秋間産須恵器壺、5は底部外面を全面回転ヘラケズリした末野産坏、7は口唇部内面に彫らみをもつ末野産碗、8の鉄製刀子などである。



第14表 第17号住居跡出土遺物観察表 (第20図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器坏	(11.0)	(11.0)	(2.6)	ABCDEF	普通	褐色	10	確認面	放射状咄文 末野産 秋間産 末野産 切先
2	土師器坏	(13.0)	(13.0)	(2.6)	AD	普通	褐色	10	確認面	
3	土師器坏	(13.0)	(13.0)	(2.6)	ACDF	普通	褐色	5	一括	
4	土師器坏	(14.8)	(14.8)	(3.5)	ABCDEF	普通	橙褐色	10	確認面	
5	須恵器坏		(1.4)	(11.6)	ACDF片	普通	褐灰色	40	確認面	
6	須恵器長頸壺				AD	良好	淡灰色	20	一括	
7	須恵器鉢	(18.4)	(4.3)		ACDF片	良好	灰色	5	確認面	
8	鉄製刀子	残存長5.0、幅0.8、厚さ0.3cm、重量3.4g							一括	

第15表 第17号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器								須恵器						鉄・石器	
	坏	皿	咄文坏	鉢	甕	甔	台付甕	その他	坏	蓋	碗・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	11		2		7	1			3		1					1
(g)	44		12		47	64			7		8					3
体部(片)	19		1		47				3	1				1	4	
(g)	76		4		248				13	15				69	70	
底部(片)					2				4							
(g)					28				118							

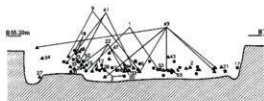
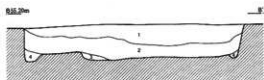
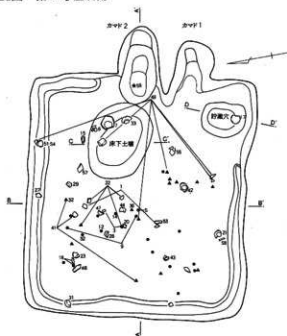
第5号住居跡(第21図)

調査区中央の60-11グリッドに位置する。本住居跡の東側には第4・6・17号住居跡が存在する。

平面形態は方形である。規模は主軸長3.30m、副軸長3.06m、深さ26cmである。主軸方位はN-80°-Wである。

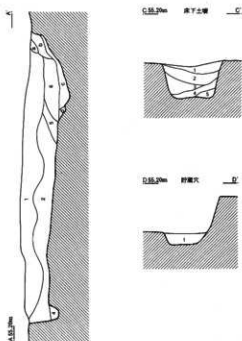
床面は、ほぼ平坦である。壁溝はほぼ全周するが、貯蔵穴のある南東コーナーで途切れる。貯蔵穴の形態は楕円形で、規模は長軸70cm、深さ12cmである。

また、カマド2の前面に床下土壌を検出した。形態は第21図 第5号住居跡



円形である。規模は長径126cm、床面からの深さ55cmである。

カマドは、東壁の中央(カマド2)とその南寄り(カマド1)の2箇所を検出した。カマド1の規模は、全長85cm、焚き口幅65cm、焼成部の最大幅は60cm、掘り込みの深さは6cmである。カマド2の規模は全長122cm、焚き口幅58cm、焼成部の最大幅は65cm、掘り込みの深さは25cmである。新旧関係は不明である。カマド1の左袖とカマド2の右袖は共有され残存した。



第5号住居跡

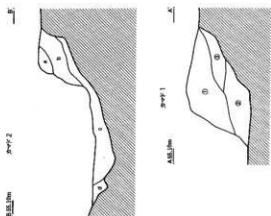
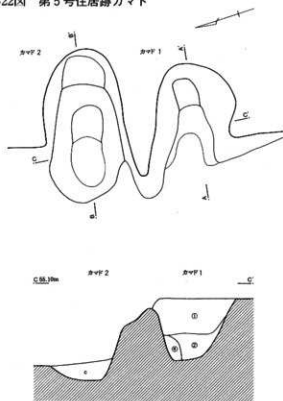
- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子、ロームブロック、炭化物を少量含む
 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロック、焼土粒子、炭化物を少量含む
 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量、焼土ブロックを少量含む
 4 茶褐色土 ソフトローム粒子、ロームブロックを多量含む
 5 暗褐色土 ロームブロックを多量、白色粘土ブロック、炭化物を少量、焼土粒子を含む
 6 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子、炭化物を多量、焼土ブロックを少量含む
- 第5号住居跡 床下土壌
- 1 黒褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子、ロームブロックを少量含む
 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを含む
 3 茶褐色土 ソフトローム、ローム粒子、ロームブロックを多量含む
 4 黒褐色土 ロームブロックを多量、灰褐色粘土ブロックを含む
 5 黒色土 ローム粒子を多量含む
- 第5号住居跡 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む

0 2m

遺物は、土師器環、皿、暗文環、甕、甌、須恵器環、蓋、甕などを覆土中から多量に検出した。土師器環14は体部内面に「大」の墨書、17は窠描きによる「卍」、

18は内底面に螺旋、体部にやや幅広い放射状暗文を施す。須恵器は末野産と南比企産が混在する。55は末野産の平瓶である。

第22図 第5号住居跡カマド



第5号住居跡 カマド1

- ① 暗褐色土 赤褐色土を多量含む
- ② 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多量含む
- ③ 暗褐色土 ローム粒子、焼土したロームブロック、焼土ブロックを多量含む
- ④ 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む

第5号住居跡 カマド2

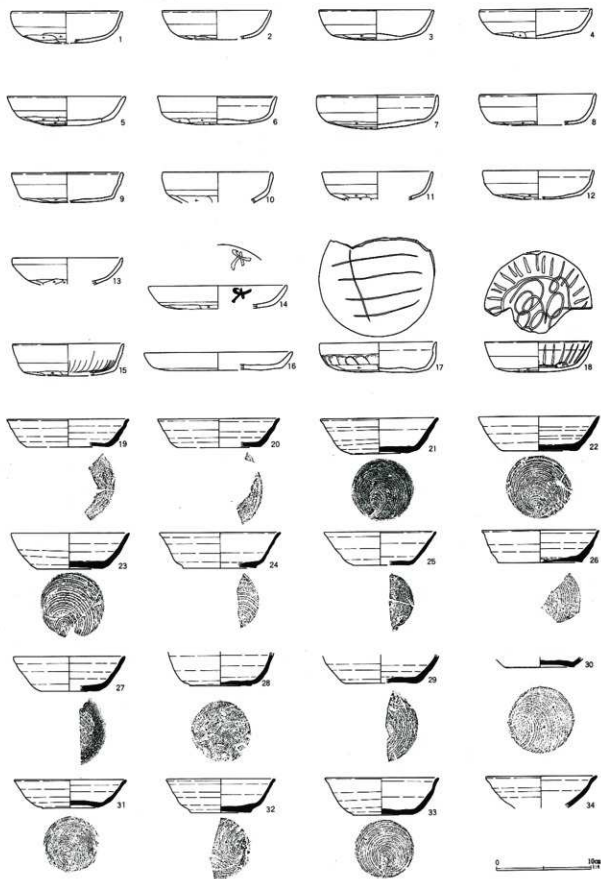
- a 赤褐色土 ソフトブロック、ロームブロックを多量含む
- b 赤褐色土 ローム粒子、炭化物を少量含む
- c 暗褐色土 焼土ブロック、炭化物を少量、ロームブロックを少量含む
- d 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多量含む

0 1.0m

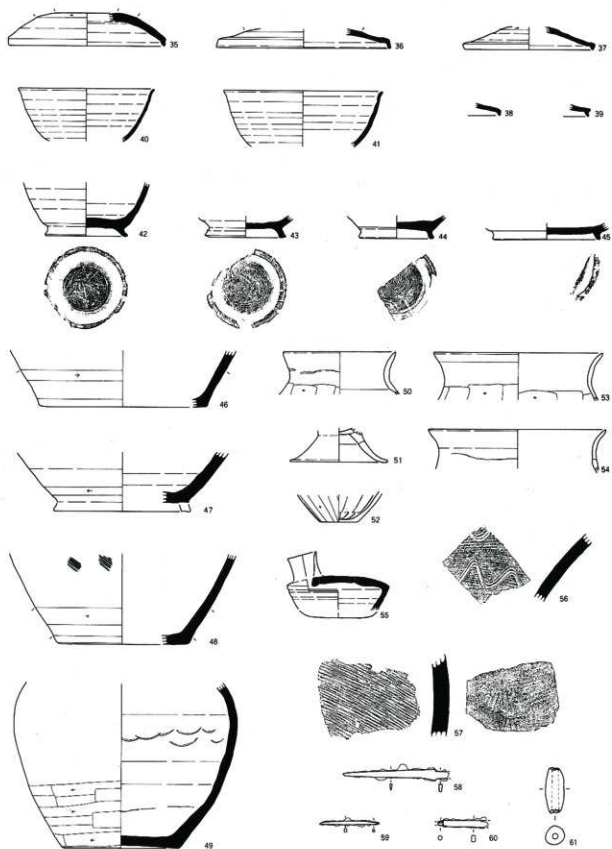
第16表 第5号住居跡出土遺物観察表 (第23・24図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	11.7	(3.4)		ABCDE	普通	橙褐色	70	No22・No36 覆土	
2	土師器環	(11.6)	(3.0)		ABCDE	普通	明褐色	40	覆土	
3	土師器環	(12.1)	3.2		ABCDE	良好	褐色	50	No30・No32 覆土	
4	土師器環	(11.9)	(3.0)		ABCDE	普通	褐色	30	覆土	
5	土師器環	(12.4)	(3.0)		ABCDE	普通	褐色	30	No23 覆土	
6	土師器環	(12.6)	2.9		ABCDE	普通	褐色	50	No5 覆土	
7	土師器環	(12.9)	3.5		ABCDE	普通	褐色	70	No7 覆土	
8	土師器環	(12.4)	(3.2)		ABCDE	普通	褐色	30	覆土	
9	土師器環	(11.7)	(3.1)		ABCDE	普通	褐色	40	No24・No43 覆土	
10	土師器環	(11.6)	(3.2)		AD	普通	茶褐色	20	覆土	
11	土師器環	(11.8)	(2.9)		ABD	普通	暗褐色	30	覆土	
12	土師器環	(11.8)	(3.0)		ABD	普通	暗褐色	30	No37 覆土	
13	土師器環	(11.6)	(2.8)		ABDF	普通	暗褐色	25	覆土	
14	土師器皿	(14.7)	(2.4)		BD	普通	暗褐色	40	No31 覆土	墨書「大」
15	土師器環	(11.8)	(3.3)		ABDF	普通	暗褐色	40	No4	放射状暗文
16	土師器皿	(15.8)	(1.9)		DF	普通	暗褐色	25	覆土	
17	土師器環	12.3	3.2		ABCDEF	良好	明褐色	70	No10	底面内面にへら描き沈線
18	土師器環	11.4	3.2		AD	普通	褐色	50	No49・No50	放射状・螺旋暗文
19	須恵器環	(12.8)	2.9	(9.0)	DEF片	良好	暗灰色	20	覆土	末野産

第23図 第5号住居跡出土遺物(1)



第24図 第5号住居跡出土遺物(2)

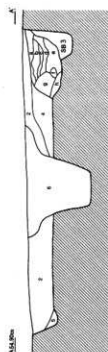
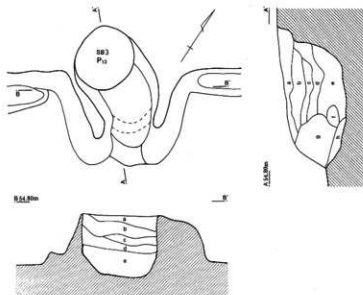
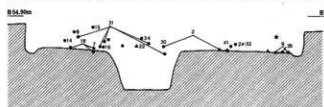
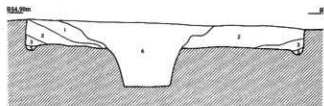
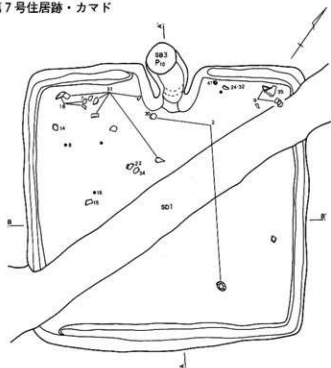


番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
20	須恵器環	(12.8)	(3.0)	(9.0)	A E F片	普通	黄灰色	25	No.29-覆土	未野産	
21	須恵器環	12.2	3.7	6.3	A C D F片	普通	黄灰色	75	No.65	未野産	
22	須恵器環	12.8	3.7	7.8	A C D F片	良好	灰色	80	No.26-44-覆土-No.35-54下層	未野産	
23	須恵器環	12.5	3.7	7.1	A C D F片		淡灰色	60	No.48-覆土	未野産	
24	須恵器環	(12.8)	3.7	(7.8)	A E片	普通	暗灰色	20	覆土	未野産 刷毛目	
25	須恵器環	(11.8)	3.5	(6.0)	A E F片	普通	灰色	10	覆土	未野産	
26	須恵器環	(12.4)	(3.4)	(9.0)	A D E F片	良好	灰色	20	覆土	未野産	
27	須恵器環	(11.8)	3.6	(6.0)	A D E F片	普通	灰褐色	25	No.67-床直	未野産	
28	須恵器環		(3.6)	6.5	A C D F片	良好	暗灰色	50	No.38-覆土	未野産	
29	須恵器環		(3.0)	(7.6)	A E F片	普通	灰褐色	15	No.39-覆土	未野産	
30	須恵器環		(1.1)	7.3	A D E片	良好	褐色	30	覆土	未野産	
31	須恵器環	11.8	2.9	5.8	A D針	良好	黒灰色	65	No.52床直	南比金産	
32	須恵器環	(11.4)	3.6	(6.4)	A C針	普通	青灰色	35	No.40-覆土	南比金産	
33	須恵器環	12.0	3.9	6.4	A D針	良好	暗灰色	70	No.8-覆土	南比金産	
34	須恵器環	(11.8)	(3.4)		A針	良好	青灰色	15	覆土	南比金産	
35	須恵器蓋	(16.5)	(3.4)		A C D F片	普通	灰色	20	覆土	未野産	
36	須恵器蓋	(18.5)	(2.0)		A C D片	普通	灰色	10	No.27-覆土	未野産	
37	須恵器蓋	(13.7)	(2.4)		A C D F片	普通	灰色	10	覆土	未野産	
38	須恵器蓋				A D片	普通	灰色	40	覆土	未野産	
39	須恵器蓋				A C D片	普通	淡灰色	5	覆土	未野産	
40	須恵器環	(14.4)	(5.5)		A E片	普通	乳灰色	10	覆土	未野産	
41	須恵器環	(16.8)	(5.9)		A F片	普通	青灰色	25	No.40-覆土-一折-No.42-53下層	未野産	
42	須恵器高台碗		(5.6)	8.6	A C D F片	不良	黒灰色	80	No.15	未野産	
43	須恵器高台環		(2.3)	8.6	A C D F片	1	褐色	80	No.56-覆土	未野産	
44	須恵器高台環		(2.4)	(7.8)	A C D F片	1	灰色	25	No.28	未野産	
45	須恵器高台環		(1.7)	(11.2)	A C D F片	不良	褐色	20	覆土	未野産	
46	須恵器甕		(5.9)	(18.0)	A D	普通	暗茶褐色	5	覆土	在地	
47	須恵器蓋		(5.3)		A C D F片	普通	灰色	5	No.33	未野産	
48	須恵器甕		(9.5)	(14.0)	A D	不良	黒褐色	20	No.51	在地	
49	須恵器甕		(17.5)	12.4	A C D片	普通	灰色	70	No.1-6-11-12-19-25-床直-覆土	未野産	
50	土師器甕	(11.8)	(4.4)		A B D F	普通	黒褐色	45	覆土		
51	土師器台付甕		(3.6)	(10.4)	A B D F	普通	黒褐色	90	No.2-覆土		
52	土師器甕		(2.9)	4.0	A B D	普通	黒褐色	70	No.45-覆土		
53	土師器甕	(17.8)	(4.9)		A B D F	普通	暗褐色	25	No.21		
54	土師器甕	(18.8)	(4.1)		A B D F	普通	暗褐色	20	No.2-土塙		
55	須恵器平瓶		(3.6)		A C片	良好	灰色	40	No.9-覆土	未野産	
56	須恵器甕				A C D F片	普通	青灰色	1	一折	未野産 液状紋	
57	須恵器甕				A C D F片	普通	青灰色	1	No.69	未野産	
58	鉄製刀子	残存長 11.3、幅 1.2、厚さ 0.3cm、重量 9.2g							No.63		
59	用途不明鉄製品	残存長 6.4、幅 0.4、厚さ 0.3cm、重量 3.2g							No.68		
60	用途不明鉄製品	残存長 5.3、幅 0.7、厚さ 0.4cm、重量 6.7g									
61	土錘	残存長 4.7、幅 2.0、孔径 0.6cm、重量 18.8g							黒色 100	覆土	

第17表 第5号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器					鉄石器			
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甗	台付甕	その他	環	蓋	鉢・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕	鉄器
口縁部(片)	296	9	20		60			1	70	25	2	1		2	2	3
(g)	924	74	303		595		19	1072	195	84	47			107	178	19
休部(片)	177		57		558			43	18					4	10	
(g)	1460		330		2095			170	165					60	482	
底部(片)					13		1	21		2	3				4	
(g)					190		120	400		250	186				1970	

第25図 第7号住居跡・カマド



第7号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 茶褐色土 ソフトローム、ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む
- 5 茶褐色土 ソフトローム、ロームブロックを多量含む
- 6 黒色土 ローム粒子を含む

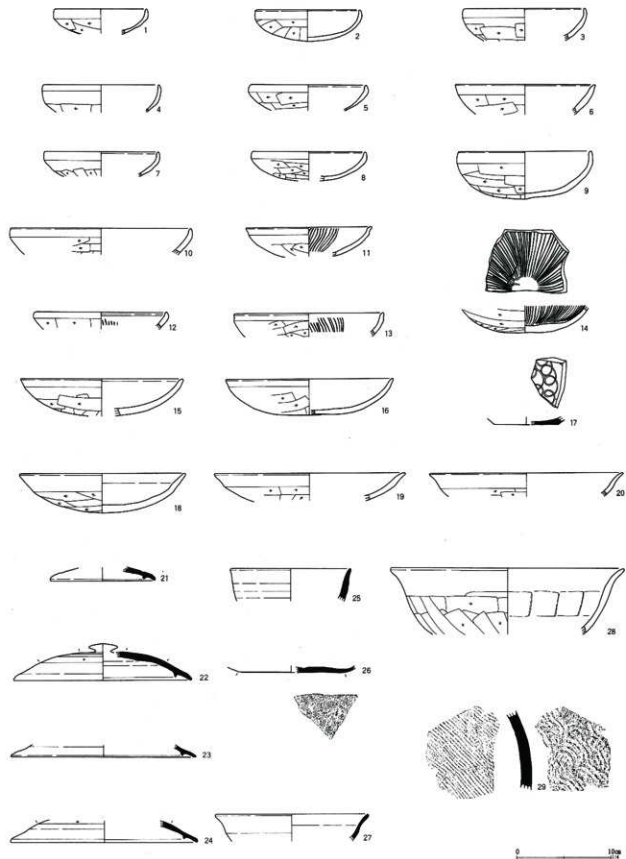
0 2m

第7号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を多量含む
- b 黒褐色土 しまり直し、ローム粒子、焼土粒子を多量、炭化物を少量含む
- c 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- d 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロック、焼土粒子、焼土ブロックを少量含む
- e 暗茶褐色土 しまり直し、ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子を多量含む
- f 黄褐色土 ロームブロックを含む
- g 灰褐色土 粘土を多量含む
- h 赤褐色土 焼土ブロックを含む

0 2m

第26図 第7号住居跡出土遺物(1)



第7号住居跡 (第25図)

調査区中央の59-12グリッドに位置する。本住居跡は中央部を第1号溝跡によって切られている。西側には第12・15号住居跡が存在する。東側は調査区外である。

平面形態は方形である。規模は主軸長4.58m、副軸長4.56m、深さ36cmである。主軸方位はN-38°-Wである。

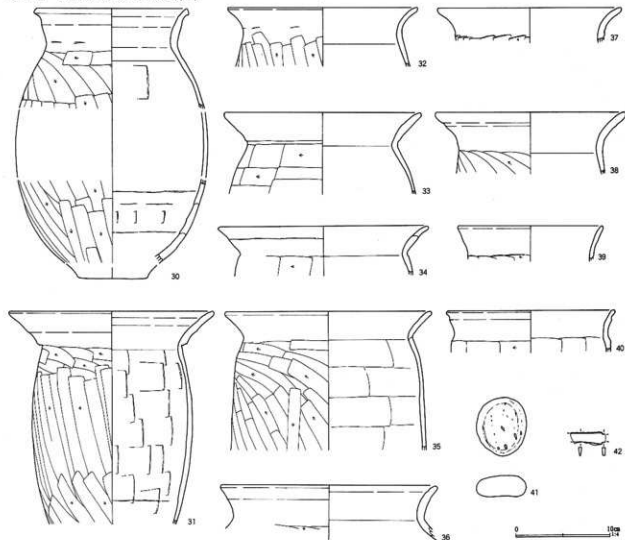
床面は、ほぼ平坦である。壁溝はほぼ全周するが、南西コーナーでわずかに途切れる。

カマドは、北壁の中央に構築されている。規模は、全長101cm、焚き口幅22cm、焼成部の最大幅は66cm、掘り込みの深さは14cmである。断面観察によると第g層は粘土を主体とした灰褐色である。またその下層の

第h層は焼土ブロックを含む赤褐色土であり、カマド天井部の崩落土である。また、第e層はしまりをもちロームブロック、焼土粒子を多量に含むことから天井部の崩落土と考えられ、第e層と第g層の境がカマド掛け口部分の可能性と考えられる。

遺物は、カマド周辺の北壁寄りに多く出土した。土師器杯、皿、暗文環、甕、甌、台付甕、須恵器杯、蓋、鉢、盤、壺、甕などを覆土中から多量に検出した。土師器杯14は底部の器内厚く丸底である。内面には細かな放射状暗文が施されている。17は平底の土師器杯である。底部外面は手持ちヘラケズリ、内面は器面滑らかで螺旋暗文が施される。26は木野産の杯である。底部外面は手持ちヘラケズリを施す。

第27図 第7号住居跡出土遺物(2)



第18表 第7号住居跡出土遺物観察表 (第26・27図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器坏	(9.8)	(2.6)		A D F	普通	褐色	20	覆土#7b'寄り	
2	土師器坏	11.0	3.3		A B D F	普通	褐色	90	No.2床直・No.10下層	
3	土師器坏	12.9	(3.4)		A B D F	普通	褐色	40	#7b'寄り	
4	土師器坏	(12.2)	(2.9)		A B C F	普通	明褐色	10	#7b'	
5	土師器坏	(12.2)	(2.7)		A B C F	普通	明褐色	15	#7b'	
6	土師器坏	(14.8)	(3.2)		A D F	普通	褐色	10	覆土#7b'寄り	
7	土師器坏	(12.1)	(2.6)		A B D F	普通	褐色	15	No.20下層	
8	土師器坏	(11.9)	(3.1)		A B D F	普通	褐色	30	No.25上層	
9	土師器坏	14.2	5.0		A B C F	普通	明褐色	90	#7b'寄り・覆土(下層)・No.3下層	
10	土師器坏	(9.1)	(2.8)		A B F	普通	明褐色	5	覆土#7b'寄り	
11	土師器坏	(13.2)	(3.1)		A B F	普通	明褐色	15	#7b'寄り	放射状暗文
12	土師器坏	(14.0)	(1.8)		A B D F	普通	橙褐色	5	覆土#7b'寄り	
13	土師器坏	(15.7)	(2.5)		A B C F	普通	褐色	5	覆土	放射状暗文
14	土師器坏		(2.8)		A B C D	普通	橙褐色	40	No.24上層	螺旋・放射状暗文
15	土師器坏	(17.1)	(3.9)		A B C F	普通	明褐色	30	No.15上層	
16	土師器坏	(17.7)	(3.8)		A B C D F	普通	橙褐色	30	#7b'寄り・No.14下層	
17	須恵器坏	(16.0)	(2.9)		A C D F片	普通	灰色	5	覆土#7b'寄り	未野産 螺旋暗文
18	土師器皿	17.5	4.1		A B D F	普通	褐色	95	覆土#7b'寄り・No.20・21・23下層	
19	土師器皿	(20.1)	(2.9)		A B F	普通	褐色	5	覆土	
20	土師器皿	(20.0)	(2.5)		A B C F	普通	褐色	5	覆土#7b'寄り	
21	須恵器蓋	(11.0)	(1.5)		A C D F	普通	灰色	10	覆土#7b'寄り	未野産
22	須恵器蓋	(18.8)	(3.9)		A C D F片	普通	灰色	30	No.13下層	未野産
23	須恵器蓋	(19.6)	(1.3)		A C D F片	普通	灰色	10	覆土#7b'寄り	未野産
24	須恵器蓋	(19.9)	(2.3)		A C D F片	普通	灰色	5	No.7覆土	未野産
25	須恵器坏	(12.6)	(3.4)		A D F	普通	灰色	10	覆土#7b'寄り	扶間産
26	須恵器坏		(0.8)	(11.2)	A C D F片	普通	灰色	10	覆土#7b'寄り	未野産
27	須恵器坏		(0.8)	(7.0)	A B D F	普通	茶褐色	30	覆土#7b'寄り	
28	土師器鉢	(24.8)	(7.0)		A B C D F	普通	褐色	20	#7b'	
29	須恵器甕				A C D F片	普通	灰色	5	覆土#7b'寄り	未野産
30	土師器甕	(16.0)	(28.4)	(7.0)	A B D F	普通	黄褐色	30	No.10下層・#7b'・#7b'寄り	
31	土師器甕	21.6	(22.5)		A B C D E F	普通	褐色	30	No.11・18層・19・22上層・加床直・#7b'	
32	土師器甕	(20.2)	(6.2)		A B D	普通	暗褐色	40	No.7・覆土・覆土#7b'寄り・上層	
33	土師器甕	(20.8)	(8.6)		A D F	普通	褐色	25	覆土・覆土#7b'寄り	
34	土師器甕	(22.0)	(5.3)		A B C D F	普通	明褐色	20	上層・No.12	
35	土師器甕	(21.6)	(14.7)		A B C D F	普通	褐色	40	覆土#7b'寄り・上層・No.4	
36	土師器甕	(22.8)	(5.8)		A B C D F	普通	暗褐色	20	覆土#7b'寄り	
37	土師器甕	(19.4)	(3.7)		A B D F	普通	暗褐色	20	覆土#7b'寄り	
38	土師器甕	(20.0)	(6.5)		A B D F	普通	褐色	25	#7b'	
39	土師器甕	(15.2)	(4.8)		A B C D F	普通	暗褐色	25	覆土#7b'寄り	
40	土師器甕	(17.8)	(4.5)		A B C D F	普通	暗褐色	25	覆土#7b'寄り	
41	軽石	残存長 6.2, 幅 2.3cm, 重量 54.5g						No.9		安山岩
42	鉄製刀子	残存長 3.7, 幅 1.2, 厚さ 0.3cm, 重量 4.8g								

第19表 第7号住居跡出土遺物計量表

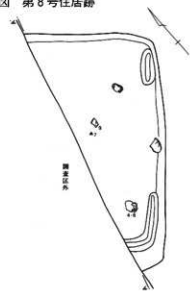
計量値	土師器								須恵器						鉄石器	
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	坏	蓋	鉢・鉢	高台坏	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	82	3	3	1	83	1	3		39	10	1					1
(g)	470	336	90	92	708	35	30		475	185	45					5
体部(片)	130		20		503				20	10				5	20	
(g)	445		90		1845				65	125				60	2385	石器
底部(片)					6				17	3		3	1			1
(g)					65				260	210		45	55			55

第8号住居跡 (第28図)

調査区の59-11グリッドに位置する。本住居跡の西側は調査区外となり検出した遺構は北壁から東壁を経て南壁のコーナー部分までである。東側には第12・15号住居跡が存在する。

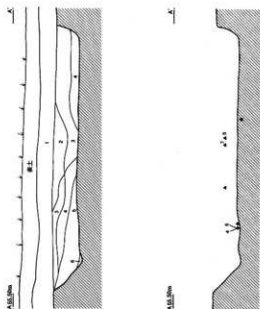
平面形態は不明である。残存規模は南北軸長3.72m、東西軸長2.06m、深さ35cmである。主軸方位はN-43°Eである。

床面は、ほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南壁は緩やかである。壁溝は北東コーナー部と第28図 第8号住居跡



第8号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム砂子、ロームブロックを含む
- 2 暗褐色土 ローム砂子、ハードロームブロックを多量含む
- 3 暗褐色土 ローム砂子を少量、ハードロームブロックを少量含む
- 4 暗褐色土 ハードロームブロックを多量含む
- 5 暗褐色土 ローム砂子、ロームブロックを少量、黒色土を含む
- 6 暗褐色土 ハードロームブロック、ソフトロームを多量含む

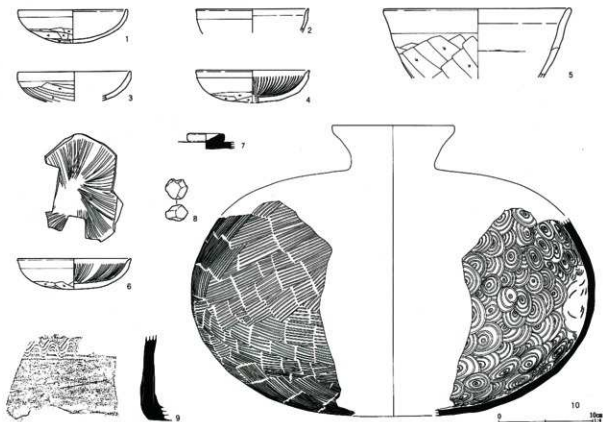


0 2m

第20表 第8号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器杯	(11.7)	3.4		ABCDEF	普通	褐色	40	覆土	外面黒斑 放射状暗文
2	土師器杯	(12.0)	(2.5)		ACDEF	普通	褐色	5	覆土	
3	土師器杯	(12.0)	(3.0)		ABCDEF	普通	褐色	25	覆土	
4	土師器杯	(12.0)	(3.4)		ACDF	普通	褐色	20	No.6床直	
5	土師器鉢	(20.0)	(7.4)		ABCDEF	普通	褐色	20	覆土	
6	土師器杯	(12.1)	3.0	(6.0)	ABCDEF	普通	褐色	50	No.6床直・覆土	
7	須恵器蓋		(1.6)		C/F片	普通	灰色	50	No.3上層	
8	鉄塊	残存長2.1、幅2.3、厚さ1.8cm、重量12.5g								
9	須恵器甕				ACDF片	良好	暗灰色		No.2上層	末野産 波状文 末野産
10	須恵器		(30.5)		ACDF片	良好	淡灰色	20		

第29図 第8号住居跡出土遺物



第21表 第8号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器						鉄・石器		
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	甌	台付甕	その他	坏	蓋	鉢・鉢	高台坏	皿・盤	甗	甕	鉄器
口縁部(片)	4	3	3	1					1	1					1	1
(g)	87	9	69	64					7	27					227	13
体部(片)			3		34										2	
(g)			10		431										41	
底部(片)					1									1		
(g)					22									796		

第9号住居跡 (第30図)

調査区の58-13グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から西壁にかけての部分である。西側には第7・12・15号住居跡が存在する。また、本住居跡の北西コーナー部分は第1号溝跡によって切られていた。

平面形態は不明である。残存規模は南北軸長2.90m、東西軸長2.20m、深さ56cmである。主軸方位はN-18°Wである。

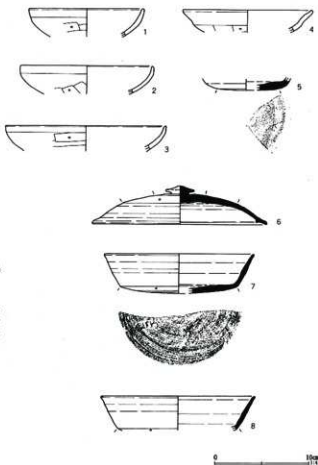
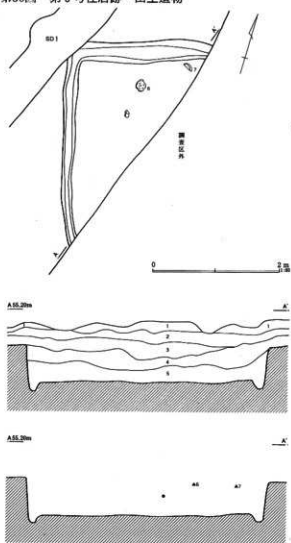
床面は、ほぼ平用である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出した壁部分では全て検出できた。幅15

～30cm、深さ15cm前後で、西壁の溝は狭く、北壁に取り付け溝はやや幅をもっていた。

断面観察によると第1～3層は暗褐色土ブロックを多量に含む。第4層は黒褐色土を主体とする。第5層にはロームブロックを多量に含んでいたことから、住居廃棄後に人為的堆積と考えられ、第9号住居跡の置土堆積状態に近似する。カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、北武蔵型坏と未野産須恵器蓋、坏が伴する。蓋は宝珠つまみ、坏は全面回転ヘラケズリである。

第30図 第9号住居跡・出土遺物



第9号住居跡

- 1 黒褐色土 暗茶褐色土ブロックを多量、黒色土を含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子、暗茶褐色土ブロックを多量、焼土粒子を少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子、茶褐色土ブロックを多量、ロームブロックを少量含む
- 4 黒褐色土 黒褐色土主体、ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量、黒色土を含む

第22表 第9号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(12.1)	(3.0)		ABF	普通	褐色	10	一括	
2	土師器環	(14.0)	(3.0)		BCF	普通	明褐色	5	一括	
3	土師器環	(17.0)	(2.7)		BCDF	普通	褐色	10	一括	
4	土師器皿	(13.7)	(2.4)		ABF	普通	褐色	5		
5	須恵器環		(1.2)	(8.8)	ACF	普通	黄灰色	30	覆土	未野産
6	須恵器蓋	(18.3)	4.0		片	良好	青灰色	80	No2上層	未野産 つまみ径2.9cm
7	須恵器環	(15.8)	(4.2)	(12.4)	A E F片	良好	青灰色	40	No3上層	未野産
8	須恵器環	(16.3)	(3.6)	(12.7)	A E F片	良好	青灰色	20	覆土	未野産

第23表 第9号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器						須恵器					鉄石器			
	環	皿	暗土環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	碗・鉢		高台環	皿・盤	壺
口径部(片)	10	4			10				17	6			1	3	
(g)	49	21			50				220	236			11	29	
体部(片)	11		2		151				9	1					5
(g)	52		15		642				32	5					74
底部(片)					2		1		3			2			
(g)					32		5		34			19			

第11号住居跡 (第31図)

調査区北側の56・57-13グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から西壁を経て南壁部分までの住居跡の西側半分である。北側には第16・21号住居跡が存在する。

平面形態は不明であるが方形と推定される。残存規模は南北軸長3.80m、東西軸長1.88m、深さ34cmである。主軸方位はN-26°-Eである。

床面は、ほぼ平坦であるが、わずかに中央付近が窪む。壁はほぼ垂直に立ち上がり壁溝を伴う。壁溝の規模は幅15cm、深さ15cm前後である。

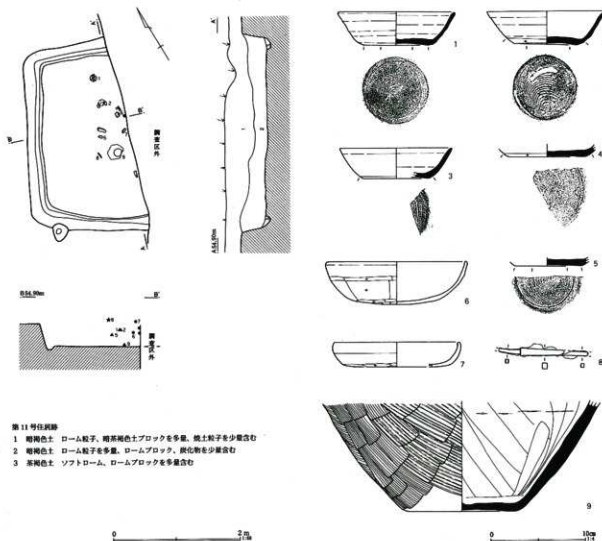
断面観察によると周溝内の覆土はローム粒子、ロームブロックを主体とすることから壁の崩落土によって

埋まり、住居覆土はほぼ自然堆積によると判断した。

カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、土師器環、暗文環、甕、須恵器環、壺、甕を検出した。図示した須恵器環1～5はいずれも末野産である。底部調整は1、3、5は糸切り離し後、外周を回転ヘラケズリ、2は糸切り離し後、体部下端および底部外周を回転ヘラケズリ、4は鉋起こしの後中心部を残して回転ヘラケズリを施す。6は器内のやや薄い底部やや平底に削り込む土師器環である。9は末野産の甕で、胴部には並行叩きを施し、内面は当て具痕跡は不明であるが、幅2.6～3.0cmのハケ状工具によって丁寧にナデ調整されている。底部は平底である。

第31図 第11号住居跡・出土遺物



第11号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子、暗褐色土ブロックを多量、焼土粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロック、炭化物を少量含む
- 3 茶褐色土 ソフトローム、ロームブロックを多量含む

第24表 第11号住居跡出土遺物観察表 (第31図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	須恵器環	(12.3)	3.6	6.9	A B C D F片	良好	灰色	70	No.1上層	末野産 体部下端回転49° 末野産 末野産 末野産 末野産 No.3上層・覆土 No.7上層 No.8上層 No.9床直 末野産	
2	須恵器環	(12.5)	3.6	6.8	A C D片	良好	淡灰色	80	No.2上層		
3	須恵器環	(11.8)	3.2	(7.0)	A B C D片	普通	灰色	25	覆土		
4	須恵器環	(1.4)	(8.0)	(8.0)	A B C E片	良好	暗灰色	30	覆土		
5	須恵器環	(0.9)	(7.0)	(7.0)	A C D F片	良好	黒灰色	50	No.6上層		
6	土師器環	(14.8)	(4.5)		A B C D	普通	赤褐色	60	No.3上層・覆土		
7	土師器環	(13.3)	(2.6)		B D	普通	暗褐色	30	No.7上層		
8	鉄鏝	残存長9.5、幅0.8、厚さ0.5cm、重量11.9g									No.8上層
9	須恵器甕	(11.6)	11.9		A C D F片	普通	褐色	40	No.9床直		

第25表 第11号住居跡出土遺物計量表

計量値	器種	土師器							須恵器							鉄石器	
		環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	4									6							1
(g)	145								262								12
体部(片)	2				4				1						1	2	
(g)	5				17				2						19	42	
底部(片)			1						2							1	
(g)			16						67							1249	

第12号住居跡 (第32図)

調査区の58-12グリッドに位置する。本住居跡の南側には第15号住居跡が存在する。周辺にはピットが数多く検出され第3・11号掘立柱建物跡が存在する。

平面形態は方形である。規模は主軸長3.38m、副軸長3.32m、深さ33cmである。主軸方位はN-40°-Wである。

床面は、ほぼ平坦である。壁溝は北東コーナーから、

東壁にかけて検出した。

カマドは、北壁の西寄りに構築されている。規模は、全長98cm、焚き口幅67cm、焼成部の最大幅は49cm、掘り込みの深さは55cmである。断面観察の第c層は白色粘土を主体とし、下面は被熱により焼土化しており天井部の崩落土と考えられ、第e層は掘り方土で上面は火床である。第d層は焼土粒子を多量に含む。

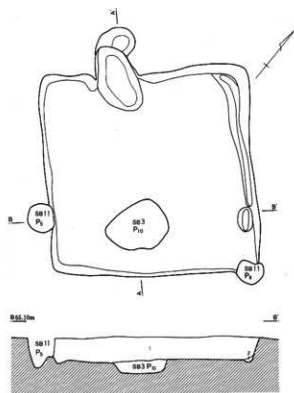
第26表 第12号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(11.6)	(2.4)		A B C D E F	普通	明褐色	20	覆土	放射状暗文
2	土師器環	(13.7)	(3.1)		A B D	普通	褐色	10	覆土	
3	土師器環	11.1	3.6		A B C D E F	普通	橙褐色	50	No.1床直	
4	土師器皿	(20.4)	(3.1)		A B D	普通	明褐色	10	覆土	
5	土師器環	(11.4)	(2.9)		A B D F	普通	褐色	20	No.2床直	
6	土師器甕	(21.8)	(2.1)		A B D	普通	褐色	5	覆土	
7	須恵器蓋	(18.9)	(1.2)		C F片	普通	灰色	5	覆土	
8	土師器甕	(22.2)	(6.2)		A B C D E F	普通	褐色	20	No.4床直	

第27表 第12号住居跡出土遺物計量表

計量値	器種	土師器							須恵器							鉄石器	
		環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	9	3	1		5					2	4						
(g)	134	42	9		87				21	17							
体部(片)	25		8		85				3	1							2
(g)	150		47		552				12	29							60
底部(片)					5												
(g)					86												

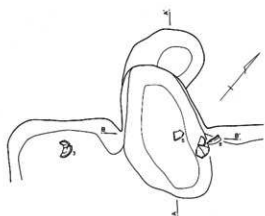
第32図 第12号住居跡・カマド



第12号住居跡

- 1 暗褐色土 ハードロームブロック、ローム粒子を多量含む
- 2 暗褐色土 ソフトロームを多量含む

0 1.0m

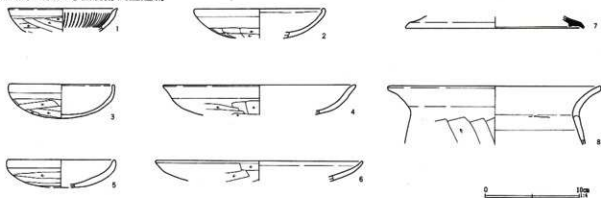


第12号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 ローム粒子を多量、白色粘土ブロックを少量含む
- b 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- c 白色粘土 天井煉瓦土、下層は粘土化
- d 暗褐色土 粘土粒子を多量、粘土ブロックを少量含む
- e 暗褐色土 ロームブロックを多量含む (上面は火床面)

0 1.0m

第33図 第12号住居跡出土遺物



第13号住居跡 (第34図)

調査区北側の56-12グリッドに位置する。本住居跡に近接した住居跡は存在しない、東約10mの位置に第16・21号住居跡が存在する。周辺にはピットが数多く検出され南側には第2号欄列、東側に第10号掘立柱建物跡が存在する。

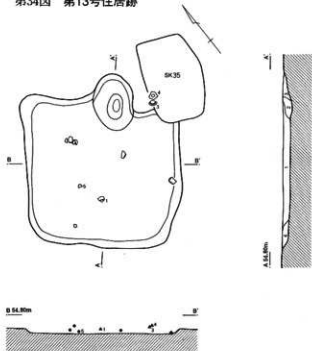
平面形態は方形である。規模は主軸長2.30m、副軸長2.48m、深さ13cmである。主軸方位はN-38°-Eである。

床面は、ほぼ平坦である。掘りこみは浅く、壁はなだらかに立ち上がる。壁溝はもたない。

カマドは、北壁の中央に構築されている。規模は、全長82cm、焚き口幅70cm、焼成部の最大幅は60cm、掘り込みの深さは10.5cmである。

遺物は、住居全体に散漫な状態で検出された。土師器杯、皿、暗文杯、甕、台付甕、須恵器杯、高台付杯、壺、甕などを覆土中から検出した。須恵器はいずれも未野産である。土師器杯5は平底でヘラケズリを施す。底部と体部の境に明瞭な輪積みをもつ。

第34図 第13号住居跡



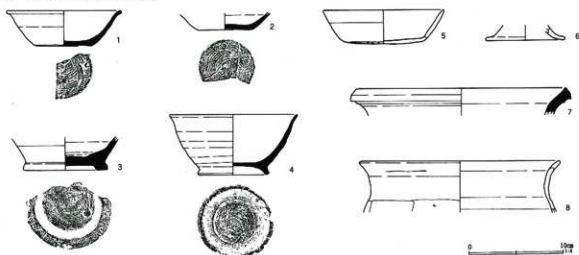
第13号住居跡

- 1 暗褐色土 赤褐色土、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子を多量含む (カマド)
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子、炭化物を少量含む (カマド)
- 4 茶褐色土 ソフトロームを多量含む

第29表 第13号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器杯	(11.9)	3.7	(5.8)	A D	不良	褐灰色	30	No4	未野産
2	須恵器杯		(1.8)	5.9	C F片	不良	褐色	50	一括	未野産
3	須恵器壺		(3.5)	(9.0)	A D F	良好	灰色	40	No7	秋岡産
4	須恵器高台杯	(13.5)	6.3	7.0	A C D F片	普通	灰色	60	No8	未野産
5	土師器杯	(12.8)	3.6	(8.4)	A B D E F	不良	暗褐色	40	No2	
6	土師器台付甕		(1.6)	(8.4)	A B D F	普通	茶褐色	20	一括	
7	須恵器壺	(22.2)	(2.9)		C F片	普通	灰色	5	一括	未野産
8	土師器甕	(21.0)	(5.5)		A B D F	普通	茶褐色	20	一括	

第35図 第13号住居跡出土遺物



第29表 第13号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器					鉄石器		
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	坏	蓋	碗・鉢	高台坏	皿・盤	壺	甕
口縁部(片)	11	1	1		12				4			1			1
(g)	94	10	5		37				66			74			22
体部(片)	35				65				5						6
(g)	79				342				15						124
底部(片)					1		1		2					1	1
(g)					6		8		49					141	16

第14号住居跡 (第37図)

調査区中央の60-11グリッドに位置する。本住居跡は北壁に設けられたカマドから東壁にかけて検出し、遺構は西側の調査区外に伸びる。南側には第3・10号住居跡が位置し、第1号柵列が本住居と重複する。

平面形態は不明である。残存規模は主軸長2.35m、副軸長1.65m、深さ15cmである。主軸方位はN-42°-Eである。

床面は、ほぼ平坦である。壁溝はもたない。

カマドは、北壁の中央に構築されている。第5号掘立柱建物跡のP1と重複し、建物跡が古く柱穴覆土を切り込んでカマドを構築していた。断面観察の第c層は柱穴覆土である。規模は、全長85cm、焚き口幅60cm、焼成部の最大幅は60cm、掘り込みの深さは40cmである。

遺物は、少量検出された。図示した1は未野産須恵器碗である。2は底部器肉厚い土師器坏、3は丸底で口唇部は屈曲し、内面に放射状暗文を施す。

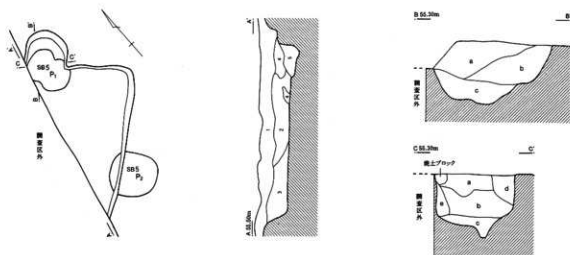
第36図 第14号住居跡出土遺物



第30表 第14号住居跡出土遺物観察表 (第36図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器碗	(20.8)	(5.3)		A C D F 片	普通	灰色	10	覆土	未野産
2	土師器坏	(14.9)	5.0		A B C D E	普通	褐色	30	87ト	
3	土師器坏	(11.7)	(3.2)		A B C D E	普通	茶褐色	40	87ト	放射状暗文

第37図 第14号住居跡・カマド



第14号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 4 褐色土 破砕したロームブロック（カマドの縁の一部）
- 5 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量、焼土ブロックを少量含む

第14号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
- b 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒子を多量含む
- c 黒褐色土 しまり直し ローム粒子、ロームブロックを多量含む (SS-6 P1 層土)
- d 暗褐色土 焼土粒子を少量、e層と同じ粘土を多量含む
- e 灰褐色土 焼土ブロックを含む

0 2m

0 1m

第31表 第14号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器					鉄・石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環		皿・盤
口縁部(片)	1	4							1		1			
(g)	47	46						5		15				
体部(片)		1		9				1						
(g)		4		82				2						
底部(片)				1				2						
(g)				22				14						

第15号住居跡 (第38図)

調査区の59-11・12グリッドに位置する。本住居跡の北側には第12号住居跡が存在する。第12号住居跡とは、北西方向にずらし重複関係はもたないが、ほぼ軸方向は同じである。カマド位置や規模などは異なる。周辺にはピットが数多く検出され第3・11号掘立柱建物跡が存在する。

平面形態は長方形である。規模は主軸長4.20m、副軸長3.60m、深さ50cmである。主軸方位はN-50°-Eである。

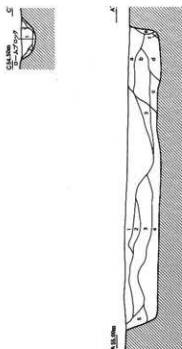
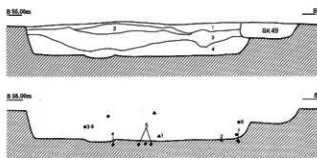
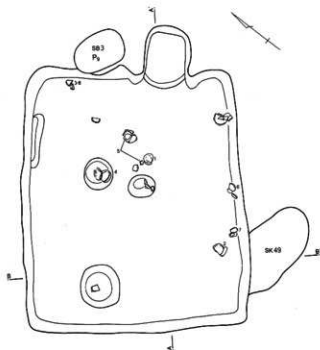
床面は、ほぼ平坦である。住居内には柱穴を3箇所

検出した。壁溝はわずかに西壁の一部で検出した。

カマドは、北壁の東寄りに構築されている。規模は、全長90cm、焚き口幅90cm、焼成部の最大幅は68cm、掘り込みの深さは6cmと浅く床面からわずかに下がる。

遺物は、土師器環、皿、暗文環、甕、須恵器環、蓋などを検出した。1の須恵器蓋は未野産でつまみ部を欠損する。天井部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。5は小型の甕である。胴部は縦方向のケズリの後、上下をヨコケズリする。6は放射状暗文を施す。

第38図 第15号住居跡・カマド



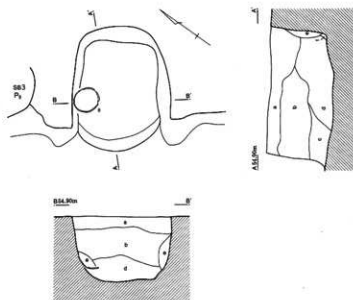
第 15 号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 2 灰褐色土 ソフトローム、ロームブロックを多量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 4 暗褐色土 粘性有り ローム粒子、焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 5 黒褐色土 ローム粒子を少量含む

第 15 号住居跡 土壌

- 1 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量含む

0 0.55

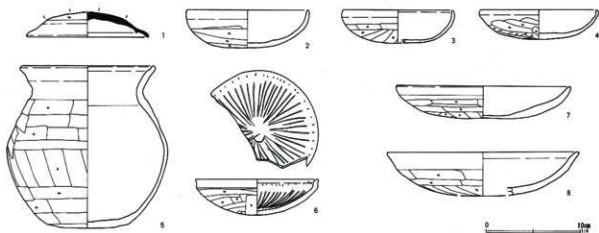


第 15 号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- b 黒褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- c 暗褐色土 粘性有り ローム粒子、焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- d 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロックを多量、炭化粉、粘土ブロックを少量含む
- e 赤褐色土 焼熟したロームブロック含む (カマド崩壊土)
- f 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒子を少量含む

0 1.50

第39図 第15号住居跡出土遺物



第33表 第15号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器蓋	(12.8)	(2.7)		A C D F片	普通	黄灰色	70	No4床直	未野産 放射状暗文
2	土師器環	12.9	4.0		A D	普通	橙褐色	90	No11床直	
3	土師器環	11.6	(3.5)		A B C D E F	普通	赤褐色	75	No1上層・覆土	
4	土師器環	12.4	3.2		A B C D E F	普通	茶褐色	95	No5床直	
5	土師器甕	14.0	(17.0)	8.5	A B C D E F	普通	暗褐色	50	No3・12床直・覆土	
6	土師器環	12.8	3.8		A B C D E F	良好	赤褐色	50	No9上層・覆土	
7	土師器皿	18.4	3.4		A B C D E F	普通	黄褐色	100	No10床直	
8	土師器皿	(20.1)	(4.7)		A B C D E F	普通	橙褐色	20	#71' No1-No1下層	

第33表 第15号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器								須恵器					鉄・石器	
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	坏	蓋	碗・鉢	高台坏	皿・盤		壺
計量数															
口縁部(片)	6	2	5		2				2	2					
(g)	356	489	114		520				11	415					
体部(片)	9				30										
(g)	27				970										
底部(片)					15										
(g)					214										

第16号住居跡 (第40図)

調査区北側の56-13グリッドに位置する。本住居跡は第21号住居跡と重複関係にある。第21号住居跡が古く本住居跡が切り込む。南側には第11号住居跡が存在する。周辺にはピットが数多く検出され第10号掘立柱建物跡が存在する。

平面形態は長方形である。規模は主軸長3.70m、副軸長2.77m、深さ11cmである。主軸方位はN-17°-Eである。

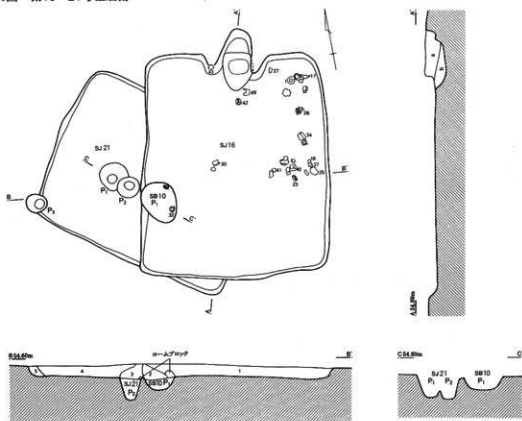
床面は、ほぼ平坦である。住居内には第10号掘立柱建物跡のP1が重複し、本住居跡の床面が存在する。壁

溝は伴わない。

カマドは、北壁の中央に構築されている。規模は、全長82cm、焚き口幅48cm、焼成部の最大幅は47cm、掘り込みの深さは10cmと浅く床面からわずかに下がる。

遺物は、住居跡内の北東付近から多く検出された。土師器環、皿、暗文坏、甕、台付甕、須恵器坏、蓋、碗、高台坏、皿、壺、甕などを検出した。特に、カマド前面から「U」字型の鋸先、覆土中から砥石を出土した。

第40図 第16・21号住居跡

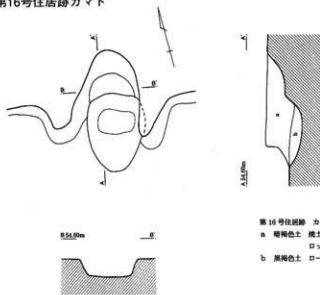


第16・21号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子、茶褐色土ブロックを多量、粘土粒子、炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
- 4 黒褐色土 暗褐色土を多量、ローム粒子少量、ロームブロックを微量含む
- 5 茶褐色土 ソフトロームを多量含む (Fig.3)

0 2m

第41図 第16号住居跡カマド

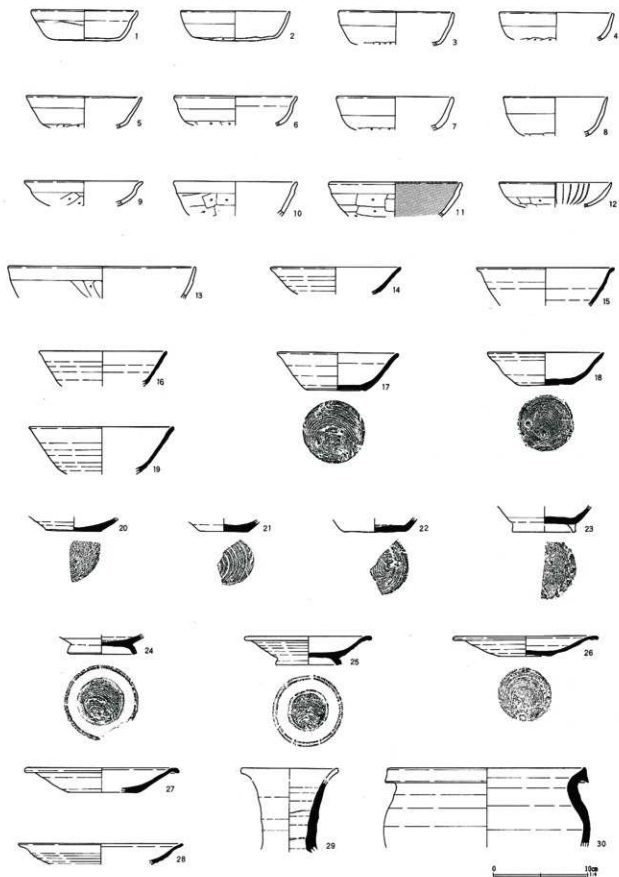


第16号住居跡 カマド

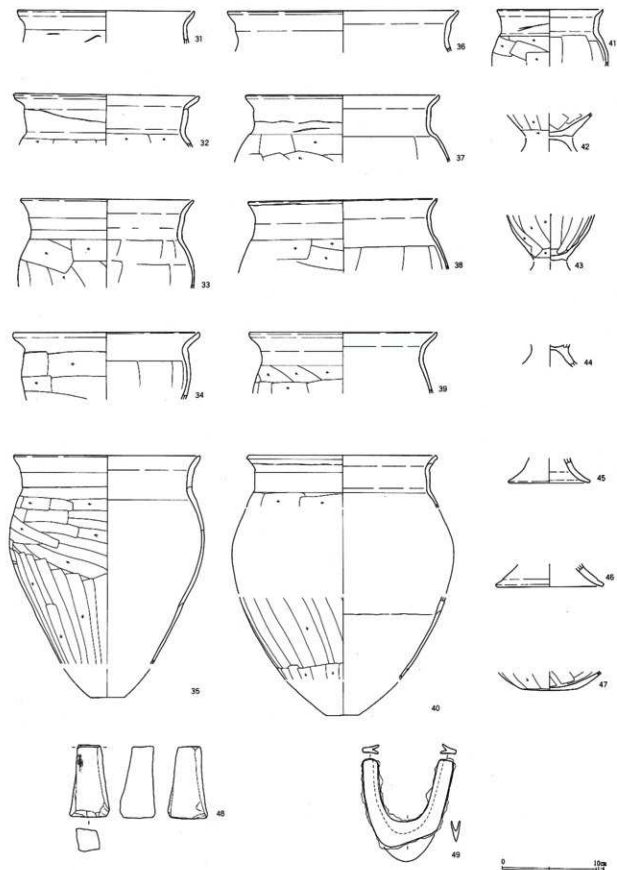
- a 暗褐色土 粘土ブロックを多量、炭化物、炭化したロームブロックを少量、粘土ブロックを含む
- b 黒褐色土 ロームブロックを多量含む (掘り方)

0 2m

第42図 第16号住居跡出土遺物(1)



第43図 第16号住居跡出土遺物(2)



第35表 第16号住居跡出土遺物觀察表 (第42・43図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	土師器杯	11.2	3.2	7.7	ABF	普通	褐色	100	No1		
2	土師器杯	(11.5)	(3.1)	(9.0)	ABF	普通	褐色	25	覆上一括・覆土		
3	土師器杯	(12.0)	(3.5)		ACD	普通	褐色	15	一括		
4	土師器杯	(12.0)	(2.9)		ABDF	普通	褐色	20	覆土一括		
5	土師器杯	(12.0)	(3.3)		ABDF	普通	褐色	20	覆土一括・覆土		
6	土師器杯	(12.9)	(3.1)		ABD	普通	褐色	30	覆土		
7	土師器杯	(12.2)	(3.5)		BDF	普通	褐色	20	覆土		
8	土師器杯	(11.0)	(4.1)		ABD	普通	褐色	15	一括		
9	土師器皿	(12.4)	(2.6)		BDF	普通	暗褐色	10	覆土		
10	土師器杯	(13.0)	(3.6)		ABCF	普通	褐色	15	覆土		
11	土師器杯	(13.8)	(3.7)		ABDF	普通	褐色	30	㊦一括・覆土		
12	土師器杯	(11.9)	(2.6)		ADF	普通	褐色	10	覆土	内面赤彩 放射状暗文	
13	土師器碗	(19.8)	(3.4)		ACDF	普通	明褐色	5	覆土		
14	須惠器杯	(13.8)	(2.9)		ACDF片	普通	褐灰色	30	覆土	未野産	
15	須惠器杯	(14.6)	(4.0)		ACDF片	普通	灰色	20	覆土	未野産	
16	須惠器杯	(13.4)	(3.7)		ACDF片	普通	灰色	20	覆土	未野産	
17	須惠器杯	12.7	4.0	6.3	ACDF片	普通	暗褐色	60	No2-3	未野産	
18	須惠器杯	12.4	3.5	5.6	ACDF片	不良	乳灰色	80	No15	未野産	
19	須惠器杯	(15.3)	(5.0)		ACDF片	普通	褐灰色	15	覆土	未野産	
20	須惠器杯		(1.5)	(6.0)	ACDF片	普通	灰色	30	㊦	未野産	
21	須惠器杯		(1.4)	(5.2)	ACDF片	普通	褐色	10	覆土	未野産	
22	須惠器杯		(1.5)	(6.4)	ACDF片	普通	褐灰色	15	覆土	未野産	
23	須惠器高台杯		(1.3)		ACDF片	普通	淡灰色	10	No22	未野産	
24	須惠器高台杯		(2.1)	7.5	ACDF片	普通	暗灰色	20	覆土	未野産	
25	須惠器高台皿	13.1	3.0	7.2	ACDF片	普通	黄灰色	75	No11	未野産	
26	須惠器皿	15.0	2.1	5.4	ACDF片	普通	暗灰色	75	No11 覆土一括・㊦	未野産	
27	須惠器皿	(15.9)	(2.6)	(7.5)	ACDF片	普通	黄灰色	20	No7一括・覆土	未野産	
28	須惠器皿	(17.4)	(2.2)		ACDF片	普通	黄褐色	10	No24一括	未野産	
29	須惠器長頸壺				ACDF片	普通	褐灰色	20	覆土	未野産	
30	須惠器鉢	(21.0)	(8.3)		ACDF片	普通	灰色	10	No26	未野産	
31	土師器甕	(18.8)	(3.4)		ABD	普通	褐色	15	一括		
32	土師器甕	(19.5)	(5.4)		ABCFD	普通	褐色	10	No29		
33	土師器甕	(18.2)	(9.3)		ABDF	普通	橙褐色	20	覆土一括		
34	土師器鉢	(19.6)	(7.1)		ABDF	普通	褐色	40	No12		
35	土師器甕	19.6	(26.5)		ABCDE F	普通	褐色	40	覆土		
36	土師器甕	(24.4)	(4.4)		ABDF	普通	褐色	10	覆土		
37	土師器甕	(20.4)	(7.1)		ABCFD	普通	橙褐色	10	No14		
38	土師器甕	(19.9)	(7.5)		ADF	普通	褐色	10	SJ-16覆土		
39	土師器甕	(19.8)	(6.5)		ABDF	普通	褐色	10	㊦・覆土		
40	土師器甕	(19.8)	(27.5)		ABCDE F	良好	明褐色	20	No19-20-21・覆土		
41	土師器台付甕	(11.2)	(6.0)		ABDF	普通	褐色	20	No24・覆土		
42	土師器台付甕		(2.5)		ABDF	普通	褐色	60	No9		
43	土師器台付甕		(4.8)		ABDF	普通	褐色	60	No10		
44	土師器台付甕		(2.4)		ABF	普通	褐色	80	覆土		
45	土師器台付甕		(2.6)	(8.4)	ADF	普通	暗褐色	50	覆土一括		
46	土師器台付甕		(2.4)	(11.2)	ABDF	普通	褐色	15	一括		
47	土師器甕		(2.0)	6.0	ABD	普通	褐色	60	SJ-21-SJ-16一括		
48	砥石	残存長 7.6、幅 4.1、厚さ 2.3cm、重量 133.3g								一括	
49	鉄製銀光	残存長 9.7、幅 0.6、厚さ 0.7cm、重量 90.8g								No8	

第35表 第16号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器								須恵器								鉄・石器
	器種	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	碗・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕	石器
口縁部(片)	157	2	10		82		1	10	119		2		7	1	1	1	
(g)	850	18	48		1459		47	105	455		103		283	45	11	133	
体部(片)	147		18		796				79	2				10	37		
(g)	530		73		3159				243	32				74	584		
底部(片)								16	55			10			2	1	
(g)								321	528			169			94	91	

第21号住居跡 (第40回)

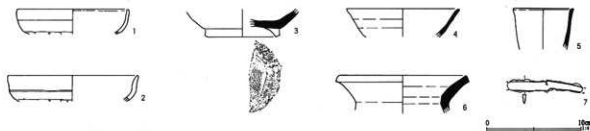
調査区北側の56-13グリッドに位置する。本住居跡は第16号住居跡と重複関係にある。第16号住居跡が新しく本住居跡を切り込む。南側には第11号住居跡が存在する。周辺にはピットが数多く検出され第10号掘立柱建物跡が存在する。

平面形態は長方形である。残存規模は南北軸長2.70m、東西軸長3.87m、深さ12cmである。主軸方位はN-33°-Eである。

床面は、ほぼ平坦である。住居内にはP1、P2が切り込む。壁溝は伴わない。カマド、貯蔵穴などは検出できなかった。

遺物は、覆土中から少量検出された。土師器環、暗文環、甕、須恵器環、図示した須恵器は、3、5が南比企産である。5はコップ型と呼ばれる形態である。4、6は未野産であった。6は甕としたが丸底の鉢と考えられる。8は鉄製刀子の破片である。

第44回 第21号住居跡出土遺物



第36表 第21号住居跡出土遺物観察表 (第44回)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(12.0)			ABDE	普通	橙褐色	10	一括	未野産 南比企産 南比企産 未野産
2	土師器環	(14.0)			ABDE	普通	黄褐色	5	一括	
3	須恵器高台環			(8.0)	ACDEF片	普通	灰色	30	一括	
4	須恵器環	(12.0)			AD針	普通	淡灰色	10	一括	
5	須恵器環	(6.4)			AD針	普通	乳灰色	5	一括	
6	須恵器甕			(14.0)	ACDF片	普通	青灰色	5	一括	
7	鉄製刀子	残存長7.7、幅1.0、厚さ0.3cm、重量8.2g								

第37表 第21号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器								須恵器								鉄・石器
	器種	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	碗・鉢	高台環	皿・盤	壺	甕	石器
口縁部(片)	10				1	4				5						3	1
(g)	46				1	30				26						58	8
体部(片)	28					19				3						4	
(g)	90					80				16						78	
底部(片)					2					4							
(g)					10					88							

第18号住居跡 (第45図)

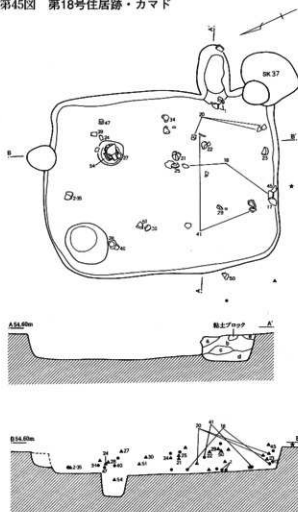
調査区北側の55-13グリッドに位置する。北側には第19号住居跡、東側には第20号住居跡が存在する。

また、周辺には第6・7・8・9号掘立柱建物跡が存在する。

平面形態は長方形である。規模は主軸長2.90m、副軸長3.76m、深さ45cmである。主軸方位はN-25°-Eである。

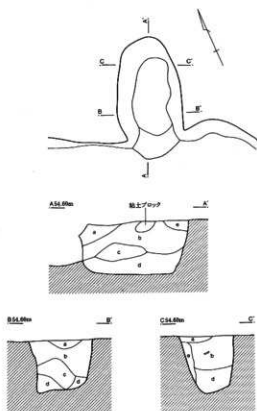
床面は、地山ローム土基盤としほぼ平坦である。住居内の北西コーナー部分には円形の掘りこみを確認した。ピットあるいは貯蔵穴の可能性もあるが不明である。また、住居内北東に第6号掘立柱建物跡の柱穴が存在する。壁溝、主柱穴は検出されなかった。

第45図 第18号住居跡・カマド



カマドは、東壁のかなり南寄りに構築されている。規模は、全長80cm、焚き口幅39cm、焼成部の最大幅は30cm、床面からの掘り込みの深さは10cmと浅く床面からわずかに下がる。

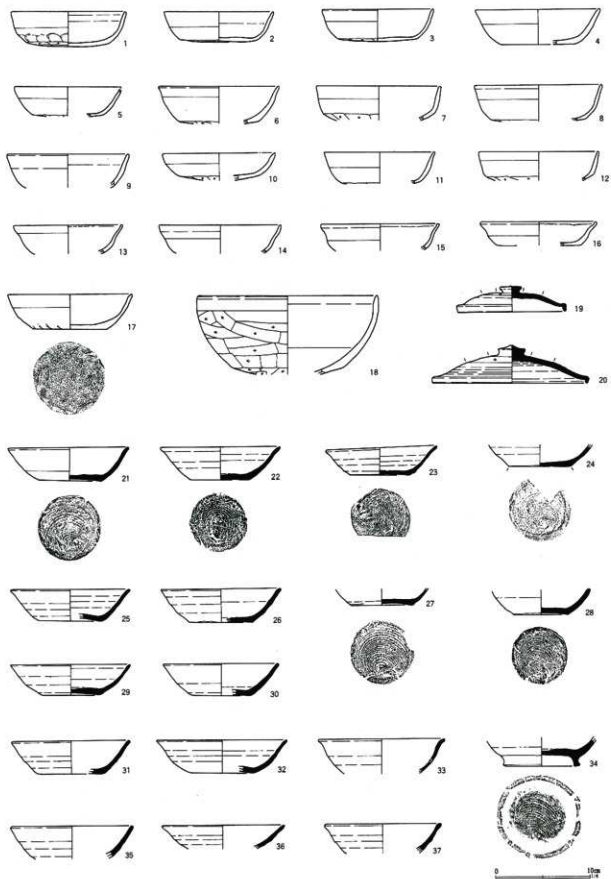
遺物は、住居跡覆土中から多く検出された。土師器環、暗文環、鉢、甕、台付甕、須恵器環、蓋、椀、高台付環、壺、甕などを検出した。土師器環は平底化する。17は真平で手持ちヘラケズリを施す。18は法量の大きい鉢である。28は割れ口が面取りされ内面が滑らかであることから転用甕とみられる。54は甕である。3連の孔が対に開けられていた。



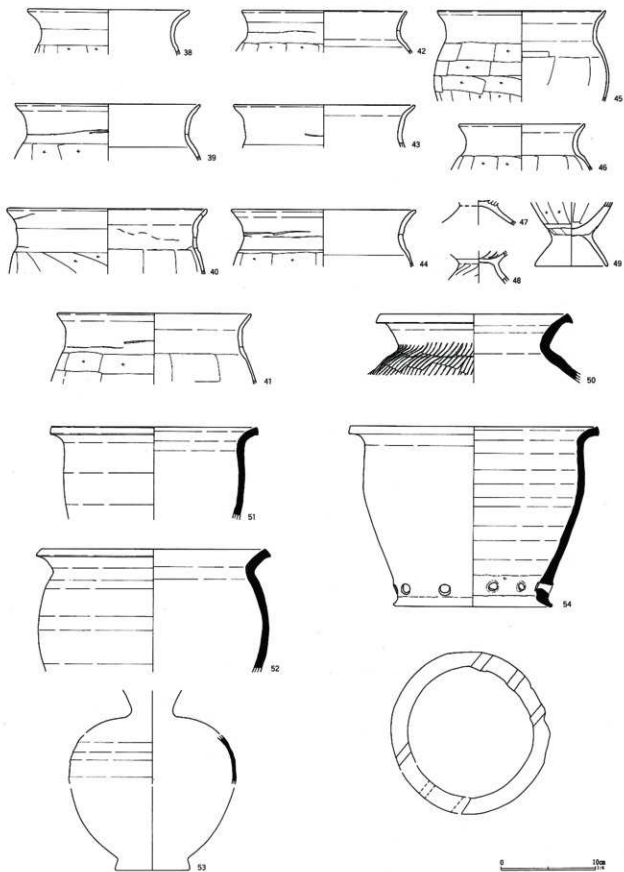
第18号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む
- b 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロック、炭化物を多量含む
- c 灰褐色土 灰白色粘土、焼土ブロック、ローム粒子を多量に含む(カマド積層土)
- d 黒褐色土 ローム粒子を多量含む 灰層
- e 暗褐色土 焼土ブロックを多量含む(天井の一部が残存)

第46図 第18号住居跡出土遺物(1)



第47图 第18号住居跡出土遺物(2)



第38表 第18号住居跡出土遺物觀察表 (第46・47図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(12.1)	3.7		BD	普通	茶褐色	85	No34・No43・#77'床直	
2	土師器環	(11.4)	3.2		ABD	普通	褐色	60	No1床直・覆土	
3	土師器環	(11.6)	3.4	8.5	BD	普通	暗褐色	50	覆土	
4	土師器環	(13.2)	(3.7)	(8.0)	ACDF	普通	褐色	25	覆土	
5	土師器環	(11.2)	(3.1)	(7.4)	ABCD	普通	褐色	30	No38	
6	土師器環	(12.6)	(3.9)	(8.4)	ABDF	普通	褐色	20	覆土	
7	土師器環	(13.2)	(3.6)		ABD	普通	暗褐色	25	覆土	
8	土師器環	(13.6)	(3.8)	(10.0)	ABD	普通	褐色	20	覆土	
9	土師器環	(12.8)	(3.5)		ABDF	普通	褐色	20	覆土	
10	土師器環	(11.8)	(2.9)		ABDF	普通	褐色	20	覆土	
11	土師器環	(11.8)	(3.3)		ABD	普通	褐色	25	覆土	
12	土師器環	(12.7)	(3.1)		ABD	普通	褐色	25	覆土	
13	土師器環	(11.4)	(3.0)		ABD	普通	褐色	25	覆土	
14	土師器環	(12.8)	(3.0)		ABD	普通	茶褐色	20	覆土	
15	土師器環	(12.5)	(2.8)		ABD	普通	茶褐色	25	貼床下	
16	土師器環	(12.2)	(2.5)	(8.8)	ABD	普通	茶褐色	20	覆土	
17	土師器環	(13.1)	3.7	7.8	ADF	普通	赤褐色	70	No28下層	
18	土師器鉢	(18.9)	(8.3)	(11.8)	ADF	普通	茶褐色	50	No16床直・No29下層・覆土	
19	須恵器蓋	11.4	2.7		A F 針	良好	灰色	40	覆土	南比企産
20	須恵器蓋	16.4	4.0		A F 片	普通	淡灰色	50	No19下層・No32・No33上層	覆土 未野産
21	須恵器環	12.6	3.5	6.6	ACDF片	普通	灰色	90	No17上層	未野産
22	須恵器環	(12.6)	3.5	6.3	ACDF片	普通	淡灰色	40	No21上層	未野産
23	須恵器環	11.7	2.9	6.3	ACDF片	良好	灰色	50	No31	未野産
24	須恵器環		2.3	6.8	ACDF片	普通	淡灰色	30	No8床面	未野産
25	須恵器環	(12.6)	3.3	(6.5)	ACDF片	普通	灰色	30	No18上層	未野産
26	須恵器環	(12.6)	3.5	(6.7)	ACDF片	普通	灰色	25	貼床・覆土	未野産
27	須恵器環		6.6	6.6	ACDF片	普通	褐灰色	30	No11上層	未野産
28	須恵器環		(2.6)	6.0	A D 針	普通	灰色	80	No2下層	南比企産 転用磁
29	須恵器環	(12.6)	3.2	(5.8)	ACDF片	普通	褐灰色	40	No24上層	未野産
30	須恵器環	(12.1)	3.4	(6.2)	ACDF片	普通	灰色	20	No5下層	未野産
31	須恵器環	(12.4)	3.5	(7.3)	ACDF片	普通	褐灰色	20	覆土	未野産
32	須恵器環	(13.8)	3.5	(6.6)	ACDF片	不良	褐色	30	覆土	未野産
33	須恵器環	(13.3)	(3.7)		C F 片	普通	灰褐色	10	覆土	未野産
34	須恵器高台環		(3.1)	8.2	ACDF片	良好	灰色	60	No12下層	未野産
35	須恵器環	(12.8)	(3.4)		ACDF片	普通	褐灰色	15	No1床直	未野産
36	須恵器環	(12.8)	(2.5)		ACDF片	普通	灰色	30	覆土	未野産
37	須恵器環	(12.2)	(3.1)		C F 片	普通	灰色	10	覆土	未野産
38	土師器甕	(18.2)	(4.7)		ABDF	普通	暗褐色	10	覆土	
39	土師器甕	(19.6)	(5.9)		ABDF	普通	褐色	10	No7床直	
40	土師器甕	(21.0)	(6.9)		ADF	普通	暗褐色	15	No3床直	
41	土師器甕	(20.4)	(7.5)		ADEF	普通	褐色	30	No20上層・No26床直・覆土	
42	土師器甕	(17.4)	(4.5)		ABDF	普通	褐色	15	覆土	
43	土師器甕	(19.2)	(4.4)		ABDF	普通	褐色	15	覆土	
44	土師器甕	(19.4)	(6.0)		ABD	普通	褐色	20	覆土	
45	土師器甕	(17.8)	(9.6)		ABDF	普通	暗褐色	20	No30上層・覆土	
46	土師器台付甕	(13.3)	(4.9)		ABDF	普通	赤褐色	20	貼床下	
47	土師器台付甕		(2.6)		ADF	普通	褐色	70	No9床直	
48	土師器台付甕		(3.4)		ABDF	普通	明褐色	60	覆土	
49	土師器台付甕		(3.6)		ABDF	普通	褐色	40	覆土	
50	須恵器甕	(19.8)	(7.3)		A F 片	普通	淡灰色	20	No37	未野産
51	須恵器鉢	(21.8)	(9.8)		A F 片	良好	青灰色	15	No4床直	未野産

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
52	須恵器鉢	(23.7)	(12.9)		A F片	普通	灰色	15	No.38・覆土	未野産
53	須恵器壺		(5.2)		A F	良好	暗灰色	10	覆土	産地不明
54	須恵器甌	26.2	19.0	17.0	A C D F片	普通	灰色	60	No.42	未野産

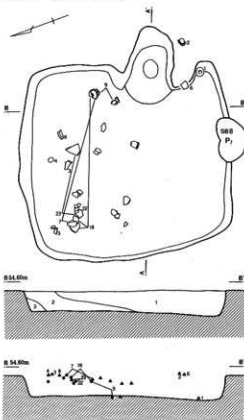
第39表 第18号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器								
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	甌	台付甕	その他	坏	蓋	椀・鉢	高台坏	皿・盤	壺	甕	甌
計量値																
口縁部(片)	204		15	1	44		5		80	6	2	3		1	5	1
(g)	1570		98	345	660		50		766	210	355	25		4	285	8000
体部(片)	152		13		774				29	3				6	25	
(g)	755		60		3045				92	40				100	536	
底部(片)					18		8		44			2			1	
(g)					172		182		626			122			30	

第19号住居跡 (第48図)

調査区北側の54-13グリッドに位置する。南側には第18号住居跡、東側には第20号住居跡が存在する。また、第18号住居跡とは、北方向にずらし重複関係はもたないが、ほぼ軸方向やカマド位置は同じである。規模は異なる。周辺には第6・7・8・9号掘立柱建物跡が存在する。

第48図 第19号住居跡



第19号住居跡
 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、炭化物を少量含む
 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
 3 黒褐色土 ローム粒子を少量含む

平面形態は方形である。規模は主軸長3.08m、副軸長3.40m、深さ30cmである。主軸方位はS-70°-Eである。

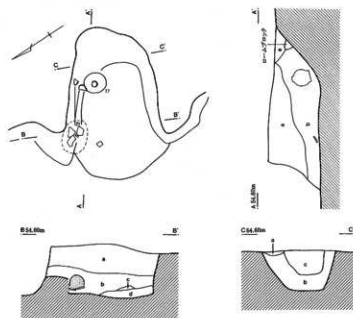
床面は、地山ローム土基盤としほぼ平坦である。住居跡南壁には第8号掘立柱建物跡P7が重複する。

カマドは、東壁のやや南寄りに構築されている。規

模は、全長95cm、焚き口幅70cm、焼成部の最大幅は54cm、床面からの掘り込みの深さは2cmと浅く床面とほぼ同じ高さである。

遺物は、住居跡覆土中から多く検出された。土師器坏、暗文坏、甕、台付甕、須恵器坏、蓋、椀、壺、甕などを検出した。須恵器坏は3が南比企産であるが、他は未野産である。6は高台付皿の可能性もあるが、口唇部が折り返されていることから蓋と判断した。

第49図 第19号住居跡カマド



第19号住居跡 カマド

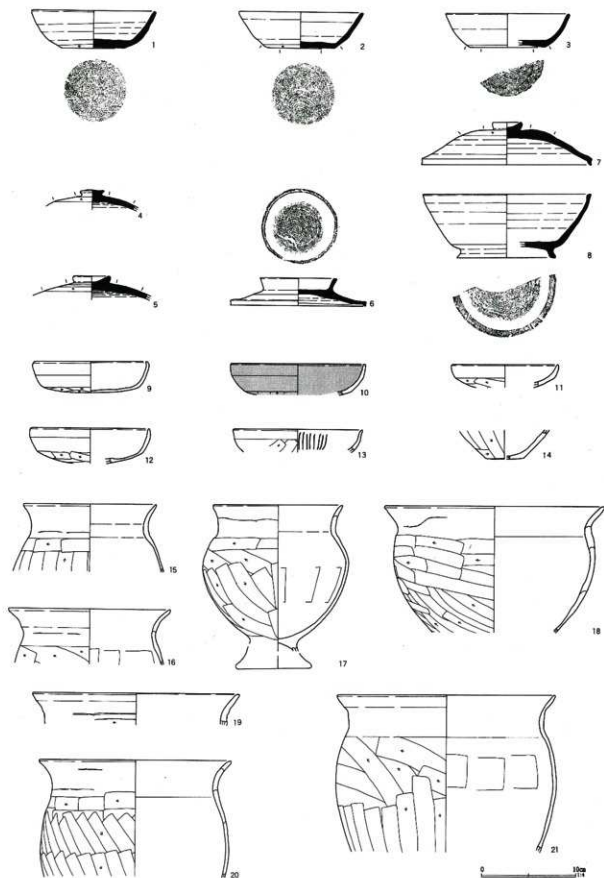
- a. 暗褐色土 ローム粒子を少量、ロームブロックを散見含む
 b. 暗褐色土 ローム粒子を、ロームブロック、焼土粒子を少量、焼土ブロック、炭化物を少量、灰白色粘土ブロックを含む
 c. 暗褐色土 灰白色粘土を食む(天井崩落土)
 d. 暗褐色土 ローム粒子、炭化物を少量含む(炭層の一部)
 e. 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、灰白色粘土ブロックを少量含む

0 1m

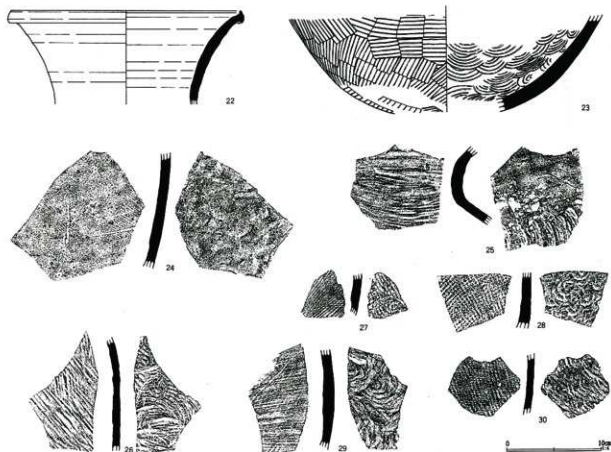
第40表 第19号住居跡出土遺物観察表 (第50・51図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器環	13.3	4.0	6.7	ACDF片	良好	褐灰色	100	No.23	未野産
2	須恵器環	(13.2)	3.8	7.1	ACDF片	良好	黄灰色	65	No.21	未野産
3	須恵器環	(13.2)	3.6	(8.0)	AF針	良好	黒灰色	40	37'上層	南比全産
4	須恵器蓋	(2.2)			ACDF片	良好	灰色	40	No.12上層	未野産 つまみ径2.5cm
5	須恵器蓋	(2.5)			ACDF片	普通	褐色	60	覆土	未野産 つまみ径3.8cm
6	須恵器蓋	(14.4)	2.9		ACDF片	良好	灰色	60	No.20上層	未野産 つまみ径8.2cm
7	須恵器蓋	(18.2)	4.5		ABDF片	良好	褐灰色	70	No.7・No.18・上層・覆土	未野産 つまみ径3.0cm
8	須恵器高台椀	(18.0)	(6.7)	(10.4)	ACDF片	良好	灰色	45	No.14・覆土・上層	未野産
9	土師器環	11.9	3.3	(10.2)	ADF	普通	褐色	60	No.19上層・No.22床直・覆土	黒色土器
10	土師器環	(14.2)	(3.3)		AD	普通	黒色	15	覆土	
11	土師器環	(11.3)	(2.4)		ABCF	普通	褐色	10	覆土	
12	土師器環	(12.5)	(3.7)	(11.2)	ADF	普通	褐色	20	覆土	
13	土師器環	(13.6)	(2.4)		ABDF	普通	橙褐色	5	37'	放射状暗文
14	土師器甕		(3.0)	(4.0)	ABF	普通	明褐色	25	覆土	
15	土師器台付甕	(14.0)	(7.1)		D	普通	褐色	20	覆土	
16	土師器甕	(17.0)	(5.9)		ABDF	普通	明褐色	15	覆土	
17	土師器台付甕	13.6	15.5		ADF	普通	明褐色	90	37'・No.27	
18	土師器鉢	(23.2)	(13.3)		ABCDE F	普通	褐色	40	No.8・No.19上層	
19	土師器甕	(21.8)	(3.3)		ADF	普通	赤褐色	5	37'	
20	土師器甕	(20.2)	(12.3)		ABCDE F	良好	茶褐色	50	上層・覆土	
21	土師器甕	(24.9)	(16.6)		ABDF	普通	橙褐色	20	37'・No.24・No.25・No.26・37'	
22	須恵器長頸甕	(24.5)	(9.8)		AF片	普通	灰色	20	No.6上層・覆土	未野産
23	須恵器甕		(10.0)	(23.7)	AF片	普通	灰色		No.6上層・No.13上層	未野産
24	須恵器甕				AF片	普通	灰色			未野産
25	須恵器甕				AF片	普通	暗灰色			未野産
26	須恵器甕				AF片	普通	暗灰色			未野産
27	須恵器甕				AF片	普通	灰色			未野産
28	須恵器甕				AF片	普通	灰色			未野産
29	須恵器甕				AF片	普通	暗灰色			未野産
30	須恵器甕				AF片	普通	褐灰色			未野産

第50图 第19号住居跡出土遺物(1)



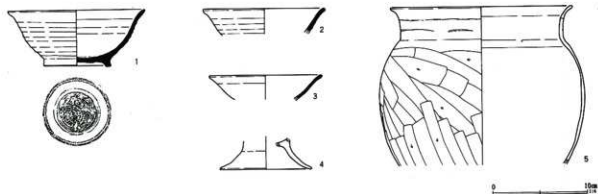
第51図 第19号住居跡出土遺物(2)



第41表 第19号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器							須恵器					鉄・石器	
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	台付甕	その他	坏	蓋	碗・鉢	高台坏	皿・盤		壺
口縁部(片)	28		1	1	22		2	14	5	1			3	2
(g)	220		8	450	1360		460	445	520	220			284	555
体部(片)	50		8		244		1	14						22
(g)	225		55		1045		15	50						1740
底部(片)					5			4		1				1
(g)					65			28		9				745

第52図 第20号住居跡出土遺物



第20号住居跡 (第20図)

調査区北側の55-14グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から西壁を経て南壁部分までの住居跡西側半分である。西側には第18・19号住居跡が存在する。

平面形態は不明であるが方形と推定される。残存規模は南北軸長2.40m、東西軸長1.70m、深さ12cmである。主軸方位はN-25°-Eである。

床面は、ほぼ平坦であるが、わずかに中央付近が高まる。壁はほぼ垂直に立ち上がり壁溝をもたない。

断面観察によると住居覆土はほぼ築造時のうちに自然堆積したものと半断する。

カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、土師器環、甕、台付甕、須恵器環、高台付環、壺を検出した。図示した須恵器はいずれも末野産である。5は床直から出土した土師器甕である。口縁部は「コ」の字状をし、胴部は張りもち球状をする。外面のヘラケズリは丁寧である。

第42表 第20号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器高台環	14.8	5.8	7.2	ACDF片	普通	青灰色	65	No4・覆土	末野産
2	須恵器環	13.0			ACF片	普通	青灰色	5		末野産
3	須恵器環	(12.0)			ACDF片	普通	青灰色	5		末野産
4	土師器台付甕			9.8	ABDE	普通	橙褐色	50	No3床直・覆土	
5	土師器甕	(19.2)	16.7		ABCDEF	良好	橙褐色	40	No2床直	

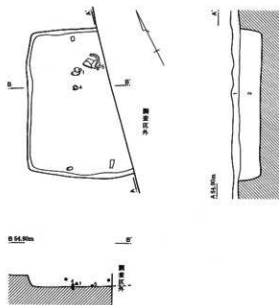
第43表 第20号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器					鉄・石器		
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環		皿・盤	壺
口縁部(片)	19				12				24	2		1		1	
(g)	105				335				88	6		170		6	
体部(片)	18				103				10						
(g)	45				385				30						
底部(片)					3		6		1			3			
(g)					45		68		10			35			

第22号住居跡 (第54図)

調査区中央の62-12グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり、西側には大きな攪乱を受けていた。検出した遺構はカマドおよび北壁の一部と南壁の一部である。西壁は全て攪乱により不明であった。南側には第23・24号住居跡、北側には第1号住居跡が存在する。

第53図 第20号住居跡



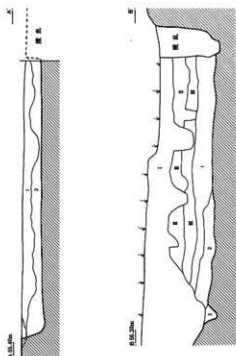
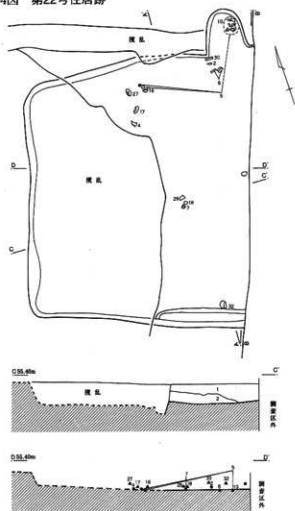
第20号住居跡
1 覆土 1 ローム砂子、ロームブロック、炭化物を少量含む
2 壁溝 1 土師器土、焼土砂子を少量含む

0 2.5m

平面形態は不明であるが方形と推定される。残存規模は主軸長4.46m、副軸長3.66m、深さ34cmである。主軸方位はN-19°-Eである。

床面は、ほぼ平坦であるが、わずかに中央付近が高く壁はほぼ垂直に立ち上がり南壁では壁溝を検出した。

第54図 第22号住居跡



第22号住居跡

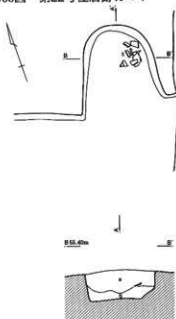
- 1 褐色土 火山灰(浅層A)を含む
- II 黒色土 火山灰(浅層A)を少量含む(中世か?)
- III 黒褐色土 古代灰土 焼土粒子を少量、土師器片を含む
- 2 暗褐色土 焼土粒子を少量、ローム粒子を少量、灰褐色土ブロックを含む
- 3 暗褐色土 焼土粒子、灰化物を少量含む
- 4 暗褐色土 粘性有り ローム粒子、ロームブロックを少量含む

第55図 第22号住居跡カマド

断面観察によると住居覆土は自然堆積したものと判断する。

カマドは北壁に設けられ、中央部は攪乱を受ける。規模は、全長60cm、焚き口幅64cm、床面からの掘り込みの深さ10cmである。

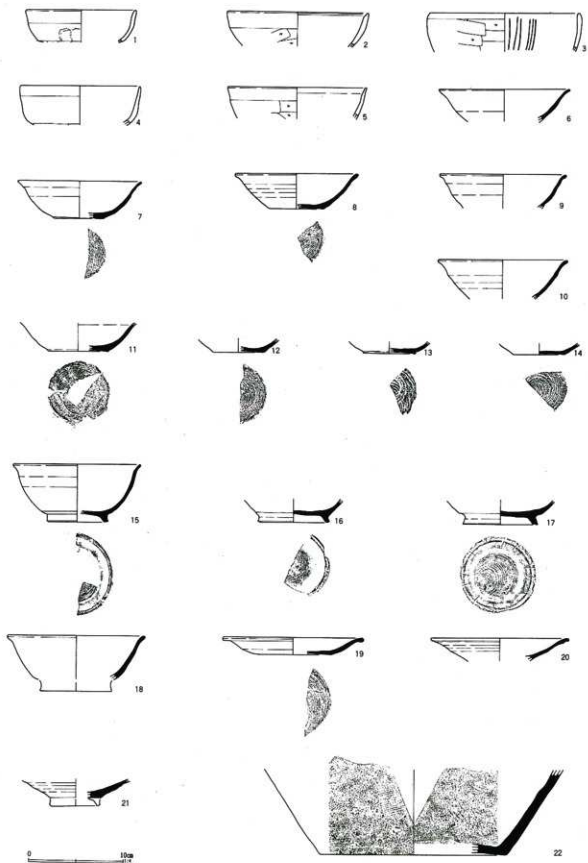
遺物は、土師器杯、皿、甕、台付甕、須恵器杯、蓋、高台付杯、皿、甕を検出した。図示した須恵器はいずれも未製産である。土師器は、甕、台付甕が多い。



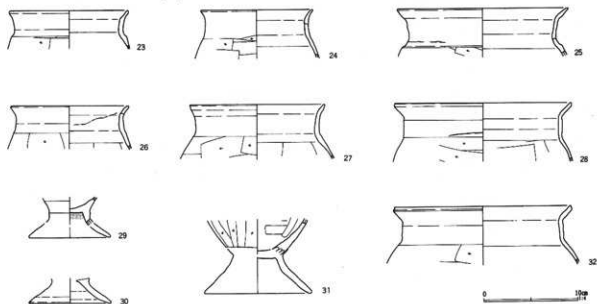
第22号住居跡 カマド

- a 暗褐色土 焼土粒子を少量、焼土ブロックを少量含む
- b 暗褐色土 ローム粒子、灰褐色土を少量含む
- c 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む

第56图 第22号住居跡出土遺物(1)



第57図 第22号住居跡出土遺物(2)



第44表 第22号住居跡出土遺物観察表 (第56・57図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器 環	(11.6)	(3.4)	(9.1)	D F	普通	褐色	10	覆土	
2	土師器 環	(14.9)	(3.6)		D F	普通	褐色	10	覆土	
3	土師器 椀	(15.8)	(4.1)		A D F	普通	褐色	5	覆土	放射状暗文
4	土師器 環	(12.8)	(4.1)		B D F	普通	暗褐色	5	覆土	
5	土師器 環	(14.6)	(3.3)		A B D	普通	褐色	5	覆土	
6	須恵器 環	(14.0)	(3.4)		A D F片	良好	淡灰色	30	No.6 覆土	未野産
7	須恵器 環	(13.0)	3.8	(5.6)	A C D片	良好	灰色	50	No.19 覆土	未野産
8	須恵器 環	(12.9)	(3.7)	(5.7)	A C D F片	普通	黒灰色	25	No.13 覆土	未野産
9	須恵器 環	(13.4)	(3.6)		A D F片	不良	褐灰色	15	覆土	未野産
10	須恵器 環	(13.6)	(4.1)		A C D F片	不良	褐灰色	15	覆土	未野産
11	須恵器 環		(3.0)	(6.2)	A C D F片	普通	灰色	50	覆土	未野産
12	須恵器 環		(1.5)	(5.5)	A D片	良好	黒灰色	40	覆土	未野産
13	須恵器 環		(1.3)	(5.6)	A F片	良好	灰色	25	覆土	未野産
14	須恵器 環		(1.2)	(5.5)	A D片	良好	黒灰色	20	覆土	未野産
15	須恵器 高台 環	(14.6)	(4.7)		A C D F片	良好	灰色	15	覆土	未野産
16	須恵器 高台 環		(2.6)	(6.8)	A D F片	良好	茶褐色	50	覆土	未野産
17	須恵器 高台 環		(2.6)	8.0	A D片	良好	茶褐色	50	No.9	未野産
18	須恵器 高台 環	(13.6)	(6.1)	(5.7)	A D F片	良好	灰色	25	覆土	未野産
19	須恵器 皿	(15.0)	1.8	(8.0)	A D F片	良好	褐灰色	45	No.12 覆土	未野産
20	須恵器 皿	(14.8)	(2.4)		A C D F片	良好	淡灰色	30	No.5	未野産
21	須恵器 高台 皿		(2.9)		A C D片	不良	黒灰色	20	覆土	未野産
22	須恵器 甕		(9.1)	(19.9)	A B F片	普通	灰色	20	No.1 覆土	未野産
23	土師器 台付 甕	(12.4)	(4.0)		A B D F	普通	明褐色	10	覆土	
24	土師器 台付 甕	(11.9)	(5.1)		A B D	普通	褐色	20	No.4	
25	土師器 甕	(18.1)	(5.1)		A D F	普通	褐色	10	覆土	
26	土師器 台付 甕	(12.5)	(4.6)		A B D F	普通	橙褐色	15	No.11	
27	土師器 台付 甕	(14.3)	(5.8)		A B D F	普通	褐色	30	No.7・No.8・No.15	
28	土師器 甕	(18.8)	(6.2)		A D F	普通	褐色	15	No.3	
29	土師器 台付 甕		(3.0)		A B C D F	普通	暗褐色	50	No.14	内面に未?
30	土師器 台付 甕		(2.6)	(8.6)	A B D F	普通	褐色	25	覆土	
31	土師器 台付 甕		(3.7)		D F	普通	暗褐色	20	覆土	未野産
32	土師器 甕	(18.8)	(6.2)		A B D F	普通	褐色	15	No.15 覆土	

第45表 第22号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器					鉄石器		
	坏	皿	暗文坏	鉢	甕	瓶	台付甕その他	坏	蓋	桶・鉢	高台坏	皿・盤		壺	甕
口縁部(片)	58	11	1		38		5	63	2			5		3	1
(g)	253	53	12		435		97	356	12		42	106		52	60
体部(片)	168		10		543			50						8	
(g)	510		41		2330			156						110	
底部(片)					5		7	24			10			1	
(g)					61		140	263			263			422	

第23号住居跡 (第58図)

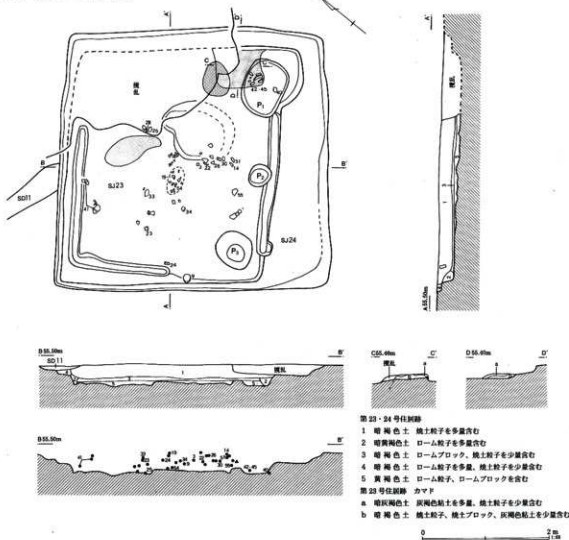
調査区中央の62-11グリッドに位置する。本住居跡は第24号住居跡と重複関係にある。第24号住居跡の内側にわずかに規模を縮小し入れ子状に造られていた。北壁および西壁の一部は攪乱を受け不明である。東壁際にはP1～P3の攪乱をもつ。北側には第22号住居

跡、南側には第25号住居跡が存在する。

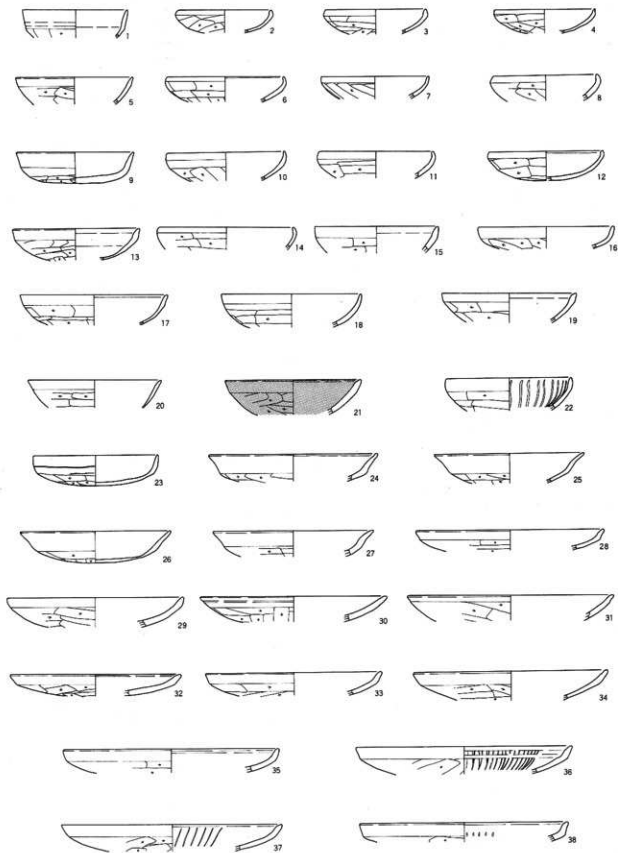
平面形態は方形である。規模は南北軸長3.75m、東西軸長3.64m、深さ35cmである。主軸方位はN-53°-Wである。

床面は、荒掘りした部分にローム粒子、ロームブロック

第58図 第23・24号住居跡

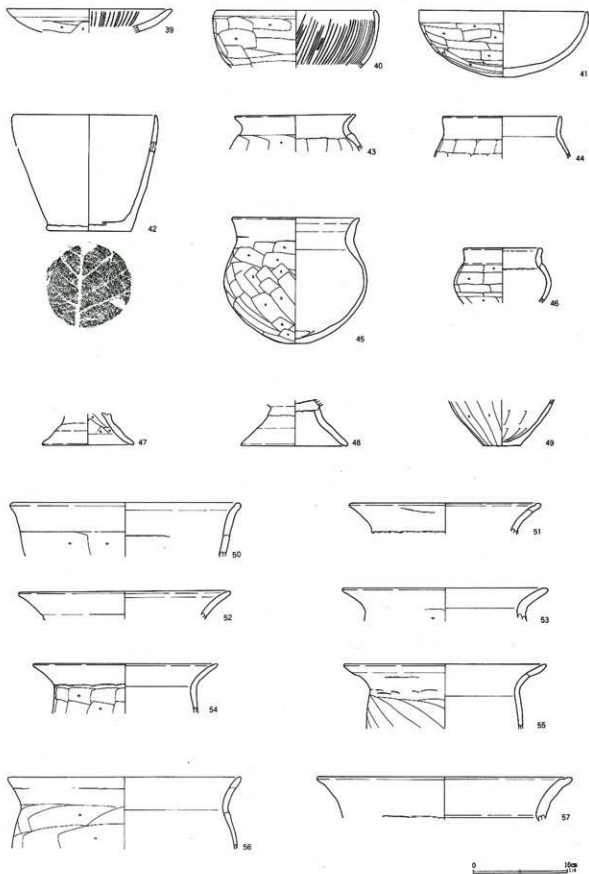


第59図 第23・24号住居跡出土遺物(1)

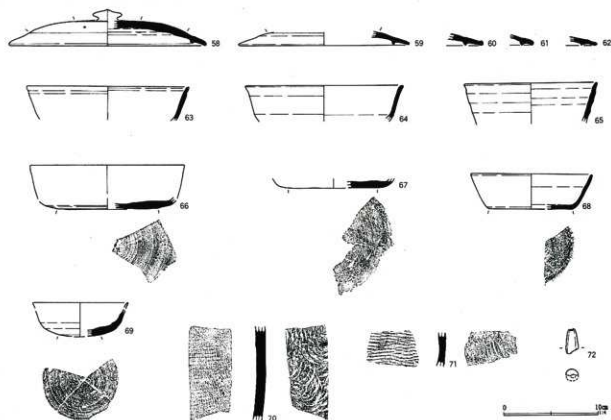


0 10cm

第60图 第23・24号住居跡出土遺物(2)



第61図 第23・24号住居跡出土遺物(3)



ックによって貼り床され平坦面を造っていた。壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁から南壁の半分と東壁に伴う壁溝を検出した。床面北西寄りと北東コーナー部には粘土が堆積していた。

断面観察によると第24号住居跡の覆土第4層を切り込んで本住居跡覆土である第1～5層が堆積していた。第3・5層は貼り床である。

カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、土師器環、暗文環、鉢、甕、甌、須恵器環、蓋、壺、甕を検出した。土師器は、1が小型の横做環、

第24号住居跡 (第58図)

調査区中央の62-11グリッドに位置する。本住居跡は第23号住居跡と重複関係にある。第23号住居跡の外側に壁が存在する。北壁および西壁の一部は攪乱を受け不明である。北側には第22号住居跡、南側には第25号住居跡が存在する。

床面は、第23号住居跡によって掘り込まれ、わずかに、東壁際が残存する。地山ルームを基盤とし、平坦

2～23は北武蔵型環、24～39は皿である。皿には、24～27の口縁部ヨコナデ範囲がやや長く、逆「ハ」の字状に開く形態、28～38は口縁部のヨコナデは短く、屈曲して立ち上がる。39のように直線的に立ち上がる形態など様々である。40、41は土師器碗とした。40は内面に放射状暗文を施す。42は底部外面に木葉痕のつく鉢。図示した須恵器の内69は産地不明である。他は木野産である。環の底部調整は66、67、69が回転ヘラケズリ、68は手持ちヘラケズリである。蓋はいずれも返りをもつ。

である。壁溝はもたない。カマドは検出されていないが、北壁に造られていたものと予想される。

平面形態は方形である。規模は南北軸長4.40m、東西軸長4.19m、深さ14cmである。主軸方位はN-40°-Wである。

遺物は、第24号住居跡として帰属するものは不明であるため、第23・24号住居跡出土遺物として扱った。

第46表 第23号住居跡出土遺物觀察表 (第59~61図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器坏	(11.0)	(3.0)		ABCDEF	普通	淡褐色	5	SJ-23-24	
2	土師器坏	(10.0)	(2.4)		ABDE	普通	褐色	30	SJ-23-24	
3	土師器坏	(10.6)	(2.6)		ABDE	普通	褐色	10	No.33	
4	土師器坏	(10.7)	(2.5)		ABCDEF	普通	褐色	10	SJ-23-24	
5	土師器坏	(12.4)	(2.9)		ABDE	普通	淡褐色	10	SJ-23-24	
6	土師器坏	(12.5)	(2.7)		ABD	普通	褐色	20	SJ-23-24	
7	土師器坏	(11.4)	(2.4)		ABDE	良好	橙褐色	15	SJ-23-24	
8	土師器坏	(11.0)	(2.7)		ABCDEF	普通	褐色	10	覆土	
9	土師器坏	(12.5)	3.4		ABCDEF	良好	茶褐色	100	No.1	
10	土師器坏	(12.5)	(3.0)		ABDEF	普通	褐色	10	SJ-23-24	
11	土師器坏	(12.0)	(2.8)		ABDE	普通	褐色	20	SJ-23-24	
12	土師器坏	(12.0)	(3.1)		ABDE	普通	褐色	30	SJ-23-24	
13	土師器坏	(13.5)	(3.3)		ABDE	普通	淡褐色	20	SJ-23-24	
14	土師器坏	(14.2)	(2.3)		ABDE	普通	茶褐色	10	No.21	
15	土師器坏	(13.0)	(2.8)		ABDE	普通	淡褐色	10	SJ-23-24	
16	土師器坏	(14.4)	(2.3)		ABDE	普通	褐色	10	SJ-23-24	
17	土師器坏	(15.7)	(3.2)		ABCDEF	良好	橙褐色	40	SJ-23-24	
18	土師器坏	(14.8)	(3.5)		ABDE	普通	褐色	20	SJ-23-24	
19	土師器坏	(14.2)	(3.1)		ABDE	普通	褐色	20	No.16	
20	土師器坏	(14.0)	(2.9)		ABDE	普通	淡褐色	10	覆土	
21	土師器坏	(14.3)	(3.7)		ABCDEF	普通	淡褐色	10	SJ-23-25	
22	土師器坏	(13.4)	(3.4)		ABD	普通	褐色	20	No.31	内面黒色処理 放射状暗文
23	土師器坏	(13.2)	3.2		ABCDEF	普通	褐色	40	No.3	
24	土師器皿	(17.8)	(2.9)		ABCDEF	良好	明褐色	20	No.2	
25	土師器皿	(16.0)	(3.1)		ABDE	普通	明褐色	30	No.19	
26	土師器皿	(16.0)	3.4		ABCDEF	普通	橙褐色	30	No.28	
27	土師器皿	(17.0)	(2.7)		ABCDEF	普通	褐色	10	SJ-23-24	
28	土師器皿	(20.0)	(2.2)		ABDEF	普通	明褐色	10	No.37	
29	土師器皿	(18.6)	(3.1)		ABCDEF	普通	褐色	10	SJ-23-24	
30	土師器皿	(19.8)	(2.6)		ABCDEF	普通	褐色	20	No.22	内面摩滅
31	土師器皿	(21.8)	(2.7)		ABCDEF	良好	橙褐色	10	SJ-23-24	
32	土師器皿	(18.0)	(2.3)		ABDE	普通	褐色	20	SJ-23-24	
33	土師器皿	(18.5)	(2.4)		ABCDEF	普通	橙褐色	20	No.6	
34	土師器皿	(20.6)	(3.1)		ABCDEF	普通	褐色	20	No.13	
35	土師器皿	(22.8)	(2.5)		ABDE	普通	暗褐色	10	SJ-23-24	
36	土師器皿	(23.0)	(2.9)		ABDE	普通	褐色	10	SJ-23-24	放射状暗文
37	土師器皿	(23.3)	(2.8)		ABDE	普通	褐色	10	SJ-23-24	放射状暗文
38	土師器皿	(22.0)	(2.0)		ABDE	普通	褐色	5	SJ-23-24	放射状暗文
39	土師器皿	(17.6)	(2.5)		ABD	普通	褐色	5	SJ-23-24	放射状暗文
40	土師器碗	(17.0)	(6.1)		ABDE	普通	橙褐色	40	No.36	放射状暗文
41	土師器碗	(18.0)	(6.9)		ABCDEF	良好	橙褐色	60	No.7·No.8	
42	土師器鉢	(15.1)	(12.2)	8.8	ABDE	普通	褐色	50	No.38	底部外面木炭痕
43	土師器甕	(12.7)	(3.8)		ABDE	普通	橙褐色	20	SJ-23-24	
44	土師器台付甕	(12.6)	(4.4)		ABDE	普通	茶褐色	20	SJ-22-23	内面摩滅顯著
45	土師器壺	13.3	13.3		ADF	普通	褐色	60	No.38	
46	土師器壺	(8.2)	(7.0)		ABDE	普通	明褐色	30	SJ-23-24	
47	土師器台付甕	(3.4)		(9.5)	ABCDEF	普通	褐色	20	SJ-23-24	
48	土師器台付甕	(4.9)		11.3	ABDE	普通	褐色	40	SJ-23-24	
49	土師器甕	(4.8)		4.0	ABCDEF	普通	褐色	40	SJ-23-24	
50	土師器鉢	(24.0)	(5.7)		ABDE	普通	橙褐色	5	SJ-23-24	
51	土師器甕	(20.0)	(3.3)		ABDE	普通	褐色	10	No.20	

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
52	土師器甕	(22.5)	(2.9)		ABDE	普通	褐色	10	SJ-23-24		
53	土師器甕	(21.8)	(3.6)		ABDE	普通	褐色	5	SJ-23-24		
54	土師器甕	19.4	(5.2)		ABCDEF	普通	淡褐色	80	No15-覆土		
55	土師器甕	(21.5)	(6.8)		ABCDEF	普通	茶褐色	20	No11		
56	土師器甕	(24.4)	(7.7)		ABCDEF	普通	明褐色	20	SJ-23-24		
57	土師器甕	(27.0)	(4.6)		ABDE	普通	褐色	5	SJ-23-24		
58	須恵器蓋	(20.8)	(2.7)		ACDF片	普通	褐灰色	20	SJ-23-24	未野産	
59	須恵器蓋	(18.0)	(1.4)		ACDF片	普通	暗灰色	10	SJ-23-24	未野産	
60	須恵器蓋				ACDF片	普通	灰色	5	SJ-23-24	未野産	
61	須恵器蓋				ACDF片	普通	灰色	5	SJ-23-24	未野産	
62	須恵器蓋				ACDF片	普通	灰褐色	5	SJ-23-24	未野産	
63	須恵器環	(17.2)	(3.5)		ACDF片	普通	褐灰色	20	SJ-23-24	未野産	
64	須恵器環	(16.5)	(3.8)		ACDF片	普通	褐灰色	20	SJ-23-24	未野産	
65	須恵器環	(14.0)	(4.4)		ACDF片	普通	暗灰色	5	SJ-23-24	未野産	
66	須恵器環		(1.2)	(13.4)	ACDF片	普通	茶灰色	20	SJ-23-24	未野産	
67	須恵器環		(1.0)	(10.0)	ACDF片	不良	褐色	40	SJ-23-24-SJ-22覆土	未野産	
68	須恵器環	(12.9)	3.7	(9.0)	ACDF片	良好	青灰色	30	SJ-23-24	未野産	
69	須恵器環		(2.8)		AC	良好	灰色	30	SJ-23-24	産地不明	
70	須恵器甕				ACDF片	良好	灰色		SJ-23-24	未野産	
71	須恵器甕				ACDF片	普通	灰色		SJ-23-24	未野産	
72	土鏃	残存長 2.6、幅 1.3、孔径 0.5cm、重量 2.4g						褐色	50	SJ-23-24	

第47表 第23・24号住居跡出土遺物計量表

計量器	土師器							須恵器					鉄石器		
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	腕・鉢	高台付		皿・壺	壺
口径部(片)	106	19	8	2	48		1	5	8	13			1		
(g)	1040	493	183	353	891		32	105	87	131			46		
体 澤(片)	120		21		723	1		2	4	3			1	8	
(g)	680		146		4424	74		15	12	41			22	216	
底 部(片)	16				23		2		7						
(g)	121				628		130		152						

第25号住居跡 (第62図)

調査区中央の63-11グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から西壁を経て南壁部分までの住居跡西側半分である。北側には第23・24号住居跡が存在する。

平面形態は不明であるが方形と推定される。残存規模は南北軸長3.40m、東西軸長1.60m、深さ38.5cmである。主軸方位はN-18°-Wである。

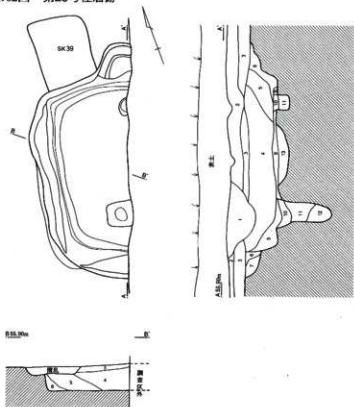
床面は、ほぼ平坦であるが、わずかに中央付近が高まる。南北軸方向には、対ピットを検出した。北側はやや浅く、南側は深い。また、住居中央部には浅い掘り方もしくは皿状土壌が存在し、その上に、しまりのあるローム粒子、ロームブロックを含む貼り床をもつ。

北壁には階段状遺構を検出した。壁はほぼ垂直に立ち上がり壁溝が巡る。

カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、土師器環、皿、暗文環、鉢、甕、瓶、台付甕、須恵器環、蓋、高台付環、鉢、壺、甕を検出した。1は法量の小さい模倣環である。2、3は有段口径環である。6、8、9、11は口唇部を外方に屈曲させる。7、14は暗文環である。14は底部内面に螺旋および放射状暗文、外面に細かな磨きを施す。図示した須恵器は26の壺が秋間産、その他はいずれも未野産である。34は甕底部としたが、器内厚く支脚先端部の可能性もある。

第62図 第25号住居跡



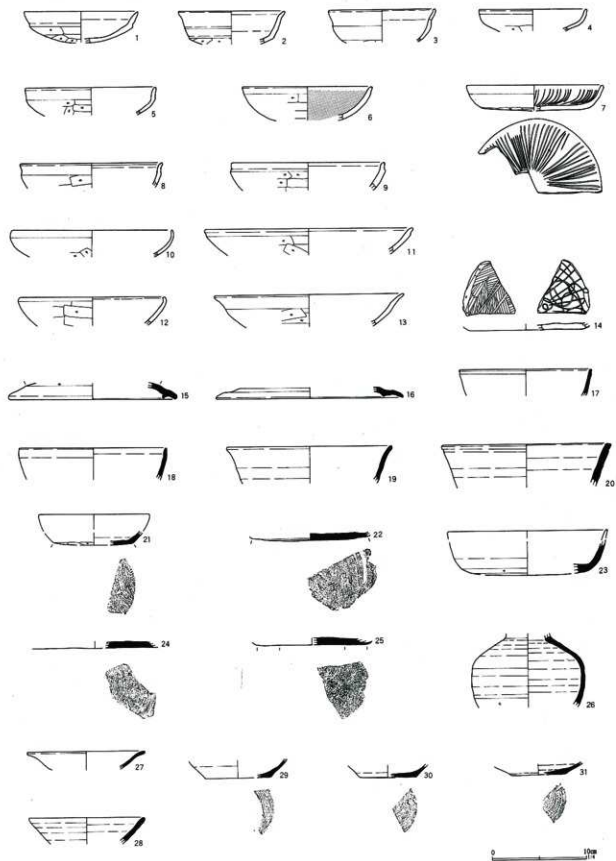
第25号住居跡 カマド

- 1 黒褐色土 焼土粒子、ローム粒子を散見、火山灰（浅層目か?）まばらに含む（中層の裏か）
- 2 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を散見、火山灰（浅層目か?）を少量含む
- 3 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子をやや多量に含む
- 4 褐色土 焼土粒子を多量、ローム粒子を均一に含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子を少量含む（4層より暗い色調）
- 6 黄褐色土 ソフトローム、ロームブロック多量、褐色土を含む
- 7 褐色土 ローム粒子を少量含む 壁崩落部埋積土
- 8 明褐色土 ローム粒子多量含む
- 9 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む（しまりあり）
- 10 暗褐色土 割り方 埋め上に類似 暗褐色土、ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 11 暗褐色土 ローム粒子を多量含む（黒味あり）
- 12 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む 13層よりやや暗い
- 13 暗褐色土 ロームブロックを多量含む

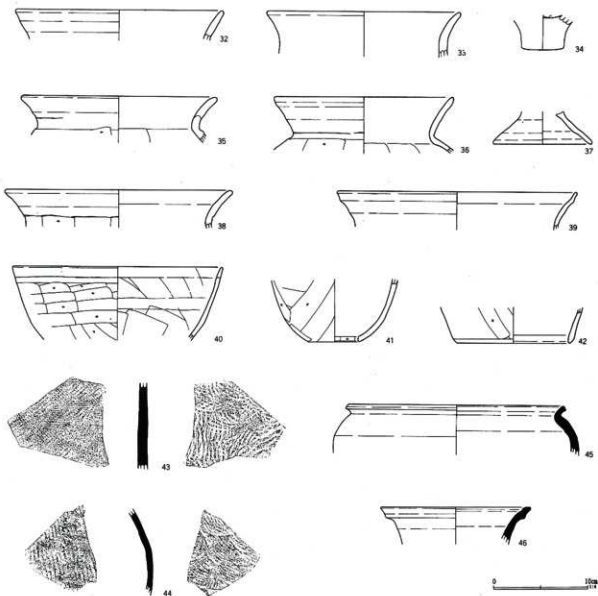
第48表 第25号住居跡出土遺物観察表（第63・64図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器杯	(12.0)	(3.2)		BDF	普通	橙褐色	20		
2	土師器杯	(11.2)	(3.5)	(9.1)	ABF	普通	橙褐色	5		
3	土師器杯	(11.2)	(3.4)		BDF	普通	暗褐色	10		
4	土師器杯	(11.4)	(2.3)		DF	普通	橙褐色	5		
5	土師器杯	(13.8)	(2.9)		ADF	良好	橙褐色	5		
6	土師器杯	(13.6)	(3.5)		ABC F	普通	橙褐色	5		内面赤彩
7	土師器杯	(14.4)	(2.7)		ABCDEF	良好	橙褐色	40		放射状暗文
8	土師器杯	(15.0)	(2.6)		ABC F	普通	橙褐色	5		
9	土師器杯	(16.2)	(2.9)		ABF	普通	褐色	5		
10	土師器杯	(17.0)	(2.8)		ABC F	普通	橙褐色	5		
11	土師器皿	(21.9)	(2.8)		ABC F	普通	橙褐色	5		
12	土師器杯	(15.2)	(3.0)		ADF	普通	橙褐色	5		
13	土師器皿	(20.0)	(3.4)		ABCDEF	普通	橙褐色	5		
14	土師器皿		(0.7)	(12.0)	ACDE	良好	褐色	15		螺旋・放射状暗文
15	須恵器蓋	(17.8)	(1.7)		ACDF片	普通	淡灰色	5		未野産
16	須恵器蓋	(20.0)	(1.1)		ACDF片	普通	茶褐色	5		未野産
17	須恵器碗	(14.0)	(2.8)		ACDF片	普通	灰色	5		未野産
18	須恵器碗	(15.7)	(3.3)		ACDF片	良好	灰色	10		未野産
19	須恵器杯	(17.4)	(3.9)		ACDF片	普通	褐灰色	5		未野産
20	須恵器鉢	(18.0)	(4.5)		ACDF片	良好	紫灰色	10		未野産
21	須恵器杯		(1.3)	(8.4)	ACDF片	普通	灰色	30		未野産 手持ちヘタスリ
22	須恵器杯		(0.7)	(12.4)	ACDF片	普通	淡灰色	30		未野産 手持ちヘタスリ
23	須恵器杯		(3.6)	(12.0)	ACDF片	普通	灰色	10		未野産
24	須恵器杯		(0.7)		ACDF片	普通	淡灰色	10		未野産 回転ヘタスリ
25	須恵器杯		(0.7)	(11.6)	ACDF片	普通	褐灰色			未野産 手持ち外周ヘタスリ

第63図 第25号住居跡出土遺物(1)



第64图 第25号住居跡出土遺物(2)



番号	器種	口径	器高	底径	胎土	烧成	色调	残存率	出土位置	備考
26	須惠器長頸甕		(7.9)		ADF	良好	灰色	30		秋岡産
27	須惠器环	(12.6)	(2.1)		ACDF片	普通	黑灰色	30		末野産
28	須惠器环	(12.2)	(2.7)		ACDF片	普通	灰色	30		末野産
29	須惠器环		(1.9)	(7.0)	ACDF片	普通	灰色	20		末野産
30	須惠器环		(1.3)	(6.0)	ACDF片	普通	灰色	20		末野産
31	須惠器环		(1.2)	(6.0)	C F片	普通	灰色	20		末野産
32	土師器甕	(22.0)	(3.2)		ABDF	普通	褐色	5		
33	土師器甕	(20.2)	(4.7)		ABF	普通	明褐色	5		
34	土師器甕		(3.7)	4.5	ABF	普通	褐色	70		
35	土師器甕	(20.4)	(4.9)		ABCDEF	普通	明褐色	5		
36	土師器甕	(18.8)	(5.9)		ABDF	普通	明褐色	10		
37	土師器台付甕		(3.4)	(10.4)	ADF	普通	褐色	40		
38	土師器甕	(23.8)	(4.0)		BDF	普通	橙褐色	5		
39	土師器甕	(25.3)	(4.0)		ABF	普通	明褐色	5		

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
40	土師器鉢	(22.1)	(7.8)		A D F	普通	橙褐色	15		
41	土師器甕		(5.6)	(5.4)	A B F	普通	褐色	20		
42	土師器甕		(3.8)	(12.0)	A B D F	普通	褐色	5		
43	須恵器甕				A C D F片	良好	青灰色			未野産
44	須恵器甕				A C D F片	良好	茶灰色			未野産
45	須恵器鉢	(23.0)	(5.2)		A C D F片	普通	灰色	5		未野産
46	須恵器甕	(15.8)	(3.9)		C F片	普通	灰色	20		未野産

第49表 第25号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器								須恵器					鉄石器	
	鉢	皿	暗文鉢	鉢	甕	甕	台付甕	その他	鉢	蓋	鉢・鉢	高台鉢	皿・盤		甕
口縁部(片)	84	11	3	2	43		3	4	44	4	2			5	
(g)	365	65	94	90	510		35	250	212	34	45			75	
体部(片)	83		10		384				21	2				4	34
(g)	410		53		1760				120	30				120	770
底部(片)			1		3	2	15		19			4			2
(g)			22		28	275	245		250			87			90

第26号住居跡 (第65図)

調査区中央の63・64-11グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から西壁を経て南壁部分までの住居跡西側半分である。北側には第25号住居跡、南側には第29・30号住居跡が存在し、重複関係は、本住居跡が第29号住居跡を切り込む。

平面形態は不明であるが方形と推定される。残存規模は南北軸長4.24m、東西軸長2.50m、深さ40cmである。主軸方位はN-14°-Eである。

床面は、第5層のローム粒子、ロームブロックを主体とした黄褐色土によって貼り床され、ほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がり壁溝が巡る。

住居跡の掘り方は、西壁際に不整形な土塋を各コーナー部に確認した。

カマドは、北壁中央に構築され、ほぼ西側半分を検出し、東側は調査区外に伸びる。規模は、全長96cm、

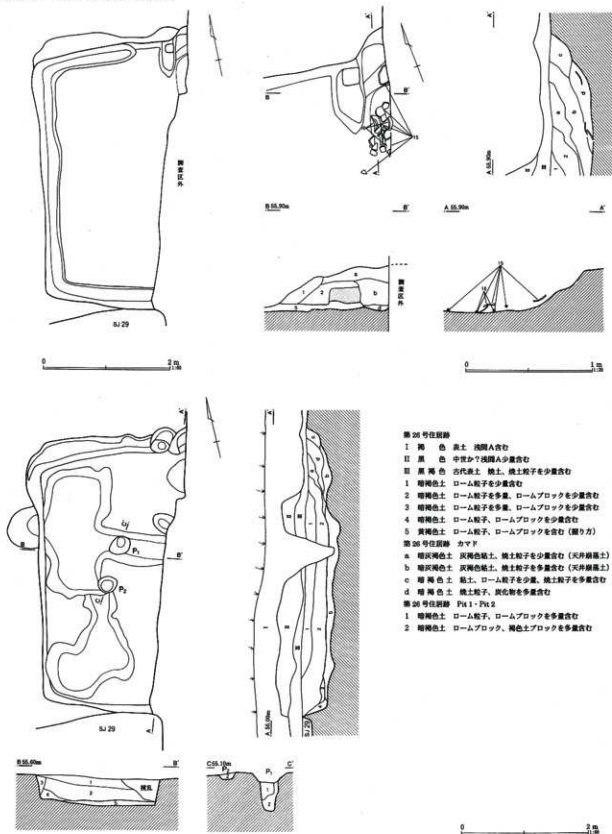
床面からの掘り込みの深さは5cmと浅く床面とほぼ同じ高さである。残存した左袖の構造は、荒掘り後に貼り床を施し、その上に粘土を貼り込んで構築していた。断面観察によると第a、b層は灰褐色粘土を含み天井崩落土である。カマド内の第d層中からは甕の破片をまとめて検出した。甕の出土位置が掛け口の可能性と考えられる。

遺物は、土師器鉢、暗文鉢、鉢、甕、須恵器鉢、蓋、甕を検出した。1は法量の小さい模倣鉢である。2、3は有段口縁部である。5～8は北武蔵型である。10は平底で口縁部の短い盤模倣の土師器である。11、12は鉢とした。図示した須恵器は13、14でありいずれも未野産である。土師器甕はカマド内から検出した。いずれも器内やや厚く、口縁部に最大径をもつ長胴甕である。胴部は縦ヘラケズリを施す。17は鉄製刀子である。

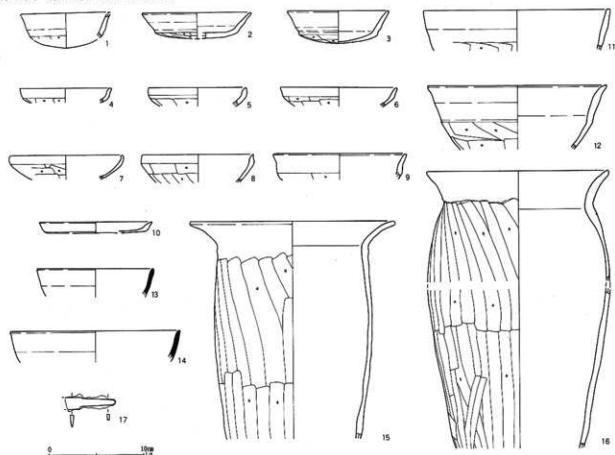
第50表 第26号住居跡出土遺物計量表

器種	土師器								須恵器					鉄石器	
	鉢	皿	暗文鉢	鉢	甕	甕	台付甕	その他	鉢	蓋	鉢・鉢	高台鉢	皿・盤		甕
口縁部(片)	11	1		2	7			1	3	1					1
(g)	89	4		90	1043			20	24	10					7
体部(片)	12		1		55				1					2	
(g)	83		2		370				3					41	
底部(片)														1	
(g)														34	

第65図 第26号住居跡・掘り方



第66図 第26号住居跡出土遺物



第51表 第26号住居跡出土遺物観察表 (第65・66図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	土師器環		(2.5)		ABDF	良好	淡褐色	10			
2	土師器環	(11.4)	(2.8)		ADF	普通	黒色	30		内外面黒色処理 模倣環	
3	土師器環	(10.7)	3.5		ABDEF	普通	淡褐色	40			
4	土師器環	(9.8)	(1.5)		ADF	普通	褐色	5			
5	土師器環	(10.4)	(1.9)		ADF	普通	褐色	5			
6	土師器環	(12.2)	(2.0)		ABDF	普通	褐色	5			
8	土師器環	(11.8)	(2.5)		ADF	普通	褐色	5			
9	土師器環	(11.7)	(2.9)		ABCDE F	普通	褐色	5			
9	土師器環	(14.0)	(2.7)		AD	普通	褐色	5			
10	土師器皿	(12.0)	(1.1)		ADF	普通	褐色	5			
11	土師器鉢	(20.0)	(4.3)		ABDE	普通	茶褐色	5			
12	土師器鉢	(19.0)	(6.7)		ABDE	普通	暗茶褐色	20			
13	須恵器環	(12.3)	(3.0)		ACDF片	普通	灰色	10		末野産	
14	須恵器環	(18.0)	(3.3)		ACDF片	普通	灰褐色	5		末野産	
15	土師器甕	(21.5)	(23.0)		ABCF	普通	褐色	40	871-Na1-2-3-4-5-6		
16	土師器甕	(19.2)	(29.4)		ABDEF	普通	褐色	30	871-Na3-4-5-SJ-25		
17	鉄製刀子	残存長 5.3、幅 1.3、厚さ 0.4cm、重量 7.3g									

第27号住居跡 (第67図)

調査区中央の62-11グリッドに位置する。本住居跡の西側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から

東壁の一部分であり、北東コーナー部にあたる。東側には第23・24号住居跡が存在し、重複関係はない。

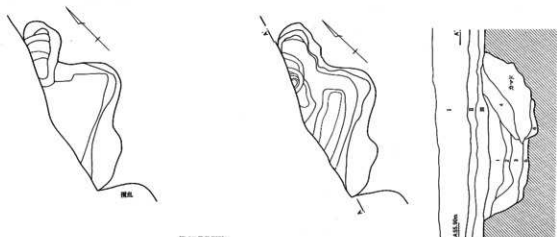
平面形態は不明、規模も不明。深さ47cmである。主軸方位はN-47°-Eである。

カマドは、北壁中央に構築され、ほぼ東側半分を検

出した。規模は、全長100cm、幅60cmである。

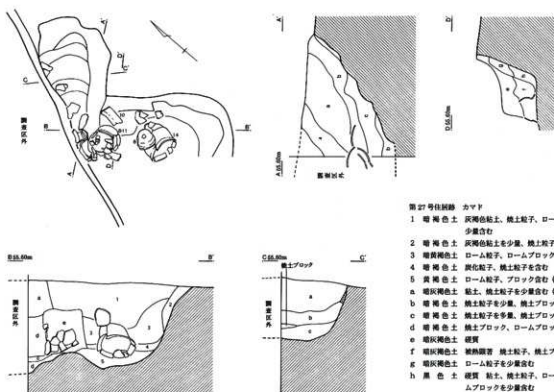
遺物は、土師器杯、鉢、甕、須恵器杯、甕を検出した。6は外面未調整、内面はナデを施し赤彩を施す。

第67図 第27号住居跡・掘り方・カマド



第27号住居跡

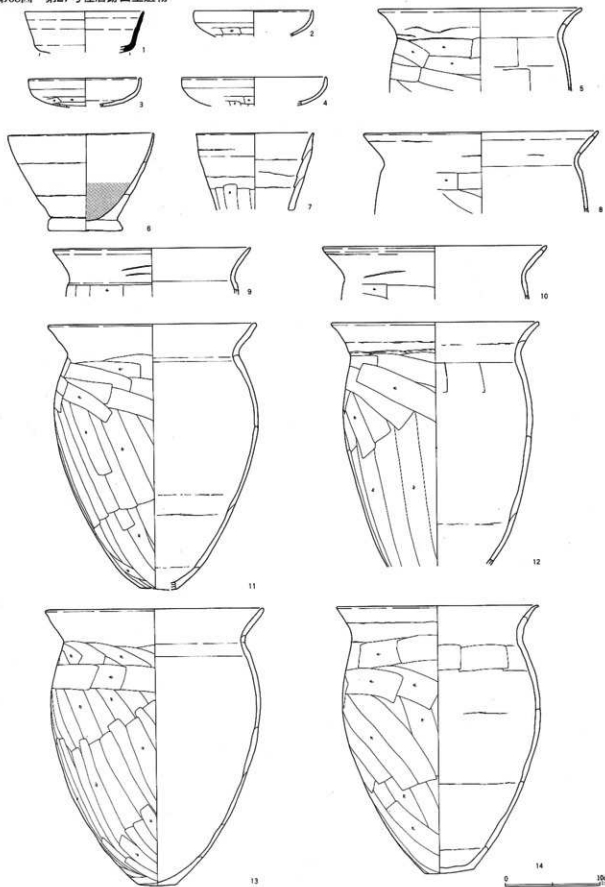
- 1 暗褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- 2 暗褐色土 焼土粒子を少量含む 須恵あり
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、焼土ブロックを少量含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む
- 5 暗黄褐色土 ロームブロックを多量含む
- 6 暗黄褐色土 5層に近接 焼土粒子、炭化物を少量含む



第27号住居跡 カマド

- 1 暗褐色土 灰褐色粘土、焼土粒子、ロームブロックを少量含む
- 2 暗褐色土 灰褐色粘土を少量、焼土粒子を多量含む
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 4 暗褐色土 炭化粒子、焼土粒子を含む
- 5 黄褐色土 ローム粒子、ブロック含む (掘り方)
- a 暗黄褐色土 粘土、焼土粒子を少量含む (天井崩落土)
- b 暗褐色土 焼土粒子を少量、焼土ブロックを多量含む
- c 暗褐色土 焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む
- d 暗褐色土 焼土ブロック、ロームブロックを多量含む
- e 暗黄褐色土 硬質
- f 暗黄褐色土 焼熟陶器 焼土粒子、焼土ブロック少量
- g 暗黄褐色土 ローム粒子を少量含む
- h 黒色土 硬質 粘土、焼土粒子、ローム粒子、ロームブロックを少量含む

第68図 第27号住居跡出土遺物



第52表 第27号住居跡出土遺物観察表 (第68図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	須恵器環	(12.6)	(4.3)		A C F片	普通	灰色	5	771-一括	未野産
2	土師器環	(12.5)	(2.7)		A D F	普通	褐色	20		
3	土師器環	(11.9)	(3.0)		A D F	普通	褐色	20		
4	土師器環	(15.4)	(3.0)		A D F	普通	褐色	20		
5	土師器甕	(21.5)	(8.8)		A D F	普通	褐色	30	771 ⁺	
6	土師器鉢	15.6	10.2	7.9	A B D E	普通	褐色	80	771 ⁺ No1	内面に赤色塗彩
7	土師器鉢	(12.4)	(8.1)		A D F	普通	褐色	10		
8	土師器甕	(24.7)	(8.6)		A B D F	普通	橙褐色	15	771 ⁺ No9-771 ⁺	
9	土師器甕	(20.9)	(5.0)		A B D F	普通	明褐色	10		
10	土師器甕	(23.6)	(5.6)		A B D F	普通	橙褐色	10	771 ⁺ No31	
11	土師器甕	22.0	28.0	3.8	A B C D E F	普通	茶褐色	70	771 ⁺ No9	
12	土師器甕	22.0	25.8		A B C D E F	良好	橙褐色	90	771 ⁺	
13	土師器甕	23.0	29.3	4.0	A B C D E F	普通	褐色	80	771 ⁺	
14	土師器甕	21.2	28.4	5.2	A D F	普通	褐色	90	771 ⁺ No2	

第53表 第27号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器							鉄石器
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甌	台付甕	その他	環	蓋	筒・鉢	高台環	皿・盤	壺	
口縁部(片)	13			2	22				2					1	1
(g)	95			455	5060				11					19	123
体部(片)	41				117										3
(g)	168				1551										49
底部(片)					1										
(g)					8										

第28号住居跡 (第69図)

調査区最南端の59-11・12グリッドに位置する。本住居跡の周辺には遺構の存在はない。北側45mに第37号住居跡が存在する。南西コーナー部は調査区外となる。また、北東コーナー部は攪乱を受けている。

平面形態は長方形である。規模は主軸長2.50m、副軸長3.76m、深さ25cmである。主軸方位はS-39°Eである。

床面は、ほぼ平坦である。住居内中央に床下土壌を検出した。直径83cm、深さ48cmである。覆土はロームブロックを多量に含む。壁溝は全周し、わずかに北西

コーナーで一部途切れる。

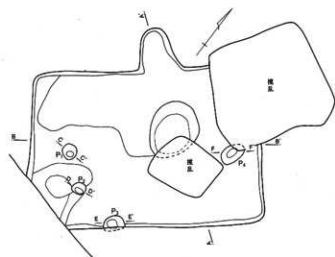
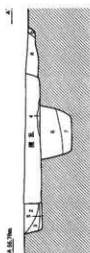
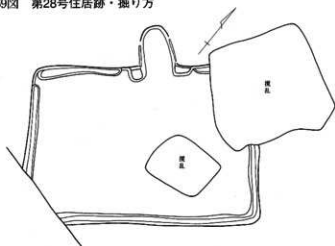
カマドは、北壁の中央に構築されている。規模は、全長78cm、焚き口幅45cm、焼成部の最大幅は43cm、掘り込みの深さはほとんどなく床面と同じ高さである。

遺物は、土師器環、暗文環、甕、甌、須恵器甕などを検出した。1~3は暗文環である。4は有段口縁環、5~9は北武蔵型環である。14は鉢型であり、甌の可能性もある。12、13、15、16、18~21は甕の口縁である。器内厚い。17は壺の口縁と考えられる。須恵器は甕の胴部破片を検出した。

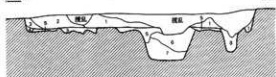
第54表 第28号住居跡出土遺物計量表

計量値	土師器							須恵器							鉄石器
	環	皿	暗文環	鉢	甕	甌	台付甕	その他	環	蓋	筒・鉢	高台環	皿・盤	壺	
口縁部(片)	16		4	1	37	1									
(g)	180		65	16	799	70									
体部(片)	20				205										7
(g)	125				1695										190
底部(片)					3										
(g)					80										

第69図 第28号住居跡・掘り方



B.M. 70m



第28号住居跡

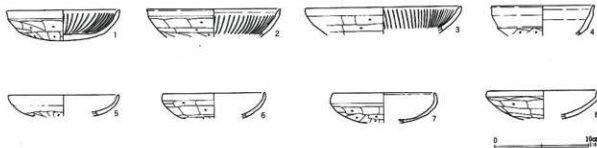
- 1 黒色土 焼土粒子、焼土ブロック、ローム粒子を少量含む
- 2 黒色土 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- 4 黒色土 ローム粒子、ロームブロックを含む
- 5 黒色土 ロームブロックを含む(掘り方)
- 6 暗褐色土 ロームブロックを多量含む
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量含む(黒味強い)
- 8 黒色土 ローム粒子を含む

第28号住居跡 カマド

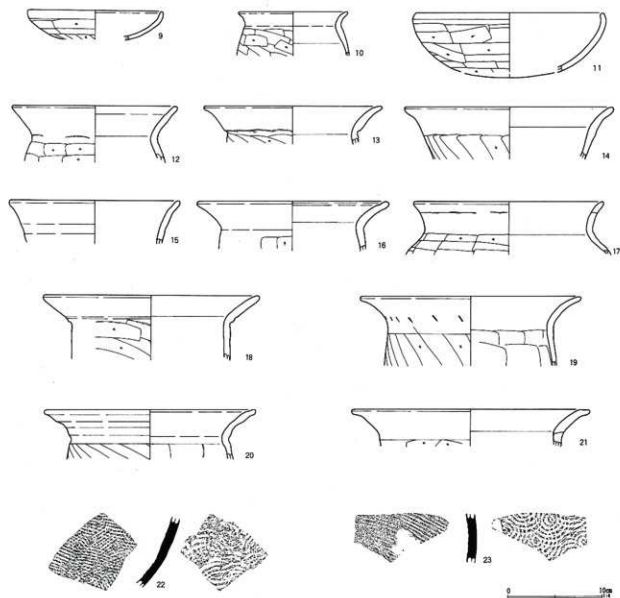
- a 暗褐色土 焼土粒子を多量、ローム粒子、ロームブロックを少量含む
- b 暗褐色土 焼土粒子を少量、ローム粒子を多量含む

0 2m

第70図 第28号住居跡出土遺物(1)



第71图 第28号住居跡出土遺物(2)



第55表 第28号住居跡出土遺物觀察表 (第70・71图)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色调	残存率	出土位置	備考
1	土師器环	(12.0)	3.3		ABCDEF	良好	橙褐色	30		放射状暗文 放射状暗文 放射状暗文
2	土師器环	(14.0)	(3.0)		ABCDEF	普通	明褐色	15		
3	土師器环	(16.6)	(2.8)		ABDEF	普通	褐色	20		
4	土師器环	(11.0)	(3.2)		AD	普通	茶褐色	10		
5	土師器环	(11.8)	(2.2)		ABCDEF	普通	暗褐色	20		
6	土師器环	(10.8)	(2.7)		ABCDEF	普通	褐色	15		
7	土師器鉢	(10.7)	(3.2)		ACDEF	普通	褐色	20		
8	土師器环	(12.0)	(3.1)		ABCDEF	普通	褐色	20		
9	土師器环	(14.2)	(3.0)		ABCDEF	良好	褐色	20		
10	土師器鉢	(11.4)	(4.6)		ABCDEF	普通	橙褐色	10		
11	土師器碗	(20.0)	(6.8)		ABCDEF	普通	褐色	20		
12	土師器甕	(17.4)	(5.9)		ABCDEF	普通	褐色	5		
13	土師器甕	(19.0)	(4.1)		ABCDEF	普通	褐色	10		

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
14	土師器瓶	(22.0)	(5.5)		ABCDEF	普通	褐色	10		
15	土師器甕	(20.0)	(4.5)		ABCDEF	普通	褐色	10		
16	土師器甕	(20.0)	(5.2)		ABCDEF	普通	褐色	10		
17	土師器甕	(20.0)	(5.6)		ABCDEF	普通	橙褐色	20		
18	土師器甕	(22.8)	(6.8)		ABCDEF	普通	褐色	10		
19	土師器甕	(23.2)	(7.4)		ABDE	普通	褐色	10		
20	土師器甕	(22.4)	5.2		ABCDEF	普通	褐色	10		
21	土師器甕	(25.0)	(3.8)		ABCDEF	普通	褐色	5		
22	須恵器甕				ACDF片	良好	褐灰色			木野産
23	須恵器甕				ACDF片	良好	青灰色			木野産

第29号住居跡(第72・73図)

調査区中央の64-10・11グリッドに位置する。本住居跡の東側は調査区外となり遺構の一部が伸びる。重複遺構は北東コーナーが第26号住居跡を切り込み、西側の第30号住居跡を切り込んでいた。新旧関係は第26号、第30号、第29号、の順で立て替えがおこなわれたものと半断される。

平面形態は長方形である。規模は主軸長4.10m、副軸長2.76m、深さ21cmである。主軸方位はN-81°-Eである。

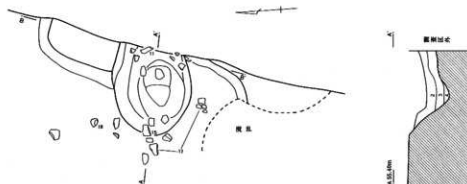
床面は、ローム粒子を多量に含む第4層に見られる

貼り床によってほぼ平坦である。壁溝は全周し、わずかに北西コーナーで一部途切れる。

カマドは、北壁のやや東寄りに構築されている。左袖の一部と焚き口部を検出し、煙道部は調査区外である。残存規模は、全長67cm、焚き口幅62cm、掘り込みの深さは30cmである。

遺物は、カマド周辺から、台付甕、甕を検出した。また、住居中央部からは須恵器壺の破片や鉢を検出した。第30号住居跡寄りの南壁際からは須恵器の高台付皿や甕の破片を検出した。

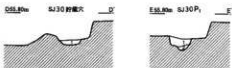
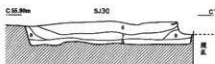
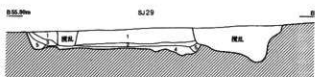
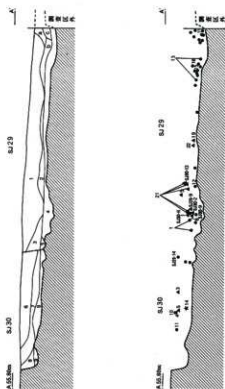
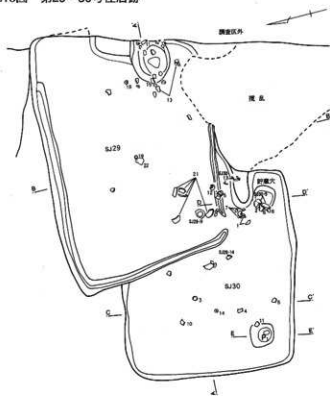
第72図 第29号住居跡カマド



第29号住居跡 カマド

- 1 黒色土 中位の硬質土
- 2 褐色土 粘土粘土粒子、粘土粒子を少量含む
- 3 褐色土 粘土粘土を多量、ローム粒子を少量、灰色粘土を含む
- 4 明褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 5 明褐色土 粘土粘土を少量、ローム粒子、褐色土、灰白色粘土を含む
- 6 褐色土 粘土粘土、ローム粒子を少量含む

第73図 第29・30号住居跡



第29号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
- 3 黒色土 焼土粒子、ローム粒子少量、ロームブロックをまばらに含む
- 4 褐色土 ローム粒子を多量含む
- 5 暗褐色土 黒色土、ローム粒子、ロームブロックを含む
- a 暗褐色土 焼土粒子、黄褐色焼土粒子を含む
- b 暗褐色土 焼土粒子、黄褐色焼土粒子を今多量に含む
- c 赤褐色土 焼土粒子を多量含む

第30号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、焼土ブロックを少量含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子を多量含む
- 4 赤褐色土 ローム粒子を主体、黒色土ブロックを含む

第30号住居跡 野糞穴

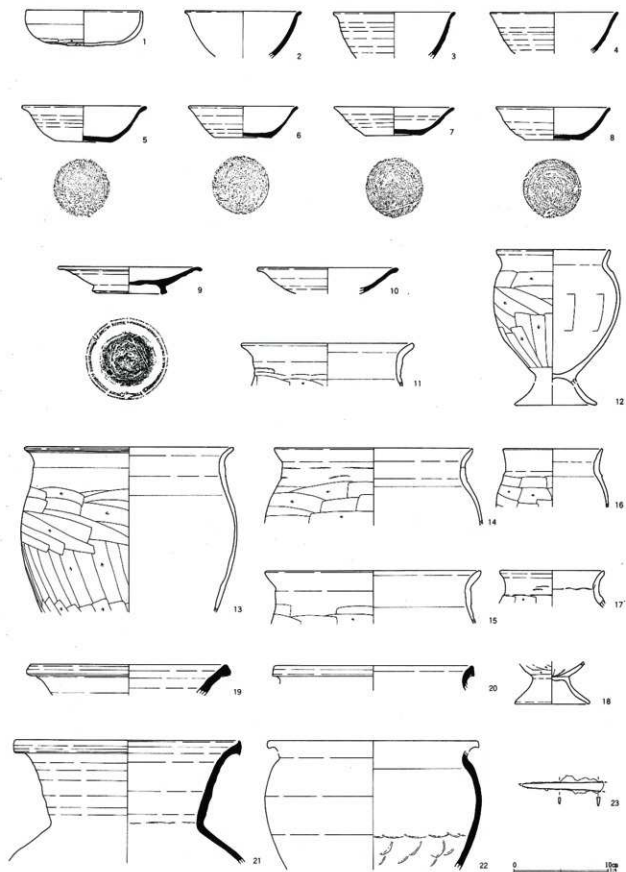
- 1 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子を少量含む

第30号住居跡 P1

- 1 黒色土 ローム粒子を多量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含む



第74図 第29号住居跡出土遺物



第56表 第29号住居跡出土土物観察表 (第74図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器環	(12.4)	3.7		ABCDEF	普通	茶褐色	40	掘込内	内面頂点剥離
2	須恵器環	(12.4)	(4.9)		ACDF片	普通	茶褐色	10		未野産
3	須恵器高台環	(12.8)	(4.9)		ACDF片	普通	灰褐色	10		未野産
4	須恵器環	(13.4)	(4.3)		ACDF片	普通	褐灰色	20		未野産
5	須恵器環	(13.0)	3.8	6.0	ACDF片	普通	灰色	50	No.20	未野産
6	須恵器環	11.3	3.4	6.0	ACDF片	良好	青灰色	60	掘込内	未野産
7	須恵器環	12.6	3.0	6.0	ACDF片	普通	青灰色	90	掘込内	未野産
8	須恵器環	12.1	3.5	6.3	ACDF片	良好	紫灰色	70	掘込内	未野産
9	須恵器高台皿	(15.4)	2.8	7.0	ACDF片	普通	灰色	70	No.23	未野産 重ね焼き痕
10	須恵器皿	(14.6)	(2.8)		ACDF片	普通	灰褐色	20		未野産
11	土師器甕	(18.0)	(4.6)		ABCDEF	普通	褐色	20	47b No.4	
12	土師器台付甕	12.0	(14.3)		ADF	普通	褐色	90	No.19	
13	土師器甕	(22.0)	(17.4)		ABDEF	普通	茶褐色	20	No.2 No.8	
14	土師器甕	(21.0)	(8.2)		ABCDEF	良好	褐色	50	No.25 SJ-30	
15	土師器甕	(22.7)	(5.6)		ABCDEF	普通	茶褐色	20	No.6	
16	土師器台付甕	(10.4)	(6.1)		ABCDEF	普通	褐色	20		
17	土師器台付甕	(11.0)	(3.8)		ABCDEF	良好	褐色	20		
18	土師器台付甕	(4.5)		7.8	ABCDEF	良好	褐色	80	No.10	
19	須恵器甕	(20.6)	(3.2)		ACDF片	良好	黒灰色	5	No.13	未野産
20	須恵器鉢	(20.8)	(3.6)		ACDF片	普通	灰色	5		未野産
21	須恵器甕	24.0	(12.9)		ACDF片	良好	灰色	80	No.16-17-18-22-24	未野産 焼きひずみ有り
22	須恵器鉢		(12.3)		ACDF片	良好	暗灰色	20	No.14	未野産
23	鉄製刀子	残存長 8.7、幅 0.9、厚さ 0.3cm、重量 9.1g							SJ-23-24	刃部

第30号住居跡 (第73・75図)

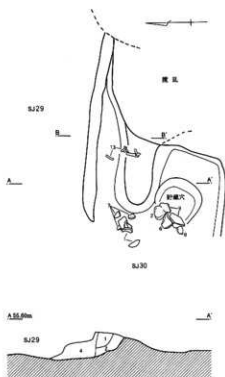
第75図 第30号住居跡カマド

調査区中央の64・10・11グリッドに位置する。本住居跡は第29号住居跡と重複関係にあり、北東部分が第29号住居跡によって切られていた。

平面形態は長方形である。規模は主軸長3.20m、副軸長2.74m、深さ27cmである。主軸方位はN-78°-Eである。

床面は、ローム粒子を多量に含む第4層に見られる貼り床によってほぼ平坦である。壁際は全周し、わずかに北西コーナーで一部途切れる。

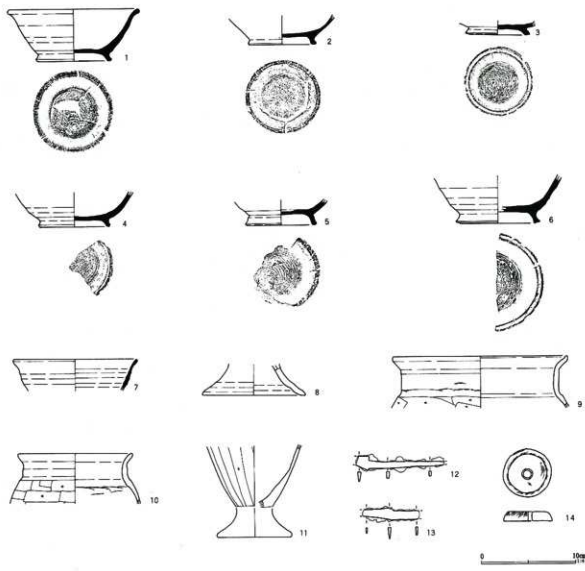
カマドは、東壁に構築されていた。右袖の一部と焚き口部から煙道部の一部を検出した。貯蔵穴はカマド右側の東南コーナー部に検出し、規模は長さ37cm、深さ10cmである。



第30号住居跡 カマド

- 1 暗褐色土 粘土粒子、焼土粒子を含む
- 2 褐色土 ローム粒子、焼土粒子を含む 中々粘性有り
- 3 明褐色土 2層に近似
- 4 黒色土 焼土粒子、炭化物を中々多量に含む
- 5 褐色土 粘質土 焼土粒子、ローム粒子を少量含む

第76図 第30号住居跡出土遺物



第57表 第30号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	燒成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	須恵器高台杯	(13.6)	5.5	7.0	ABCDF片	不良	褐灰色	60	No9-10-471-掘り方-SJ20	未野産	
2	須恵器高台杯	(3.1)	6.2	6.2	ACDF片	良好	灰色	80	No12	未野産	
3	須恵器高台杯	(1.5)	(6.0)	(6.0)	AC片	良好	黒灰色	95	No2	未野産	
4	須恵器高台杯	(3.7)	(7.2)	(7.2)	ACDF片	良好	灰色	20	No6	未野産	
5	須恵器高台杯	(2.7)	(6.6)	(6.6)	BCDF片	不良	黄灰色	60	No8	未野産	
6	須恵器高台杯	(5.1)	(7.6)	(7.6)	ACDF片	良好	灰色	40	No13	未野産	
7	須恵器杯	(13.0)	(3.3)	(3.3)	ACDF片	普通	灰色	20	No11	未野産	
8	土師器台付羹	(3.3)	(11.0)	(11.0)	ABDEF	普通	褐色	45	No15		
9	土師器羹	(18.6)	(5.4)	(5.4)	ABDEF	普通	茶褐色	45	No14		
10	土師器台付羹	(12.2)	(5.3)	(5.3)	ABDEF	普通	茶褐色	25	No3		
11	土師器台付羹	(6.4)	(6.4)	(6.4)	ABCDF	普通	褐色	30	No7		
12	鉄製刀子	残存長 9.3、幅 1.5、厚さ 0.3cm、重量 12.3g									
13	鉄製刀子	残存長 5.9、幅 1.3、厚さ 0.3cm、重量 6.3g							No16		
14	石製紡車	大径 5.2、小径 4.2、孔径 0.8cm、重量 52.1g						100	No4		

遺物は、住居跡全体の床面から検出された。カマドおよび貯蔵穴付近から須恵器高台付環、土師器甕、台

付甕、鉄製刀子を出土し、住居内の中央から石製紡車を出土した。

第58表 第29号住居跡出土遺物計量表

器種 計量値	土師器								須恵器						鉄石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	28	1			4		3		43		1	1	2	1	9	2
(g)	185	8			55		424		511		10	11	106	29	952	11
体部(片)	68		2	1	320			28	1	3				1	6	
(g)	204		13	53	1345			100	8	166				27	104	
底部(片)					5		6	6			1	1				
(g)					165		175	70			7	22				

第59表 第30号住居跡出土遺物計量表

器種 計量値	土師器								須恵器						鉄石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	5				2	1	1		4			3				2
(g)	72				141	25	62		22			138				19
体部(片)	6				15			7							2	
(g)	22				85			51							107	紡車
底部(片)					1		台部1				台部5					1
(g)					36		49				271					52

第31号住居跡 (第77図)

調査区中央の64・65-10グリッドに位置する。本住居跡の北側には第29・30号住居跡が存在する。第17号溝跡と重複関係をもち、住居跡中央部を東西方向に切られていた。

平面形態は長方形である。規模は主軸長6.84m、副軸長3.86m、深さ20cmである。主軸方位はN-18°-Wである。

床面は、ほぼ平坦である。壁溝はもたない。

カマドは、北壁の中央部に構築されている。規模は、全長68cm、焚き口幅50cm、焼成部の最大幅は50cm、掘り込みの深さは18cmである。貯蔵穴は、カマド右側の北東コーナー部に検出した。形態は隅丸長方形で、規模は長軸43cm、短軸36cm、深さ14cmである。

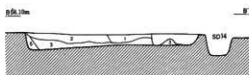
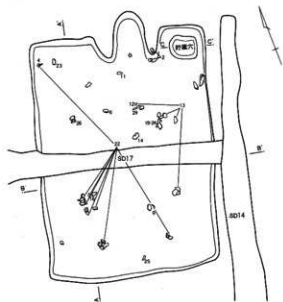
遺物は、住居跡床面上の全体やカマド内からも出土し、土師器環、甕、台付甕、須恵器環、蓋、椀、高台付環、皿、壺、甕などを検出した。

須恵器はいずれも未野産である。環は底部糸切り離しのままである。9はやや丸底気味の形態をもち土師器の環は平底の形態で底部外面をヘラケズりする。甕はいずれも「コ」の字状口縁甕である。19、20は口唇部先端に棒状工具により、外面に沈線状の凹みをもつ。22は「コ」の字の形態がやや崩れ器肉を厚くする。輪積み痕は底部と胴部の中間点と口縁部下端の2ヶ所に明瞭にもつ。台付甕はやや大型の27と小型の24を検出した。29は鉄製刀子である。

第60表 第31号住居跡出土遺物計量表

器種 計量値	土師器								須恵器						鉄石器	
	環	皿	暗文環	鉢	甕	瓶	台付甕	その他	環	蓋	椀・鉢	高台環	皿・盤	壺		甕
口縁部(片)	33				26		7		21		3	1	2			1
(g)	317				1097		172		295		40	245	12			24
体部(片)	46				196		15	17	1					2	2	
(g)	186				807		40	70	20					158	27	
底部(片)					7		台部8	4			3	1				
(g)					98		295	80			93	30				

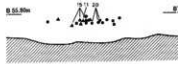
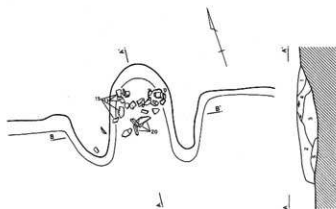
第77図 第31号住居跡・カマド



第31号住居跡

- 1 灰褐色土 焼土粒子、ローム粒子を少量、火山灰(洗灰A)を含む
- 2 黒褐色土 焼土粒子、炭化物を少量、黒色土、ロームブロックをまばらに含む
- 3 暗褐色土 ソフトローム粒子を多量、黒色土ブロックを含む
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子を多量含む

0 1 2 3m

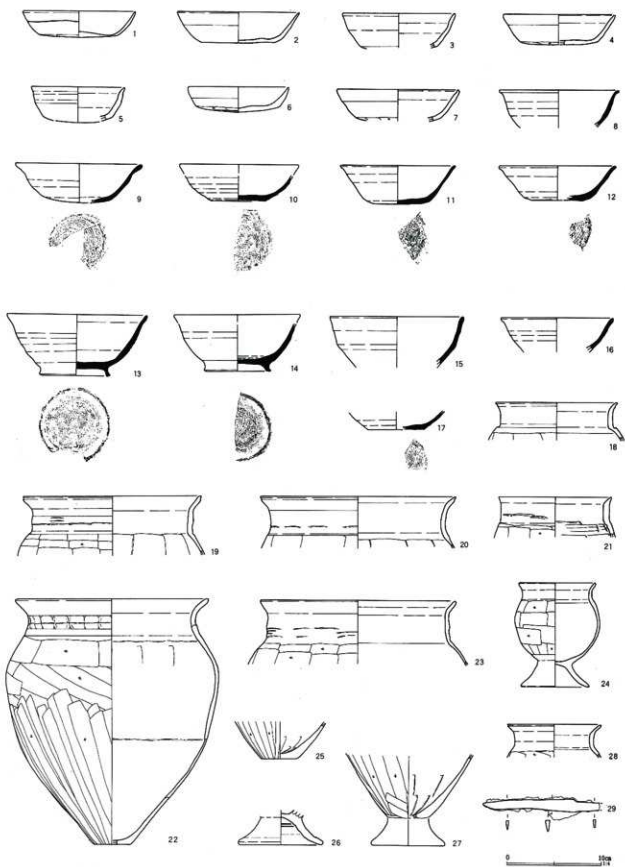


第31号住居跡 カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 焼土粒子、炭化物を多量、黄灰色粘土ブロックを含む
- 3 褐色土 焼土粒子、粘土ブロックを多量含む
- 4 黄褐色土 黄灰色粘土ブロックを含む
- 5 黄褐色土 黄灰色粘土粒子、ローム粒子を含む
- 6 黄灰色粘土 粘性强
- 7 灰色粘土 粘性强
- 8 黄灰色粘土 ローム粒子、焼土粒子を含む
- 9 黄褐色土 ロームブロックを含む (崩り方)

0 1 2 3m

第78图 第31号住居跡出土遺物



第61表 第31号住居跡出土遺物観察表 (第78回)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考	
1	土師器坏	12.0	2.8	9.5	A B D E	普通	黒褐色	25			
2	土師器坏	13.0	3.2	7.8	A B D	不良	茶褐色	40	No.21-No.22		
3	土師器坏	(12.0)	(3.5)	(7.6)	D	普通	茶褐色	20			
4	土師器坏	(11.6)	3.1		D E	不良	茶褐色	25	No.31		
5	土師器坏	(9.8)	(3.7)		A D	普通	赤褐色	15			
6	土師器坏	(10.6)	2.6	8.7	A B D F	普通	橙褐色	30	No.10		
7	土師器坏	12.8	(3.3)		D	普通	赤褐色	25			
8	須恵器坏	(12.7)	(4.0)		A D F片	普通	茶褐色	20		未野産	
9	須恵器坏	13.4	4.3		A C D片	普通	黄灰色	50	No.14	未野産	
10	須恵器坏		(2.7)	5.5	A C F片	不良	赤褐色	30		未野産	
11	須恵器坏	12.4	4.2	5.6	A C D F片	不良	暗灰色	20	No.11・#71・No.11	未野産	
12	須恵器坏	(12.3)	3.6	(5.6)	A C D F片	普通	暗灰色	20	No.7	未野産	
13	須恵器高台坏	14.8	6.5	7.6	C D F針	普通	暗灰色	95	No.3-No.4-No.7-No.13	南比企産	
14	須恵器高台坏		(5.0)	6.8	A C D E片	不良	暗灰色	40	No.9	未野産	
15	須恵器坏	(14.4)	(5.4)		A E F	不良	暗灰色	40	#71・No.5-7-12・覆土		
16	須恵器坏	12.0	(3.6)		A C D F片	不良	青灰色	25	No.15	未野産	
17	須恵器坏		(1.9)	(6.0)	A C F片	良好	灰色	20		未野産	
18	土師器台付甕	(12.8)	(4.0)		D E F	普通	赤褐色	5			
19	土師器甕	19.0	(6.2)		A B D E	普通	赤褐色	80	No.5		
20	土師器甕	(20.8)	(5.5)		A B D E	普通	赤褐色	50	#71・No.1-No.2-No.3		
21	土師器台付甕	(12.0)	(4.2)		A D E	普通	黒褐色	20			
22	土師器甕	20.4	26.0	3.8	A B C D E F	良好	褐色	70	No.17-18-20-25-27-28-31・量り方		
23	土師器甕	(20.8)	(6.7)		A D E F	普通	赤褐色	10	No.30		
24	土師器台付甕	(8.1)	11.0	7.1	A B F	普通	暗褐色	50	No.5		
25	土師器甕		(4.0)	3.6	A D E	不良	赤褐色	30	No.19		
26	土師器台付甕		(3.7)	9.0	A D	普通	赤褐色	75	No.29		
27	土師器台付甕		(6.5)		A B D E	普通	黒褐色	70			
28	土師器台付甕	(9.9)	(3.5)		A D	普通	橙褐色	10			
29	鉄製刀子	残存長 12.4、幅 1.4、厚さ 0.4cm、重量 24.4g							No.8		

第32号住居跡 (第79回)

調査区中央の64・65-10グリッドに位置する。本住居跡の西側は調査区外となり、検出した遺構は北壁から東壁の一部である。東側には第33号住居跡、南側には34号住居跡が存在する。

平面形態は方形と推定される。規模は南北軸長4.18m、東西軸長2.55m、深さ20cmである。主軸方位はN-48°-Eである。

床面は、荒掘りされた面にローム粒子、ロームプロ

ックを充填し貼り床しほぼ平坦である。掘り方は住居跡の中心を大きく円形に掘り下げる。壁溝は全周する。柱穴は東壁に並行してP1、P2を検出した。P1は径42cm、深さ62cm、P2は径32cm、深さ44cmである。

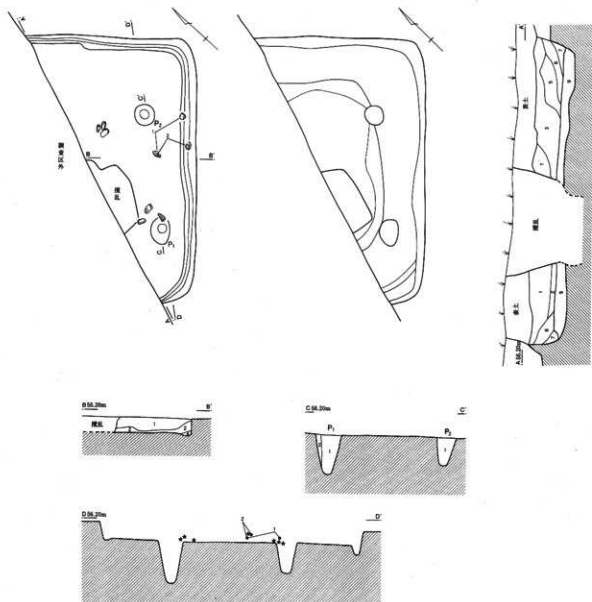
カマド、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、東壁際に1、2の土師器坏を検出した。丸底で体部はヘラケズリされ、口縁部は幅の短いヨコナデを施す。

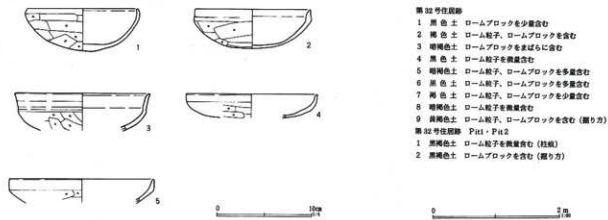
第62表 第32号住居跡出土遺物観察表 (第80回)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	出土位置	備考
1	土師器坏	11.7	4.5		A D F	普通	暗褐色	70	No.1-No.3	
2	土師器坏	12.2	4.2		A D F	普通	褐色	95	No.2-No.3	
3	土師器坏	(14.5)	(4.0)		A B F	普通	橙褐色	5		
4	土師器坏	(13.9)	(2.5)		A B D F	普通	褐色	10		
5	土師器坏	(15.3)	(2.6)		A D	普通	褐色	5		

第79図 第32号住居跡・掘り方



第80図 第32号住居跡出土遺物



第32号住居跡

- 1 黒色土 ロームブロックを少量含む
 - 2 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む
 - 3 暗褐色土 ロームブロックをまばらに含む
 - 4 黒色土 ローム粒子を微量含む
 - 5 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
 - 6 黒色土 ローム粒子、ロームブロックを多量含む
 - 7 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含む
 - 8 暗褐色土 ローム粒子を微量含む
 - 9 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む (掘り方)
- 第32号住居跡 P1・P2
- 1 黒褐色土 ローム粒子を微量含む (柱礎)
 - 2 黒褐色土 ロームブロックを含む (掘り方)